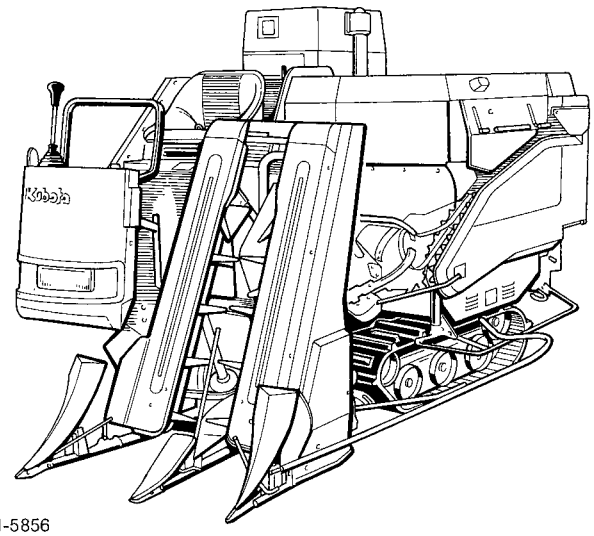
クボタコンバイン

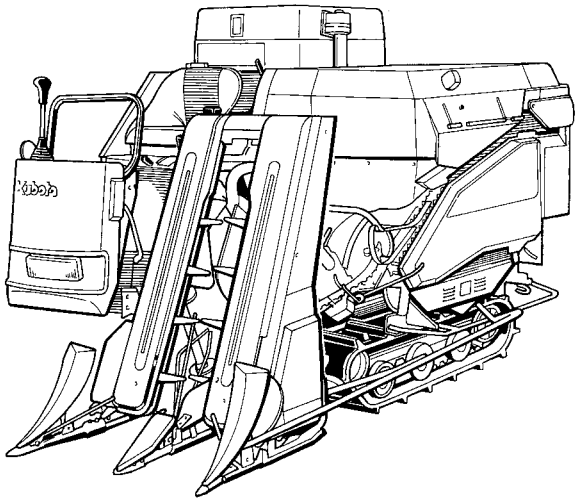
取扱説明書

スカイロード ヒット

R1-111(SWK)
R1-121A



M-5856



M-5855

安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ホーン

ウインカランプの操作方向

エンジン回転数“低速”

エンジン回転数“高速”

ヘッドランプ

ヘッドランプと作業灯

エンジン停止

エンジン油圧

バッテリ充電

グロー(エンジン予熱)

専門用語の説明

- グロー …… エンジンの始動を容易にするための予熱
- パワーステアリングレバー …… 操向操作レバーと刈取部昇降レバー
- デバイダ …… こくかんを分けすくい上げる部分
- ドレーン(プラグ) …… エンジンオイル·トランスミッションオイルの排油栓·ラジエータの水を抜く栓
- ホッパ …… 精選されたこく粒を袋詰めするまで一時貯蔵するもみタンク
- １番スクリュ …… 精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
- ２番スクリュ …… 粗選されたこく粒やわらクズを横搬送するクスリュコンベア
- トウミ …… 選別風を発生させるファン
- こぎ胴 …… 脱こくするドラム
- フィードチェーン …… 稲を狭持搬送するチェーンコンベア
- 縦スクリュ …… 精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
- フルアップこぎ胴 …… こぎ胴を上に上げる機構
- 揺動板(シーブケース) …… 揺動運動してこく粒を選別する装置

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。
また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

52166-8542-5

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取り・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明はR1-121AのD仕様を基本とし，R1-121AのD仕様と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。

＊エンジン馬力によって…… “R1-121A仕様” “R1-111仕様”
＊自動こぎ深さ制御装置付き
＊マイコン装置付き
＊集中注油装置付き
} …… “K，D仕様”
＊自動方向制御装置付き…… “D仕様”
＊ワイドクローラ付き…… “W仕様”
＊強湿田機…… “SWK仕様” 【R1-111】

コンバインを安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から刈取り作業まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全に作業するために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し，必ず守ってください。

動かす前に諸装置を理解しましょう

2．**諸装置の説明：**諸装置のはたらきをまず理解し，間違った操作をしないでください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，毎作業前の点検内容を理解し，必ず実施してください。

最初にエンジンの安全基本操作を体得しましょう

4．**エンジンの始動と停止：**機体の突然の発進をさせないため，エンジンの始動手順と停止を体得してください。

次にコンバインの安全走行のための基本操作を体得しましょう

5．**コンバインの運転：**

(1)安全に機械を前進・後進・停車させる基本操作を体得してください。

(2)毎作業前に点検を必ず実施してください。

(3)コンバインをほ場へ安全に移動させるため，安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業，トラックへの安全な積込み・積降しと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

自動装置でコンバインの性能を最大に発揮させましょう

6．**自動装置の使いかた：**各種自動装置のはたらきと扱いかたを体得してください。

では実際にほ場で刈取り作業を始めてみましょう

7．**上手な収穫作業のしかた：**作業前の諸装置の取付け，作物とほ場条件にあった各部の正しい調整，安全で正しい刈取り作業を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

8．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，刈取りシーズン前後・長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

コンバインがもしもの不調のときは

9．**コンバインの不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき，現象に応じて，処置をしてください。

目　次

⚠安全に作業するために … ⚠-1

1.安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。 …… ⚠-1

2.⚠表示ラベルと貼付け位置 …… ⚠-12

3.⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-22

サービスと保証について …… 1

機体方向説明 …… 2

諸装置の説明 …… 3

スイッチとメータパネル …… 3

メインスイッチ …… 4
コンビネーションスイッチ …… 4
ホーンスイッチ …… 4
積算時間計(アワーメータ) …… 4
エンジン回転計 …… 4
イージーチェッカ …… 5

運転装置 …… 6

主変速レバー …… 7
副変速レバー …… 7
アクセルレバー …… 7
脱こくクラッチレバー …… 7
刈取りクラッチレバー …… 7
パワーステアリングレバー …… 7
走行クラッチペダル …… 8
駐車ブレーキレバー …… 8
バックミラー …… 8

自動装置 …… 9

自動エンジン停止 …… 10
自動こぎ深さ切換スイッチ …… 10
自動方向制御スイッチ【D仕様】 …… 10
こぎ深さ手動スイッチ …… 10

運転前の点検 …… 11

日常点検項目 …… 11

燃料の点検 …… 12
冷却水の点検 …… 12
エンジンオイルの点検 …… 12
イージーチェッカの点検 …… 12
防じんあみの清掃 …… 12
ラジエータフィンの点検 …… 13
エアクリーナの清掃 …… 13
マフラ排気管の清掃 …… 13
刈取り駆動ベルトの点検 …… 13
ベルトカバー内の清掃 …… 13
縦スクリュケース，2番スロワ内の清掃 … 13
油差しでの注油箇所 …… 14
集中注油装置 …… 15

エンジンの始動と停止 …… 16

エンジンの始動 …… 16

1.駐車ブレーキをかける …… 16
2.各種レバー位置を確認する …… 16
3.アクセルレバーをセットする …… 16
4.走行クラッチペダルをいっぱいに踏込んでください …… 16
5.メインスイッチの操作 …… 17

寒冷時のエンジンの始動 …… 18

燃料切れ後の再始動のしかた …… 18

エンジンの停止 …… 19

コンバインの運転 …… 20

新車時の扱い方 …… 20

初期50時間のならし運転 …… 20
油脂・フィルタ類の交換とチェーン・ベルトの張り調整 …… 20

発進 …… 20

1.バックミラーの確認 …… 20
2.コンビネーションスイッチ …… 20
3.ホーンスイッチの操作 …… 21
4.刈取部を上げる …… 21
5.走行速度の選択 …… 21
6.駐車ブレーキの解除 …… 22
7.発進と操向 …… 22

停車 …… 23

1.停車のしかた …… 23
2.駐車ブレーキ操作 …… 23

エンジン運転中の異常点検 …… 23

イージーチェッカ …… 23

移動走行前の準備 …… 25

トラックへの積込み・積降し …… 26

積込み・積降しのしかた …… 26

自動装置の使いかた …… 27

自動方向制御装置【D仕様】 …… 27
自動こぎ深さ制御装置 …… 27

こぎ深さ手動スイッチ …… 28
自動エンジン停止 …… 28
供給搬送詰まり警報 …… 28
上手な収穫作業のしかた …… 29
コンバイン作業ができる作物とほ場の条件 …… 29
作物の条件 …… 29
ほ場の条件 …… 29
コンバイン作業前の準備 …… 30
ほ場の手刈り …… 30
ほ場への乗入れ(あぜ越え) …… 30
もみ袋の取付け …… 30
補助デッキ …… 31
分草かん …… 31
排わら処理装置の選択 …… 31
作物条件に応じた各部の調整 …… 31
刈取り高さの調節方法 …… 31
デバイダの調節方法 …… 32
コンバイン作業について …… 33
アクセルレバー操作のしかた …… 34
パワーステアリングレバー操作のしかた …… 34
走行クラッチペダル操作のしかた …… 34
主変速レバー・副変速レバー操作のしかた …… 35
脱こくクラッチレバー操作のしかた …… 36
刈取りクラッチレバー操作のしかた …… 38
刈取り作業の手順 …… 38
こぎ深さの調節 …… 39
刈取部の条合わせのしかた …… 39
ほ場内での旋回のしかた …… 40
刈取り作業のしかた …… 40
手こぎ作業のしかた …… 42
刈取り作業中のもみ満杯警報 …… 43
カッタの取扱いについて …… 44
カッタ作業とバラ落し作業の切換え …… 44
オーバヒート時の注意事項 …… 44
メンテナンス …… 45
定期点検と処置 …… 45
定期点検と調整一覧表 …… 46
定期交換一覧表 …… 48
注・給油(水)一覧表 …… 49
各部開閉のしかた …… 50
エンジンルームのフルオープン …… 50
こぎ胴オープン …… 50
供給レールオープン …… 51
カッタオープンのしかた …… 51
各部の脱着のしかた …… 52
こぎ胴受あみの脱着のしかた …… 52
カッタの脱着のしかた …… 53
機内の掃除のしかた …… 54
掃除口の箇所 …… 55
排わらチェーン部,切断部の点検・掃除のしかた …… 56
作業シーズン前後のメンテナンス … 56
バッテリの点検と交換 …… 56
冷却水の交換 …… 58
各部グリースの補給 …… 58
定期点検と調整 …… 59
エアクリーナエレメントの清掃 …… 59
ラジエータホースの締付け・点検 …… 59
フューエルフィルタの清掃 …… 59
ファン駆動ベルトの張り調整 …… 60
ラジエータ吸気部の清掃 …… 60
エンジンオイルの点検と交換 …… 60
トランスミッションケースオイルの点検と交換 …… 61
油圧オイルタンクのオイル …… 62
こぎ胴ケースのオイル …… 62
フィードチェーン駆動ケースのオイル …… 62
アクセルワイヤの調整 …… 62
燃料こしあみの清掃 …… 63
パワーステアリングレバー …… 63
駐車ブレーキレバーの調整 …… 63
駐車ブレーキの調節 …… 63
トルクリミッタの調整 …… 64
供給搬送詰まり警報の調整 …… 64
各部のベルト調整 …… 65
フィードチェーンの張り調整 …… 67
クローラの張り調整 …… 67
ワイヤハーネス,バッテリ⊕コードの点検 …… 67
電気配線・ヒューズの点検 …… 68
引起しチェーンの張り調整 …… 68
株元供給チェーンの調整 …… 69
穂先供給チェーンの調整 …… 69
排わら株元チェーンの張り調整 …… 69
排わら穂先チェーンの張り調整 …… 69
刈刃のすき間調整 …… 69
定期交換 …… 70

エアクリーナエレメントの交換 …… 70
ラジエータホースの交換 …… 70
フューエルゴムホースの交換 …… 70
エンジンオイルフィルタ
カートリッジの交換 …… 71
フューエルフィルタの交換 …… 71
ファン駆動ベルトの交換 …… 71
刈刃の交換 …… 71
排わら穂先搬送爪の交換 …… 71
わら切刃の交換 …… 72
カッタ刃の交換のしかた …… 72
長期格納のしかた …… 74
各部の清掃と補修 …… 74
ラジエータ冷却水 …… 74
バッテリ …… 74
各種レバー類とその他 …… 74
使用者が行なってはいけない修理 … 75
使用済廃棄物の処分について …… 75
快適な湿田作業を行なう
ために（R1-111SWK仕様） … 76
深い湿田での作業 …… 76
パッカ下部（搬送通路）への泥溜り …… 76
カッタ部への泥,わらの巻付き …… 76
クローラへの泥,わらの巻付き …… 76
取扱い要領 …… 76
刈刃高さの上下調節 …… 76
刈刃高さの上下調節要領 …… 77
デバイダの調節 …… 77
洗車ポンプの取扱い …… 78
洗車ポンプの収納 …… 78
コンバインの不調と処置 …… 79
付表 …… 87
主要諸元 …… 87
付属部品 …… 88
特別付属品(別売) …… 89
主な消耗部品 …… 90
クボタ純オイル …… 96
ラットガード …… 97

⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください

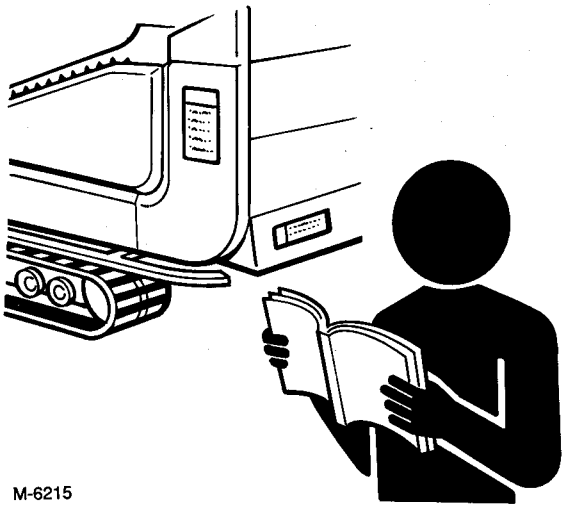
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書及び機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。

- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは，注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。



M-6215

適格者運転

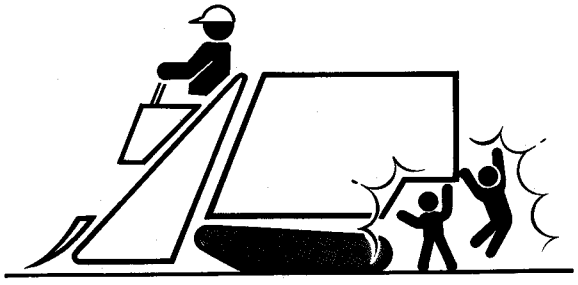
■運転操作には的確な判断が必要です。

- お酒を飲んでいる方，睡眠不足の方，妊娠中のご婦人，16才未満の方，過労，病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。

M-6216

子供が近づくのは危険

■点検・整備中及び収穫作業中，機械に子供を近づけないでください。みえないところでコンバインにさわったり，かくれたりして危険です。

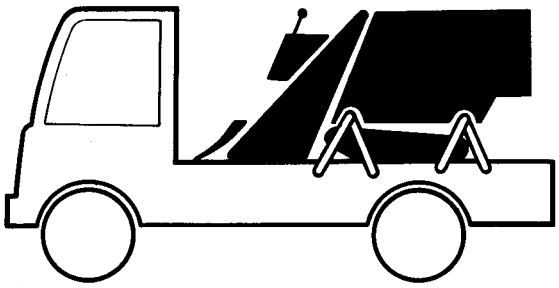


M-6217

⚠ 安全に作業するために

移動走行

■このコンバインは“道路運送車両法”に適合していないので公道を走ることができません。移動するときはトラック輸送（“移動走行前の準備”の項，“トラックへの積込み・積降し”の項参照）してください。

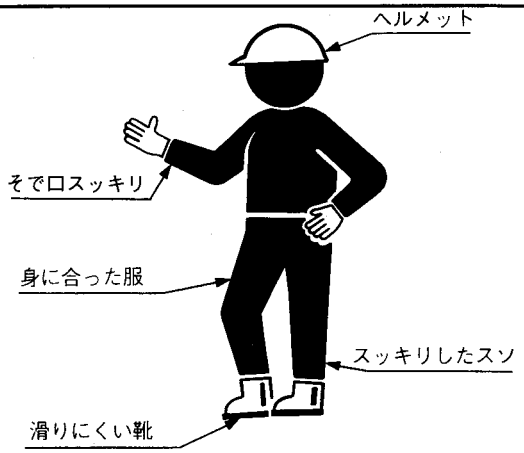


M-6218

安全な服装

■運転者・補助者とも作業に適した服を着用してください。

- レバーや作動部に誤って引っ掛かり，ケガをすることがありますのでだぶついた服は，着用しないでください。
  また，そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き，首巻き，腰タオルの着用は禁止です。



M-6219

排気ガスに注意

■エンジンの排気ガスは有毒です。

- 屋内で運転するときは，適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け，外気がじゅうぶん入るようにしてください。

F-8842

定期点検整備

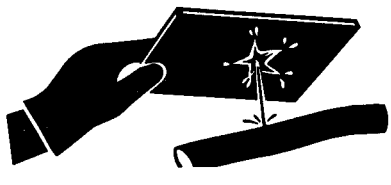
■１年ごとに定期点検整備を受け，各部の保守をしてください。

- フューエルパイプ，ラジエータホース，オイルドレーンゴムホースは２年ごとに交換してください。（**“定期交換”**の項参照）
- 電気配線は毎年点検してください。（**“定期点検と調整”**の項参照）

■高圧噴油が皮ふに浸入すると危険です。

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接，手や体を触れないようにしてください。
  もし，高圧噴油に触れた場合，直ちに医者の診断を受けてください。油が皮ふに浸入した場合，数時間以内に取除かないと壊疽(えそ)にかかるおそれがあります。

F-8847



B-1504

燃料の取扱いは安全に—火気厳禁

■燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いにはじゅうぶん注意してください。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとってください。

B-1499

作業前点検（日常点検）の実施

■運転の前には点検項目（“毎作業前の点検項目”の項参照）の点検をしてください。異常があれば整備してから運転してください。

■点検・整備・調整・掃除・給油・グリースアップするときはエンジンを必ず止めてください。

- 脱こくクラッチ・刈取りクラッチは**“切”**にし，駐車ブレーキを掛けてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリ周辺にわらくずがたまっていると火災の原因となりますのできれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。

■取外した安全カバー，保護カバーは必ず取付けて作業してください。

M-6527

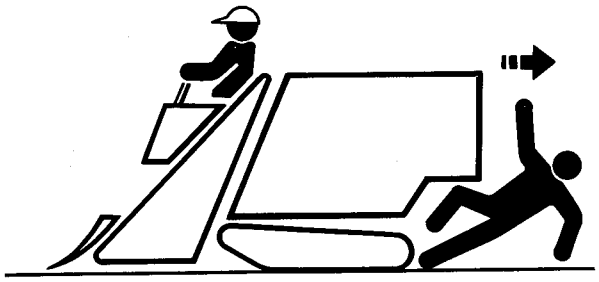
M-6220

M-6221

機械を動かす場合は安全に注意

■機械を動かす場合は周囲の安全に気をつけてください。

- エンジンを始動するときは，運転座席に必ず座って，変速レバーを**“中立”**にし各クラッチを**“切”**にし，ホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械を発進するときや各クラッチを入れるときは，ホーンを鳴らすなどの合図をして，機械に人を近づけないでください。
- 前進・後進・旋回するときは，必ず周囲の安全を確認してください。



M-6222

▲ 安全に作業するために

安全なトラック輸送

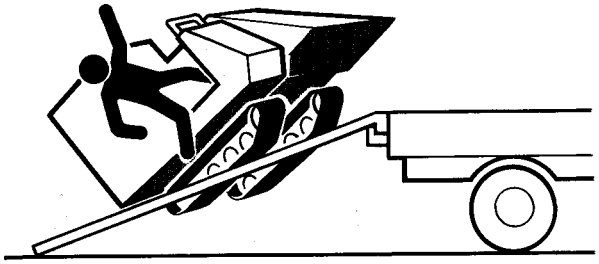
■積込み・積降しはトラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。

■トラックへの積込み・積降しは，平地を選んで，最低速で行なってください。

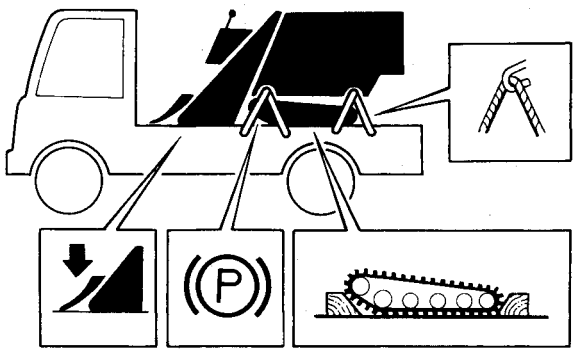
- あゆみ板はフックが付いているものを使用し，トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また，あゆみ板は段差の４倍以上の長さで，すべり止めがあり，強度がじゅうぶんある基準にあったものを使ってください。
- あゆみ板は平行において，安定していることを確認してください。
- 操作は機械から降りて行なってください。
- ホッパ内のもみは空にしておいてください。
- 積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。
- あゆみ板の途中で走行クラッチ・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台にもどって方向を修正し，再度上り下りし直してください。

■トラックの上では刈取部を床まで降し駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかり床に固定します。

- カバー類が開いていると風圧で破損・脱落のおそれがありますので，必ず閉じてください。
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは積荷が動いて危険ですから，絶対しないでください。



M-6223



M-6224

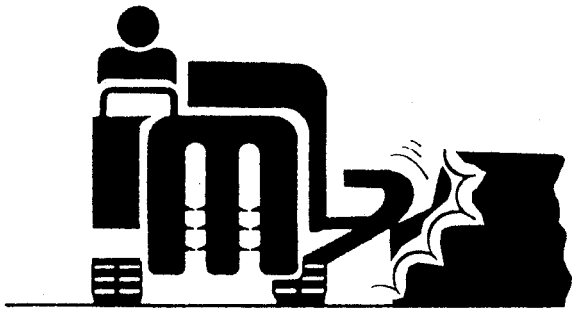
あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	45cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が700kg以上の重量に耐えうる

安全な移動走行

■補助デッキ・左分草かんを収納して機体幅をせまくしてください。

- 刈取部の先にデバイダカバーを取付けてください。
- 各作業クラッチを切り，運転者以外乗らないでください。

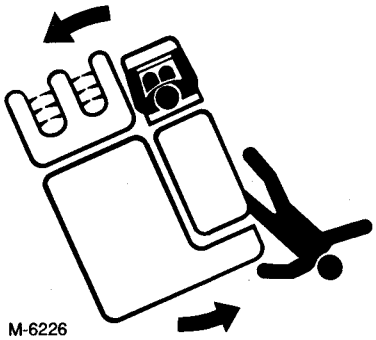


M-6241

高速走行の場合の注意

■高速走行するときに，急激なパワーステアリングレバーの操作をすると急旋回し危険です。

●方向を変えるときは速度を低速にしてください。



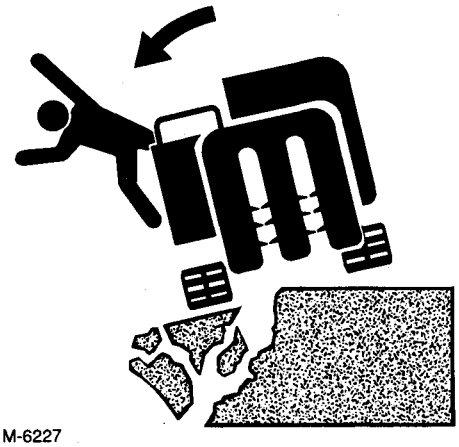
M-6226

転倒・転落注意

■転倒・転落は重大事故になります。

●溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがあり，コンバインの重みでくずれる場合がありますので，走行しないでください。

●道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤ると，転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。



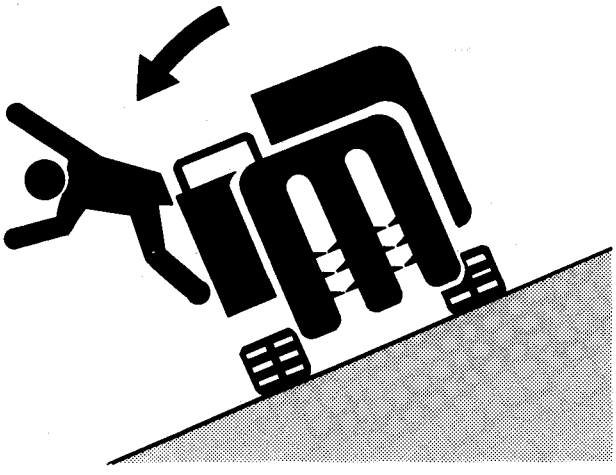
M-6227

■坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意しましょう。

●坂道の途中や傾斜地では速度を落とし走行クラッチ・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作しないでください。

●前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは，機械から降りて操作してください。

●坂道・傾斜地で旋回はしないでください。

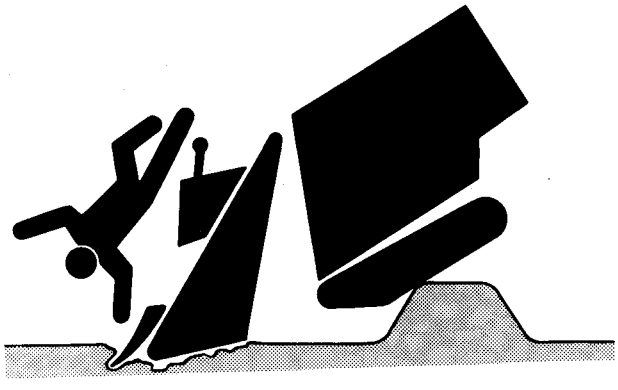


M-6228

■10cm以上の段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さですべり止めがある基準に合ったあゆみ板を使ってください。

●低速で段差に直角に進入してください。

●途中でパワーステアリングレバーの操作はしないでください。



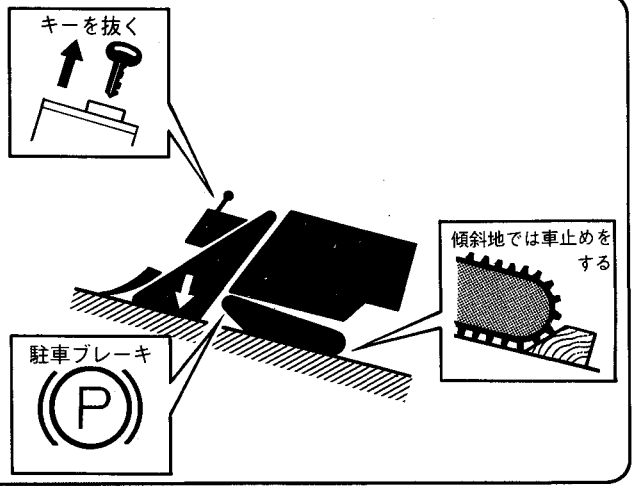
M-6229

▲ 安全に作業するために

安全な駐車のしかた

■駐車するとき(運転席を離れるとき)は，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面にあたるまで降しキーを抜いてください。

- 傾斜地に駐車するときは，車止めをしてください。



M-6230

運転者以外の搭乗禁止

■運転者以外の人を乗せて運転しないでください。

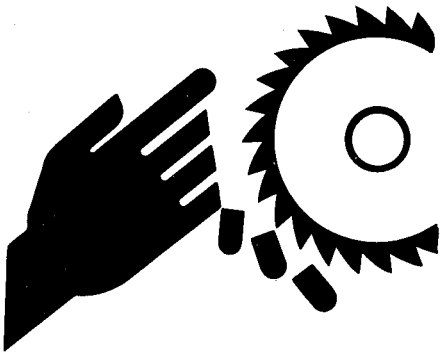
- ふり落とされたり，障害物にぶつかったりすることがあり危険です。
- 運転者は動いているコンバインにとび乗ったり，とび降りたりしないでください。

M-6231

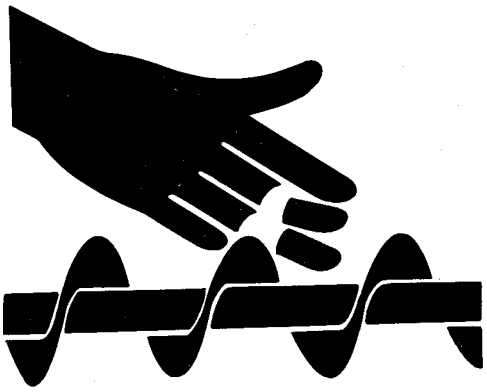
安全な収穫作業

■異常に気づいたらすぐエンジンを止めてください。

- 危険な作動部が多くありますので運転中にわらの巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタや結束機にわらが詰まったときは，すぐ各クラッチを切りエンジンを止めて処置してください。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋をして，少しずつ取ってください。素手で刃先には触れないでください。
- ベルトカバー・チェーンカバーなどの内部には危険な回転物があります。カバーの下に手を入れたり，カバーを外したままで運転しないでください。
- 各部の掃除口，点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを必ず止めてください。

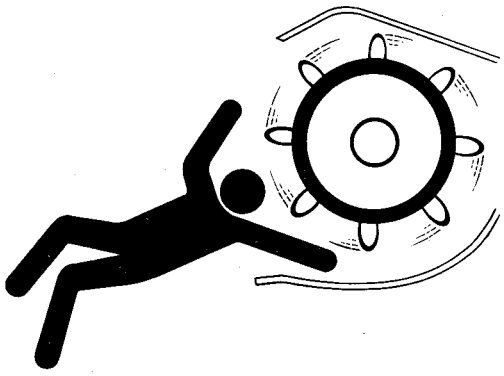


M-6232



M-6233

■こぎ胴・エンジンルーム・カッタをオープンしたままエンジン・脱こく機・カッタを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また，エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。



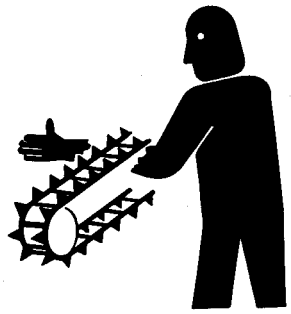
M-6234

▲ 安全に作業するために

安全な手こぎ作業

■コンバインの走行部・刈取部を止めて手と腕をチェーンの外側に位置させ，わらを少量ずつ送り込むこと。

- そで口がスッキリした服で，手袋は使用しないでください。

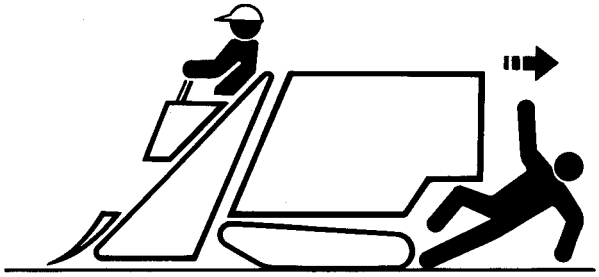


M-6235

共同作業の安全確保

■補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあります。補助者の安全にも配慮してください。

- エンジン始動時，各クラッチを入れるときはホーンで合図し，補助者のＯＫをもらってください。
- 補助者がコンバインに近づくときは，運転者に知らせることを徹底させてください。

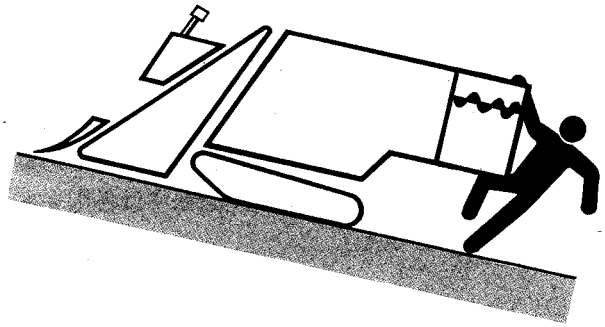


M-6222

オープン注意

■こぎ胴，カッタ，エンジンルームをオープンするときは，エンジンを必ず止めて，平たんな場所で行なってください。

- 傾斜地でオープンすると，開閉時にいきおいよく動いて，機体の変形やケガをするおそれがあります。



M-6464

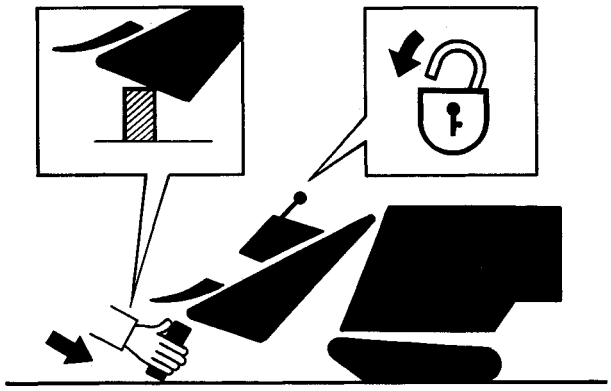
安全な点検・整備

■点検・整備は水平で平たんな場所で行なってください。

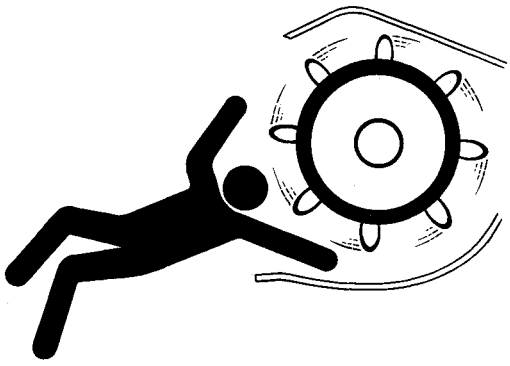
■エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛けてください。

- 刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき，昇降部をロックするとともに，落下防止の歯止めをしてください。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしないでください。
- 刈取部の刈刃・カッタ部のカッタ刃を交換するときは手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

■こぎ胴をオープン・エンジンルームをオープン・カッタをオープンしたままエンジン・脱こく機・カッタを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また，エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。



M-6237



M-6234

▲ 安全に作業するために

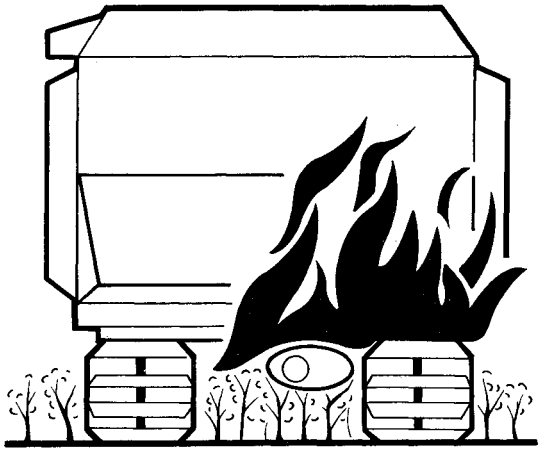
火災防止

■わらくずは燃えやすく注意が必要です。

- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリ周辺にわらくずがたまっていると危険です。作業前，作業後に点検しきれいに取除いてください。
- 運転後わらくずの上や枯れた雑草の上に停車すると，火災のおそれがありますのでさけてください。

■機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

■電気配線の被覆が破れるとショートして火災が発生するおそれがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



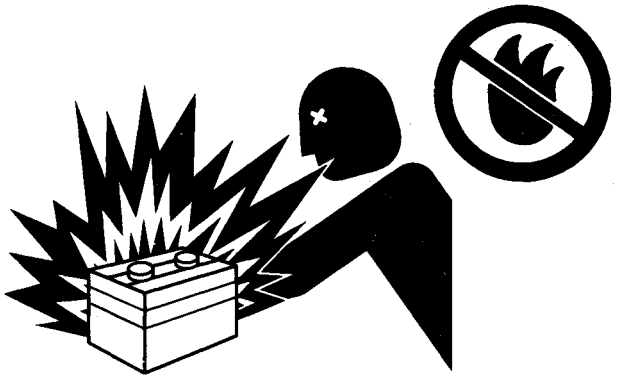
M-6238

バッテリの取扱い注意

■バッテリのガスは爆発のおそれがあります。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。

■バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使わないでください。



F-8836

■バッテリの充電時，交換時は，バッテリの注意ラベルをよく読んでください。

- バッテリを取外すときは，最初にマイナス（⊖）側のケーブルを取外してください。
  バッテリを取付けるときは，最初にプラス（⊕）側のケーブルをプラス（⊕）側の端子に取付けてください。
- 充電は，機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうと破裂するおそれがあり危険です。
- 指定外のバッテリは使わないでください。

■バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。

- 目，皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗ってください。
- 目に入ったときは，水でよく洗った後，医師に治療を受けてください。

M-6465

ヤケド防止

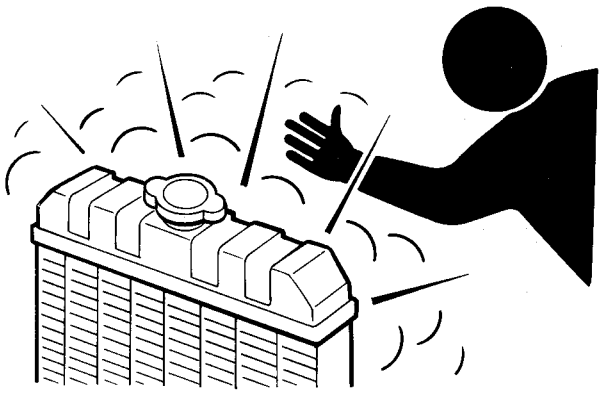
■過熱された冷却水あるいは蒸気が皮ふに触れるとヤケドします。

● 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は，過熱，加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。

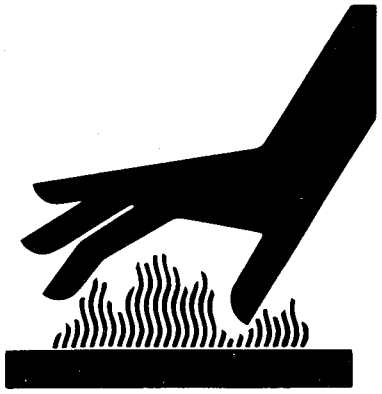
■高温の油が皮ふに触れるとヤケドをします。

● 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管およびその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって，残圧がないことを確かめて整備してください。

■エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。



B-1503



B-1502

このコンバインを他人に貸すときは

■取扱説明書をよく読んでいただくとともに，取扱い方法・安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるように指導を行なってください。

▲ 安全に作業するために

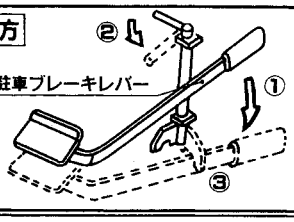
2．▲表示ラベルと貼付け位置

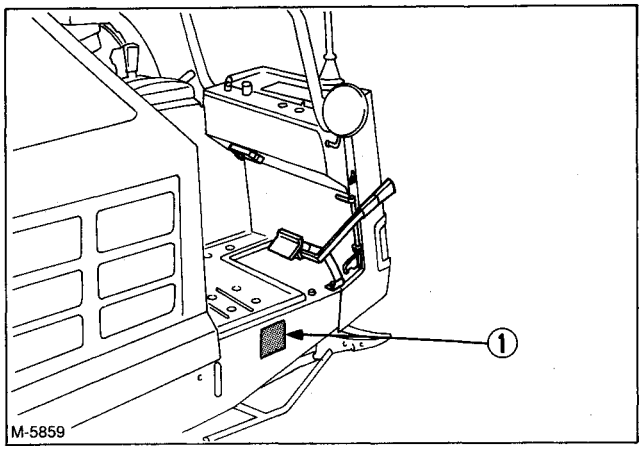
① 品番　52320-3158-4

▲ 注　　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1．駐車ブレーキをかけるときは、すみやかにいっぱい下げること。
2．車止めをすること。

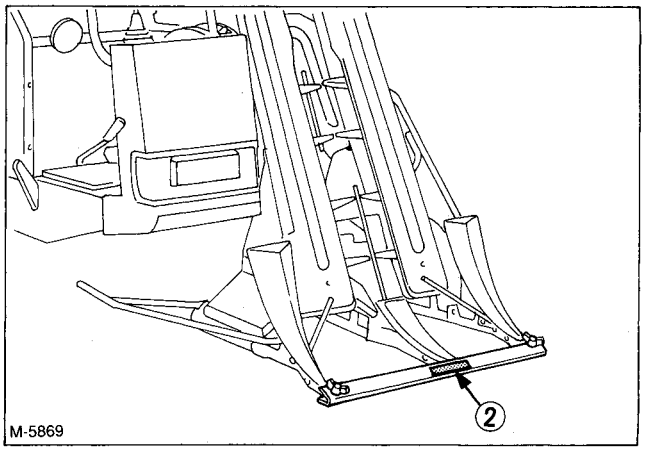
駐車ブレーキのかけ方
①駐車ブレーキレバーを下げる。
②ブレーキフックを出す。
③レバーをフックに引っ掛ける。





② 品番　59700-4332-2

▲注意	デバイダ先端に当たるとけがをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。



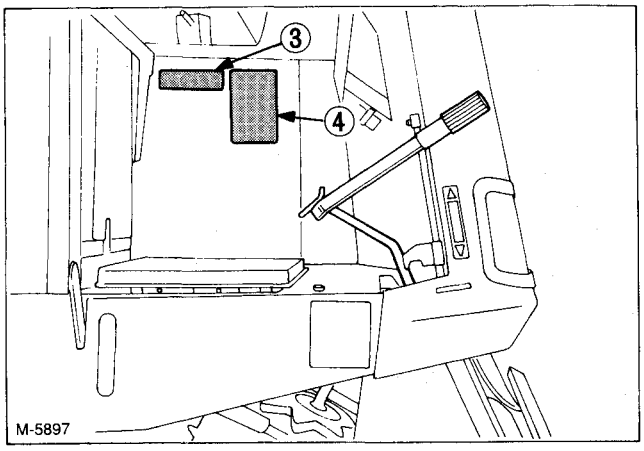
③ 品番　56431-5219-4

⚠ 注　意

オーバヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。

1. エンジンを止める。
2. 必ず停止後30分以上経過してから エンジンルームを開けること。

エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。



④ 品番　52166-3245-4

⚠ 注　意

作業前
1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで機械の使い方を覚えること。
2. 屋内は排気ガスが溜まりやすくガス中毒のおそれがあるので、換気をすること。
3. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。

移動・作業中
1. 発進するとき・脱こく部・刈取部を作動するときは、周囲の安全を確かめ合図して、機械に人を近付けないこと。
2. 転倒・転落事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・がけぎわなどは走行しないこと。
3. 緊急停止が必要なときは、走行クラッチペダルをすみやかに、いっぱい踏み込むこと。

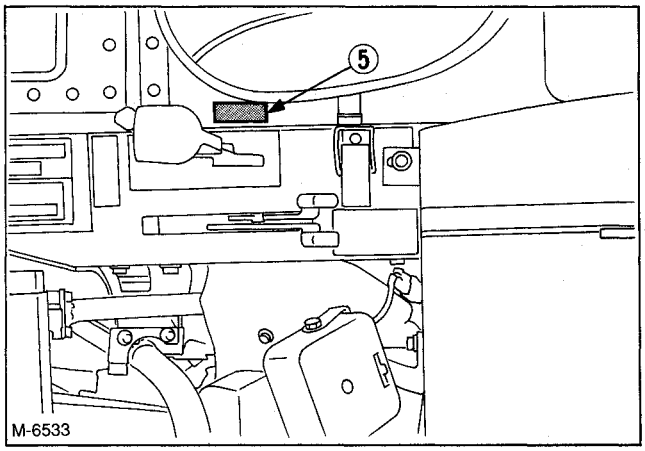
積込み・積降し・あぜ越え
1. 車への積込みやあぜ越えは前進で、車から降すときは後進で、運転席から降りて低速で移動すること。あゆみ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがある基準に合ったものを使うこと。
2. 車への積降しの途中で、走行クラッチペダルやパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。

駐・停車
1. 火災のおそれがあるので、機械を停止するときは切りわらや雑草の上に止めないこと。
2. 機械から離れるときは、エンジンを止めて「始動キー」を抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また、坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

⑤ 品番　52166-3512-1

⚠ 注意

エンジンルームをオープンし点検調整後は、必ず「クランプ」で確実にロックすること。ロックしないと走行中不意にオープンすることがあり危険です。

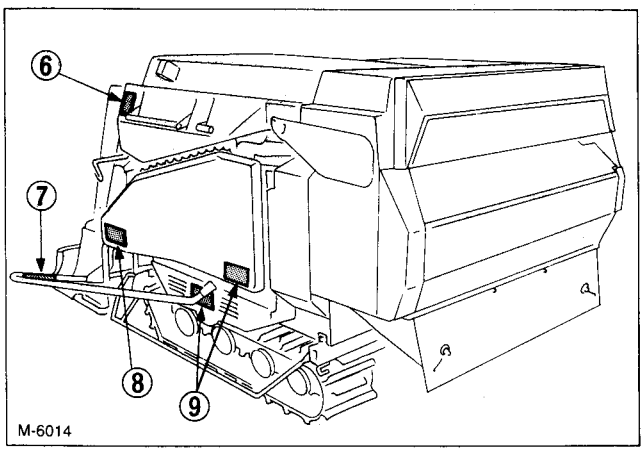


▲ 安全に作業するために

⑥ 品番　53981-6431-3

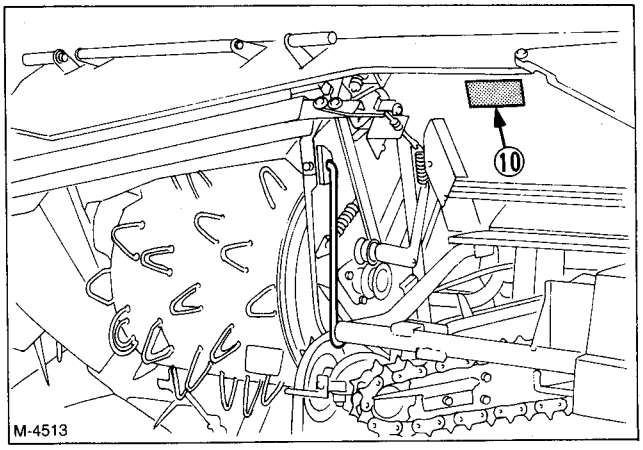
▲警　告

中で扱歯が高速で回転しているので、接触するとけがをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。



⑦ 品番　59700-2136-2

▲注意　人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。



⑧ 品番　53981-6435-2

▲　警　告

1. わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。
2. 手こぎ作業で手・腕をチェーンにはさまれてけがをするおそれがあるので、下記を守ること。
   - 平坦な所で走行部・刈取部を止めること。
   - 手・腕をチェーンの外側に位置させ、わらを少しづつ送り込むこと。

⑨ 品番　53981-6436-2

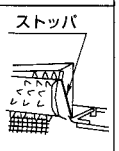
▲　注　意

1. **回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。**
2. **点検・調整時はエンジンを必ず止めること。**
3. **点検・調整後はカバーを必ず取付けること。**

⑩ 品番　53981-6416-2

▲　警　告

1. 扱胴オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。
2. 扱胴をオープンして、受網の脱着や扱室の掃除をするときは扱胴が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定すること。

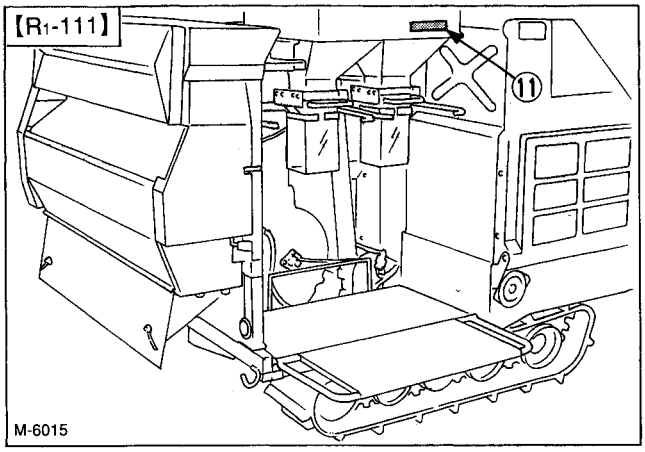


⑪ 品番　52166-2119-2

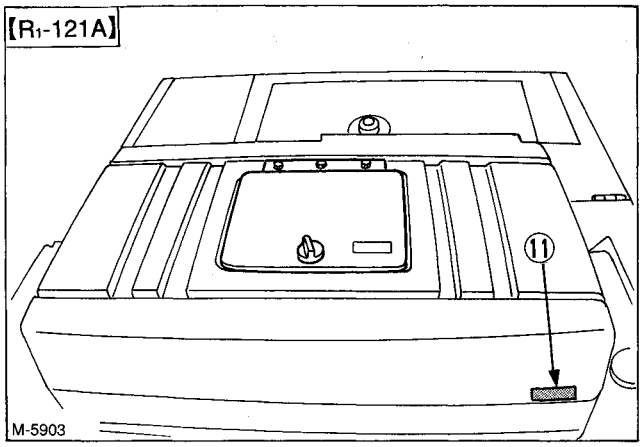
⚠ 注意

1. 転落のおそれがあるので補助デッキには乗らないこと。
2. 移動するときは、人に当たってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

【R1-111】



【R1-121A】

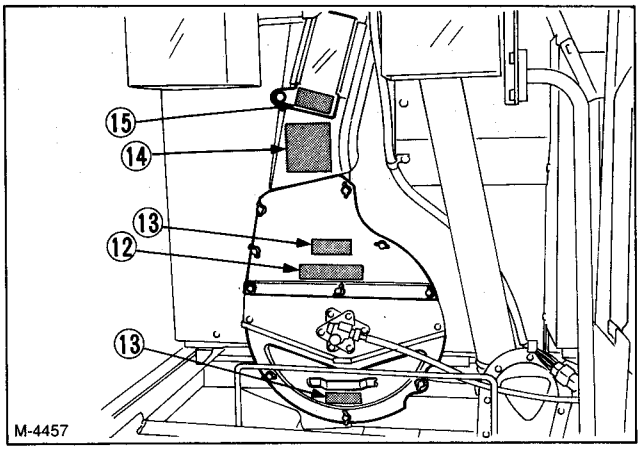


▲ 安全に作業するために

⑫ 品番　53981-6432-1

▲ 注　　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

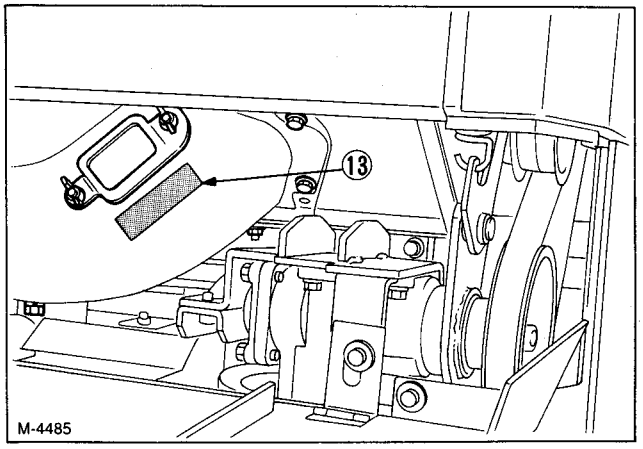


⑬ 品番　53981-6434-1

▲ 注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

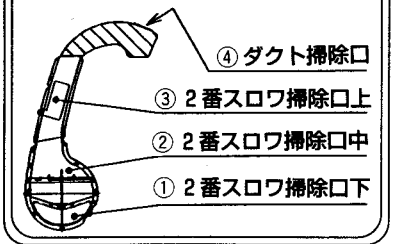


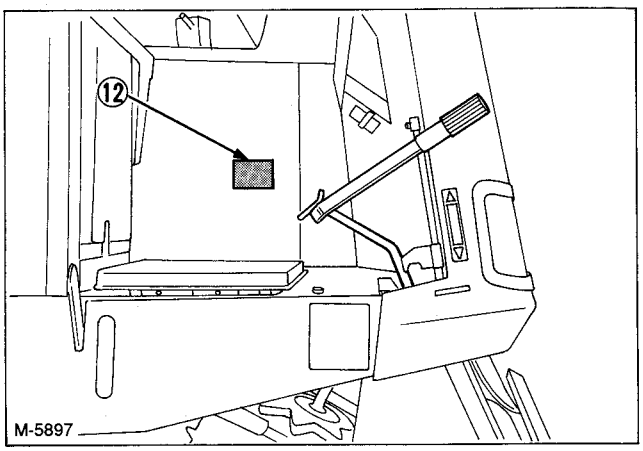
⑭ 品番　53690-3131-2

▲ 注　　意

2 番 の 掃 除

中に回転物がありけがをするので、
掃除前にエンジンを必ず止めること。
2番スロワが詰ったときは下記4箇所
を必ず掃除すること。(特に斜線部)
掃除後はフタを必ず閉じること。





⑮ 品番　53690-3129-2

▲ 注　　意

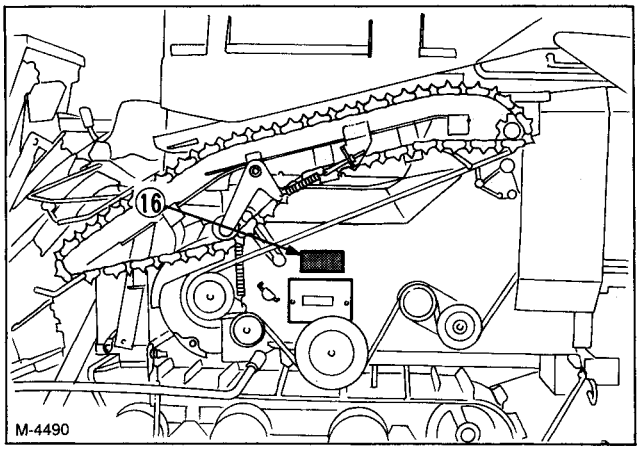
中に回転物がありケガをする
おそれがあるので、運転中は
絶対に手を入れないこと。

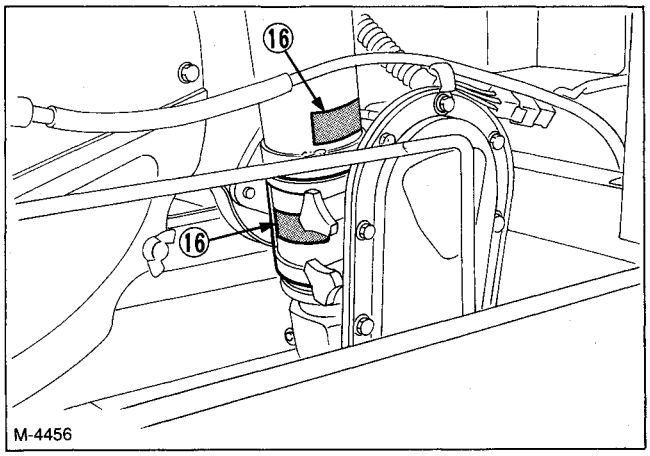
⑯ 品番　53981-6434-1

⚠ 注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。





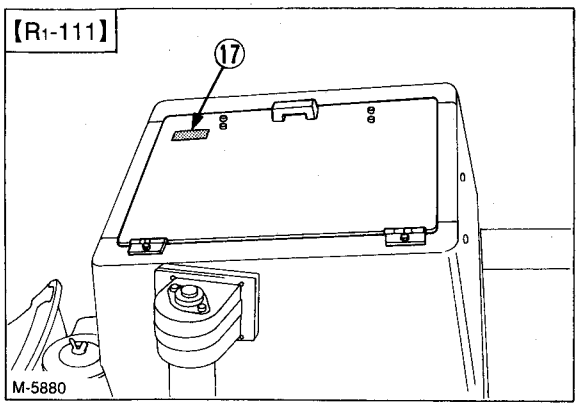
▲ 安全に作業するために

⑰ 品番　53690-3129-2

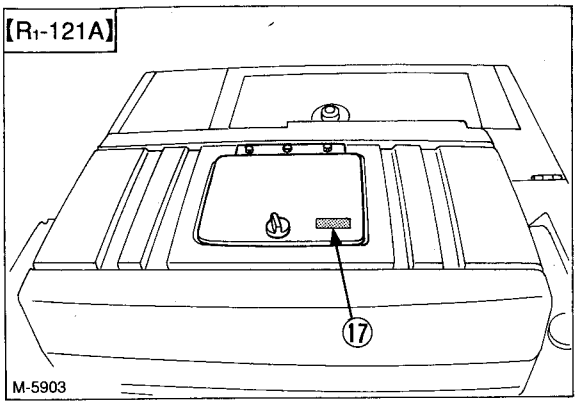
▲ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

【R1-111】



【R1-121A】



⑱ 品番　53981-6188-2

⚠警告

1. カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

⑲ 品番　57745-5314-2

⚠警告

1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので，手を絶対に入れないこと。
2. チェーン・ベルトに接触すると，手をケガするので，手を絶対に入れないこと。
3. カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。
4. カッタをオープンしたまま運転しないこと。
5. 点検・調整，ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
6. 点検・調整などが終わったら，カバーを元通りに必ず取り付けること。

⑳ 品番　57745-5315-3

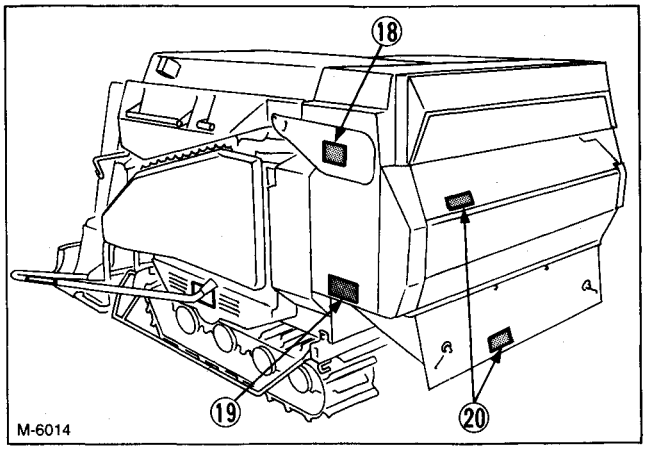
⚠警告

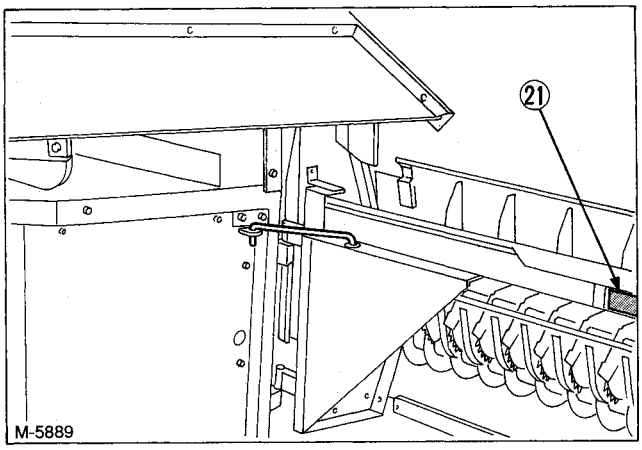
1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

㉑ 品番　57745-5124-1

⚠注意

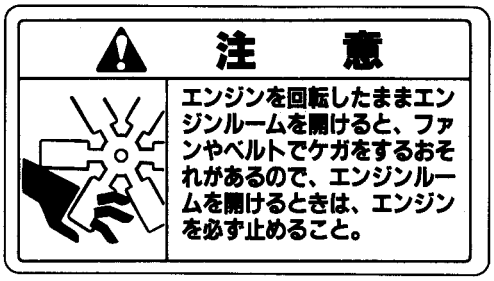
1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。

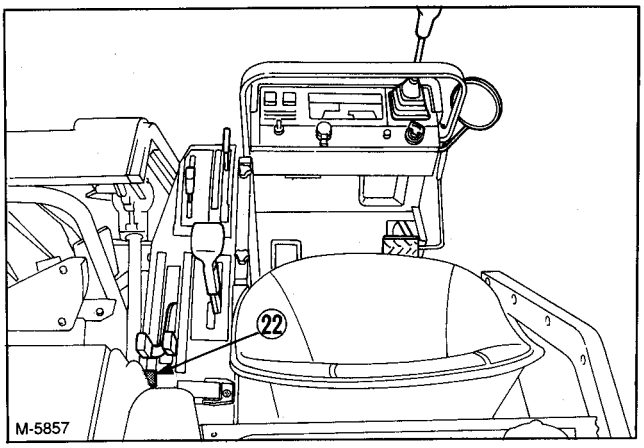




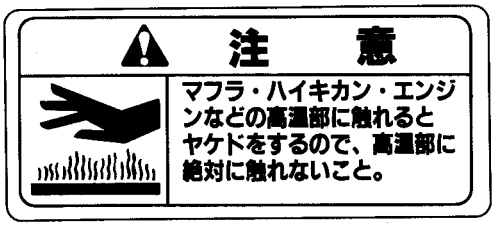
⚠ 安全に作業するために

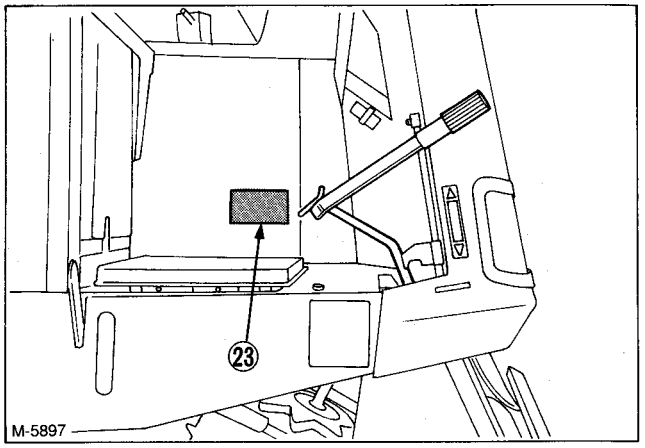
㉒ 品番　52320-3166-1



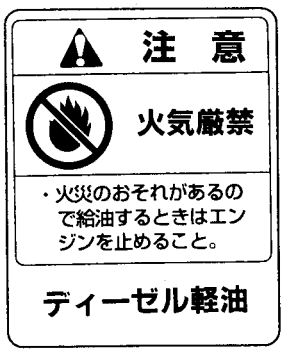


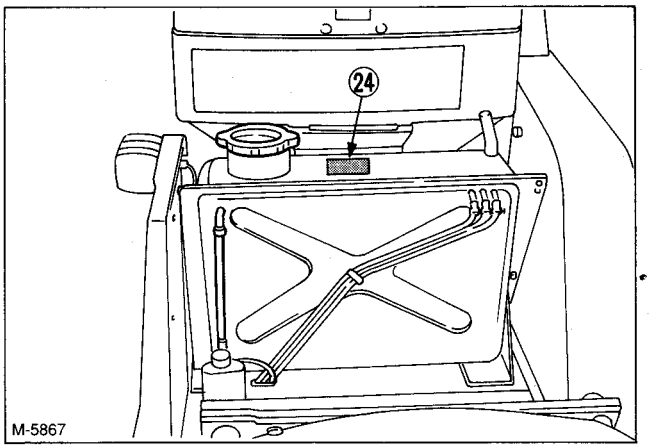
㉓ 品番　52320-3159-1





㉔ 品番　52166-2575-1

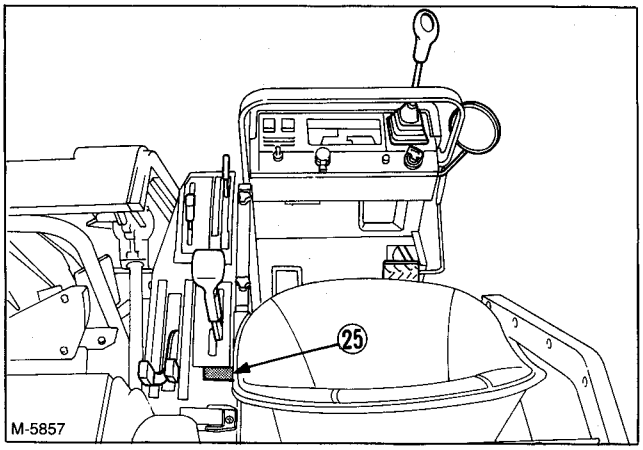




㉕ 品番　52320-3167-1

⚠ 注　　意

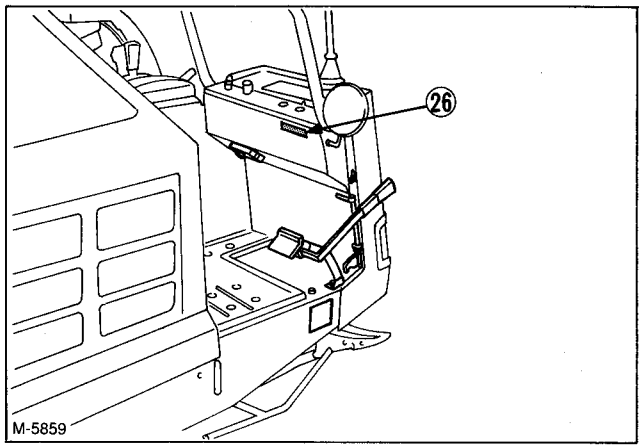
エンジンを始動するときは、駐車ブレーキをかけて、脱こくクラッチを「切」にすること。



㉖ 品番　52166-3533-1

⚠ 注意

刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックすること。



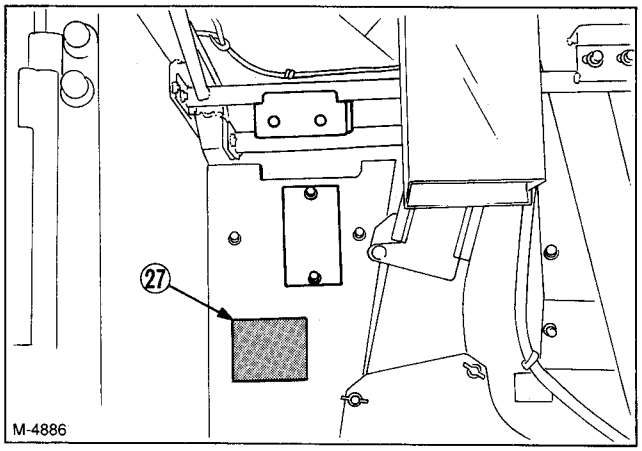
㉗ 品番　56980-6322-1

⚠ 注　　意

ポンプの脱着は、不意に軸が回転しケガをするおそれがあるので、脱こくクラッチを「切」にし、エンジンを必ず止めること。

洗車ポンプの取扱い

①回転数厳守
洗車ポンプ使用時のエンジン回転数は回転計の緑線にあわせてください。
②空運転厳禁
洗車ポンプ使用時以外（刈取作業中・路上走行中など）は、洗車ポンプを必ず機体から外してください。（機械に取付けたまま空運転すると、洗車ポンプが焼付きます。）
③泥水厳禁
泥水は絶対に使用しないでください。（浄水又は農業用水を使うこと）
④使用後の手入れ
シャフトを手で回しながら中の水を抜き、注油口より油を差して手で回しサビ付き防止を行なってください。
詳細については取扱説明書を見てください。



▲ 安全に作業するために

必ず読んでください。

3．▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふいてください。
　シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼ってください。

サービスと保証について

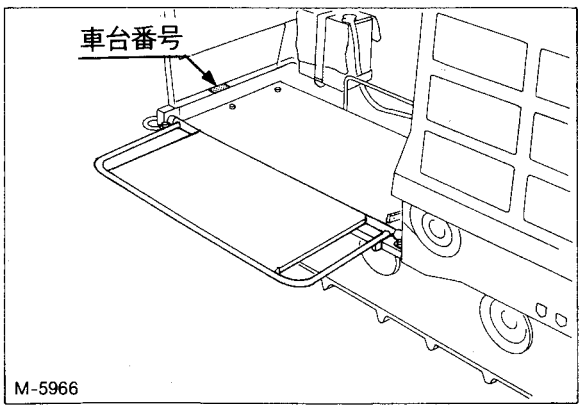
この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

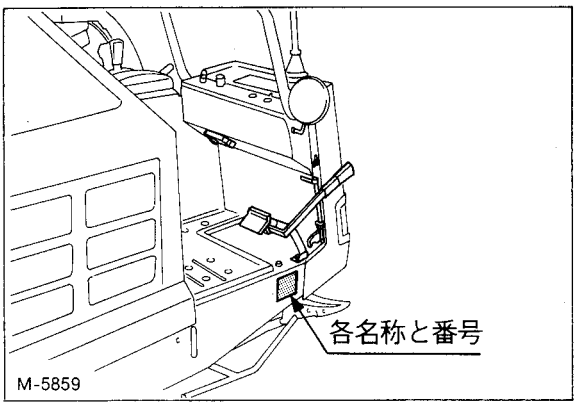
■ご相談窓口

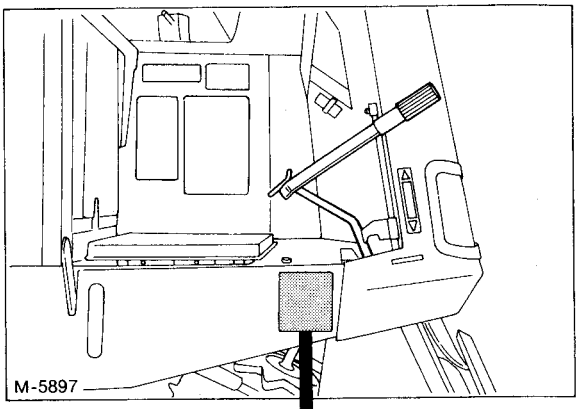
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際 (1) 商品名・区分と車台番号
(2) 搭載機関の型式名と機関番号
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリに純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警 告

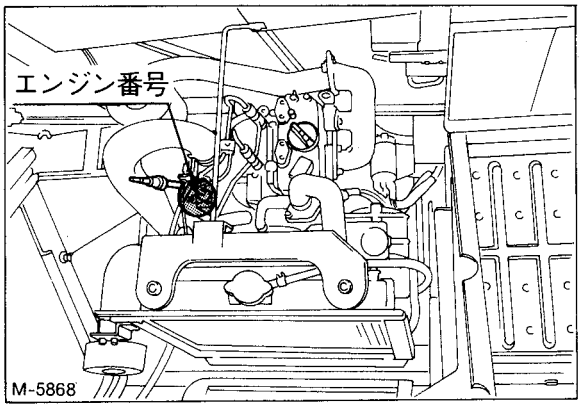
＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。







農業機械の種類		コンバイン(自脱型)
農機型式名		●●●●●
商品名		
区分		
車両型式名		●●●●●
車台番号		
刈取条数		●●●
とう載機関	型式名	
	機関番号	
	最大出力	●●●●●●●●●
	無負荷最高回転速度	●●●●●
製造元		株式会社クボタ

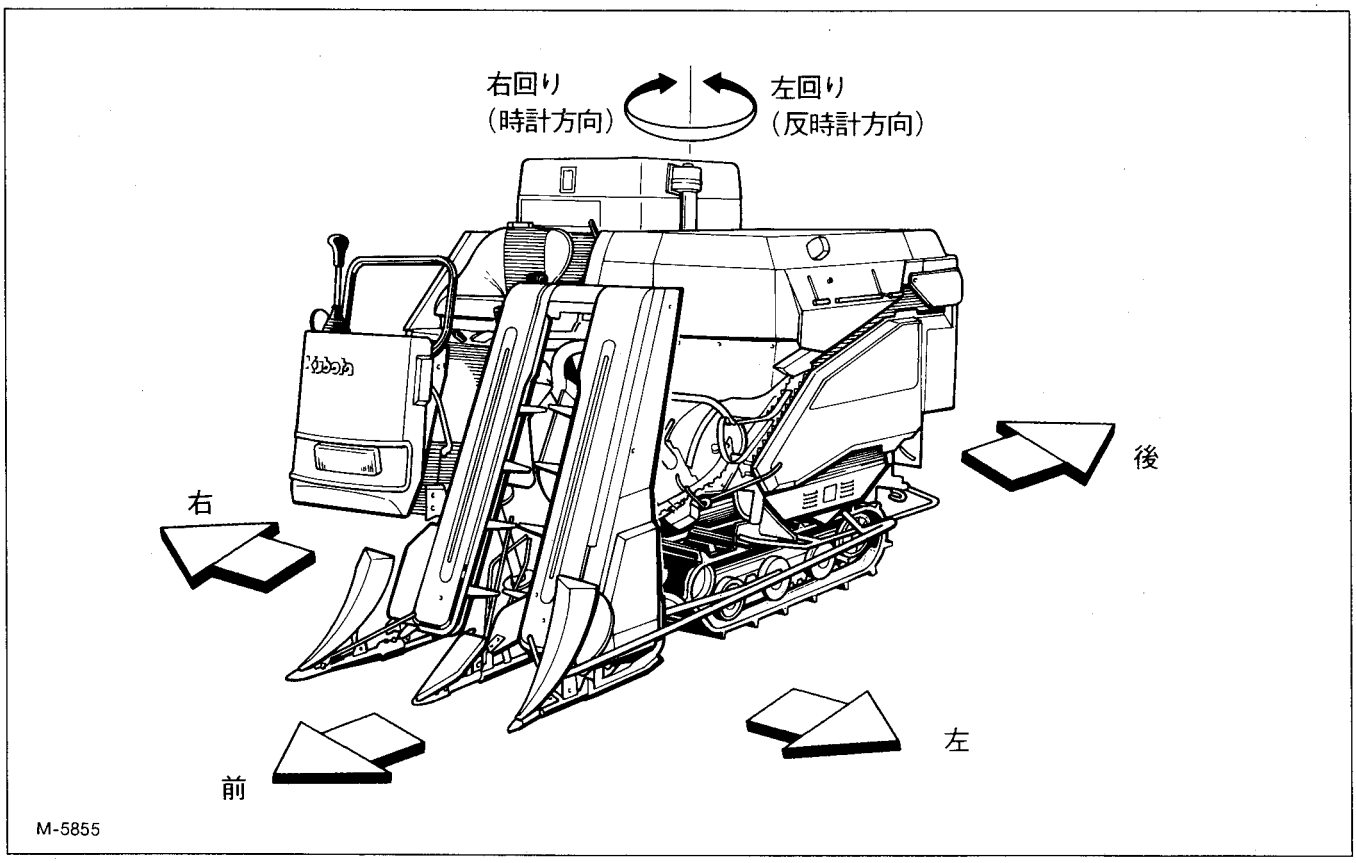


◆安全鑑定番号

商　品　名	農機型式名	安全鑑定番号
R_1-121A	クボタR9002	15094
R_1-111	クボタR9003	15095

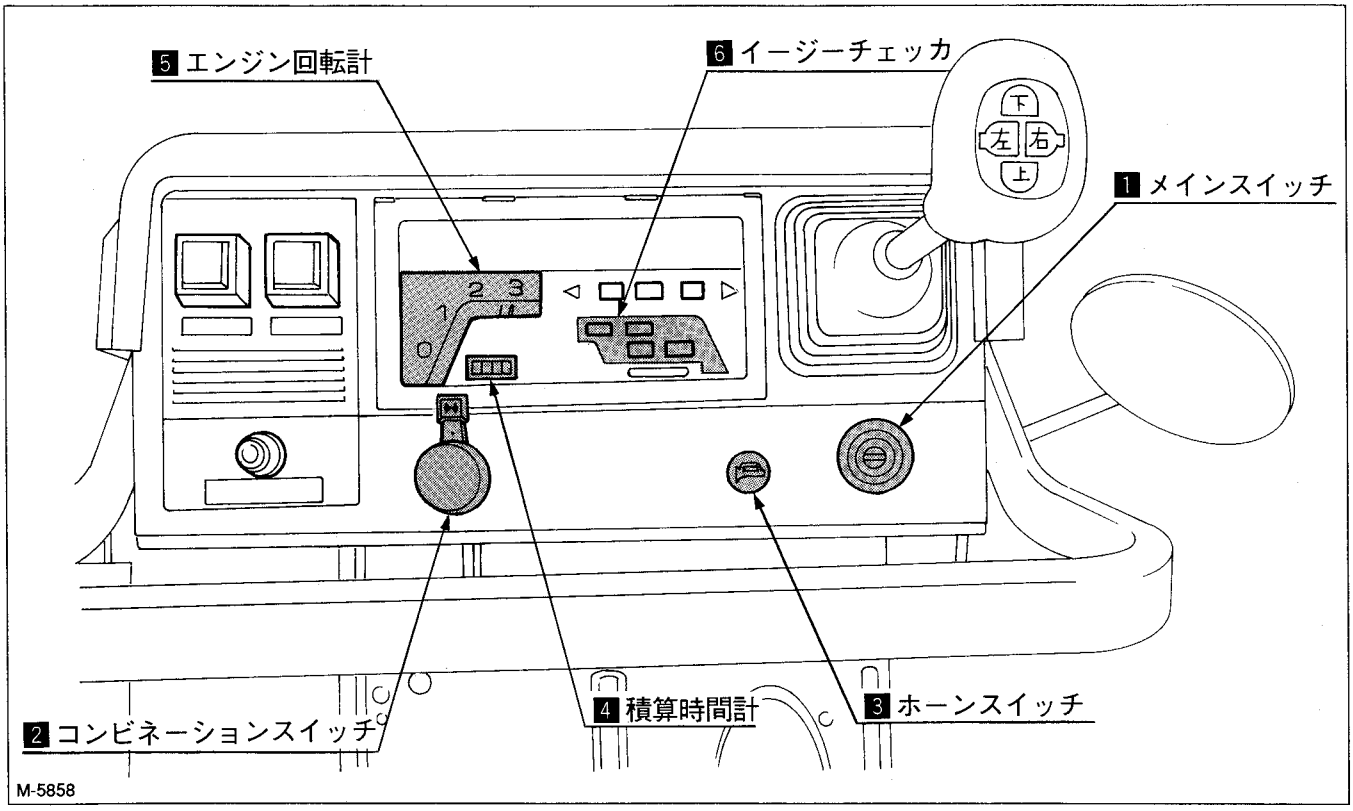
■機体方向説明

この取扱説明書で使用している**“前後・左右・左回り・右回り”**などの方向は，図示の通りに決めています。



諸装置の説明

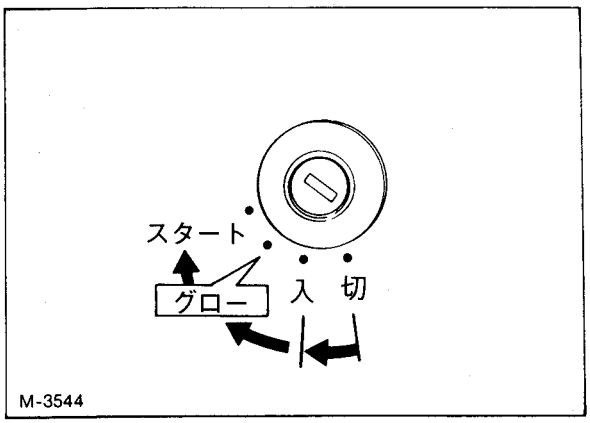
スイッチとメータパネル



1 メインスイッチ …… 4
2 コンビネーションスイッチ …… 4
3 ホーンスイッチ …… 4
4 積算時間計 …… 4
5 エンジン回転計 …… 4
6 イージーチェッカ …… 5

1メインスイッチ

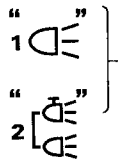
“切” ……キーが抜差しできる位置
“入” ……エンジン回転中の位置
“グロー” ……エンジンが予熱される位置
“スタート” …セルモータを回してエンジンを始動する位置



2コンビネーションスイッチ

◆ランプスイッチ

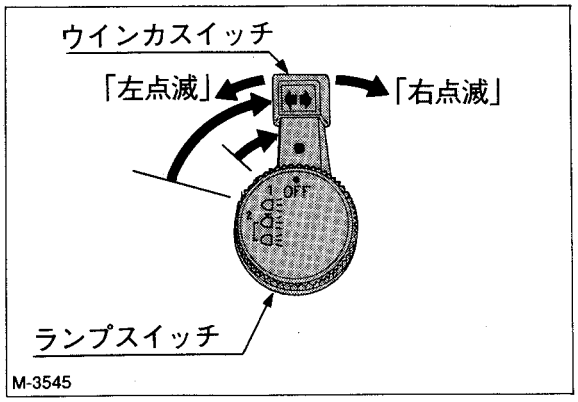
“ＯＦＦ” （切）……ヘッドランプ消灯位置



（入）……ヘッドランプ点灯

◆ウインカスイッチ

(1)旋回方向に操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内のパイロットランプが点滅します。
(2)旋回が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



3ホーンスイッチ

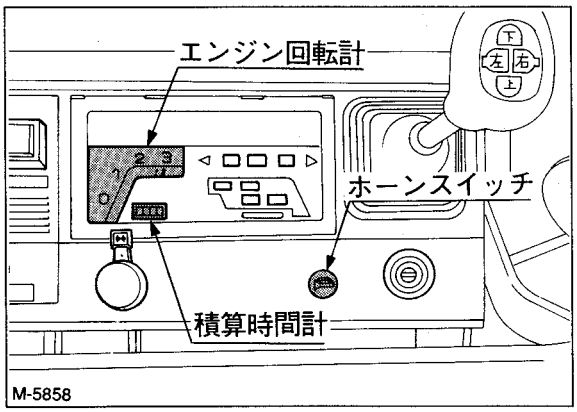
メインスイッチを**“入”**の位置にし，ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。
もみ警報中にホーンスイッチを押す（0.5秒以上）と，ホーン（断続）は停止します。

4積算時間計（アワーメータ）

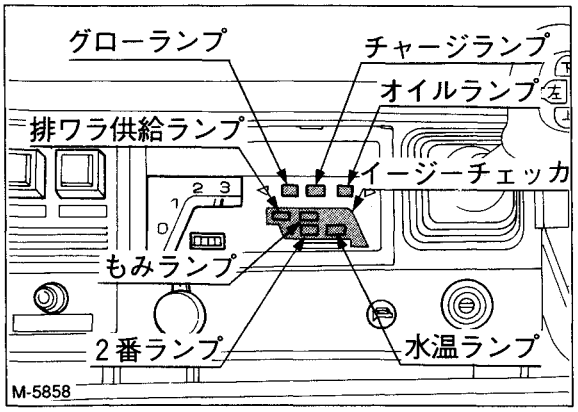
脱こく機を定格回転で使用した場合の積算時間を示します。
白わく内の数字を６倍すると**“分”**単位の時間となります。〔例〕0012 4 ……12時間24分

5エンジン回転計

１分間のエンジン回転数を示します。



6 イージーチェッカ



《⛽》 オイルランプ
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯する油圧警告灯です。
エンジン停止中にメインスイッチを**“入”**にすると点灯し，始動すると消灯します。

《⚡》 チャージランプ
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
エンジン停止中にメインスイッチを**“入”**にすると点灯し，始動すると消灯します。

《〰》 グローランプ
メインスイッチを**“グロー”**位置にすると約5秒間グローランプが点灯します。

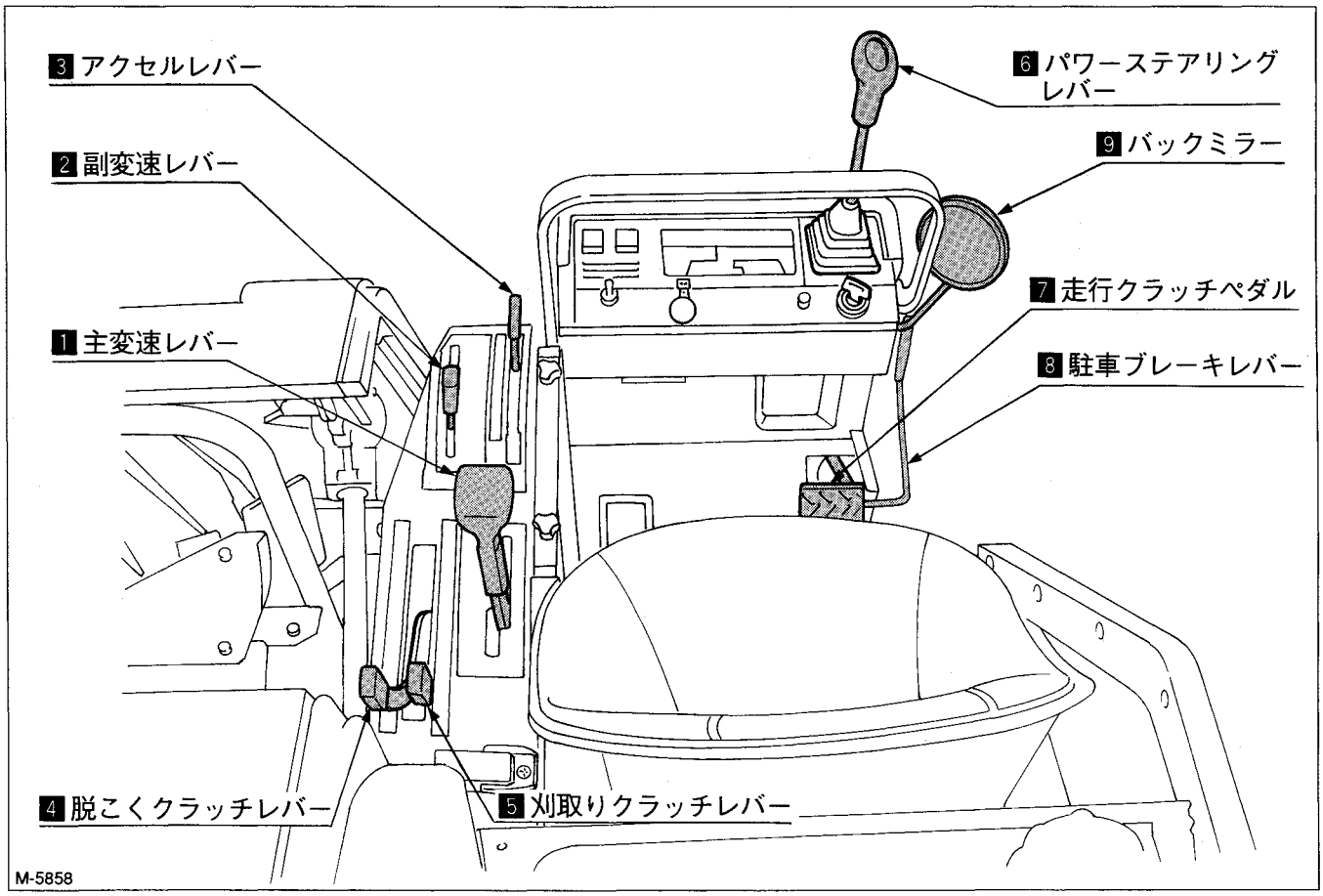
《モミ》 もみランプ
ホッパが満杯になったとき，ランプが点滅し，ブザーが鳴ります。

《排ワラ･供給》 排わら･供給詰まり警報ランプ
❶排わらチェーンにわらが詰まったとき点滅し，ブザーが断続的に鳴りエンジンが自動停止します。
【結束機仕様の場合】
＊結束機の結節部にわら・ひもが巻きついたときと，ひもがないときに点滅し，エンジンが自動停止します。
❷株元供給チェーンにわらが詰まったとき，点滅し，ブザーが連続的に鳴ります。

《2番》 2番ランプ
脱こく機の２番目が詰まったとき，点滅し，ブザーが鳴ります。

《水温》 水温ランプ
エンジン冷却水が高温になったとき点灯し，ブザーが鳴ります。

運転装置

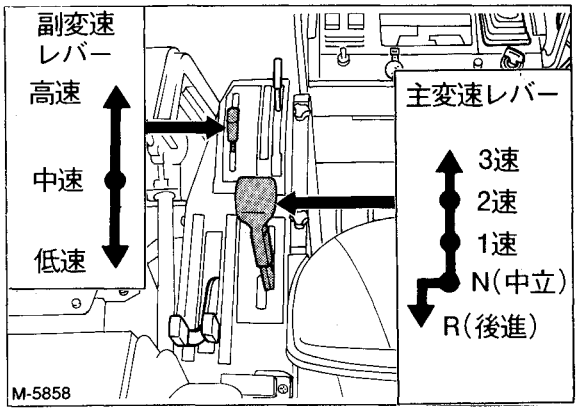


1 主変速レバー …… 7
2 副変速レバー …… 7
3 アクセルレバー …… 7
4 脱こくクラッチレバー …… 7
5 刈取りクラッチレバー …… 7
6 パワーステアリングレバー …… 7
7 走行クラッチペダル …… 8
8 駐車ブレーキレバー …… 8
9 バックミラー …… 8

1主変速レバー
2副変速レバー

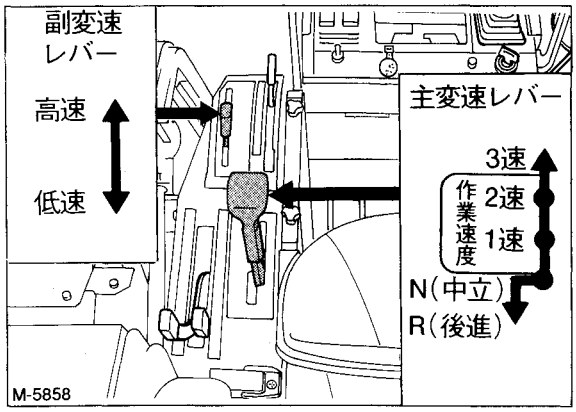
【R1-121A】

２本のレバー操作を組合わせることにより，前進９段・後進３段の車速が得られます。後進のときはバックブザーが鳴ります。



【R1-111(SWK)】

２本のレバー操作を組合わせることにより，前進６段・後進２段の車速が得られます。後進の時はバックブザーが鳴ります。



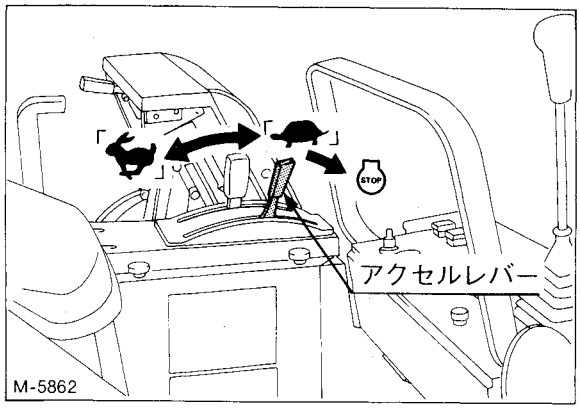
3アクセルレバー

エンジンの回転数を変えるレバーです。

“STOP”……エンジン停止位置

“🐢”……エンジン回転数“低速”

“🐇”……エンジン回転数“高速”

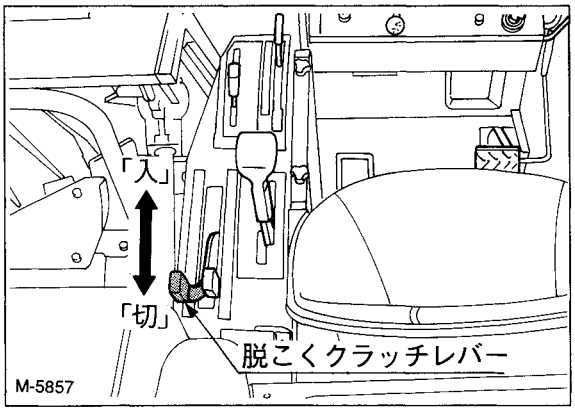


4脱こくクラッチレバー

脱こく部駆動切換えレバーです。

“入”……脱こく部が駆動します。

“切”……脱こく部が停止します。

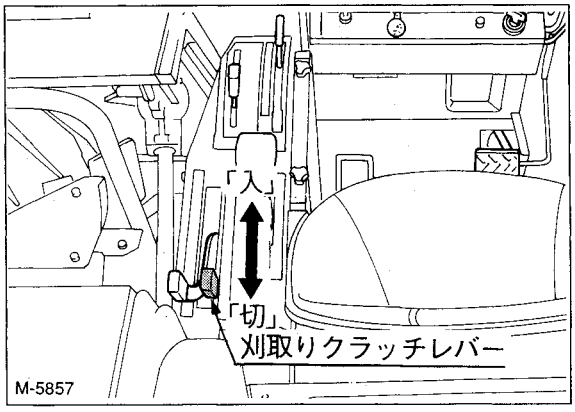


5刈取りクラッチレバー

刈取部駆動切換えレバーです。

“入”……刈取部が駆動します。

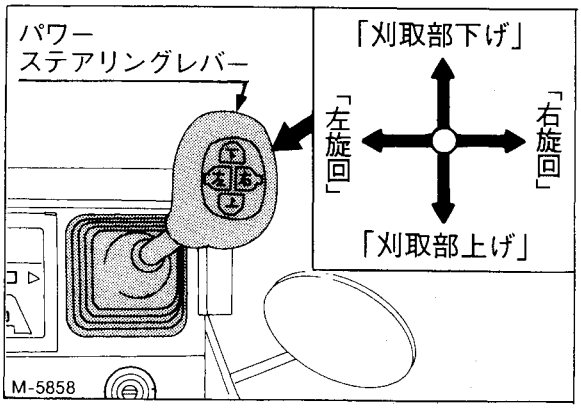
“切”……刈取部が停止します。



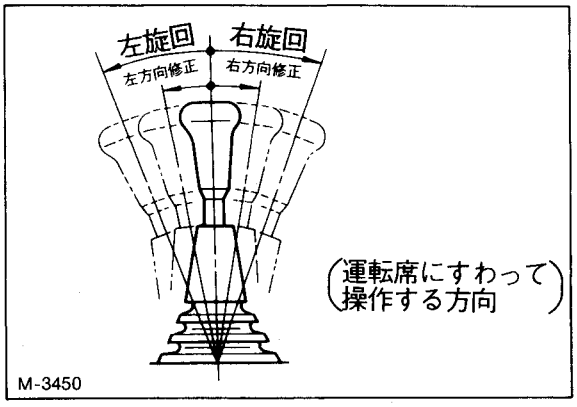
6パワーステアリングレバー

レバー１本で刈取部の上げ下げと方向修正・旋回ができます。

(1)レバーを前・後に操作すると，刈取部の上げ下げができます。

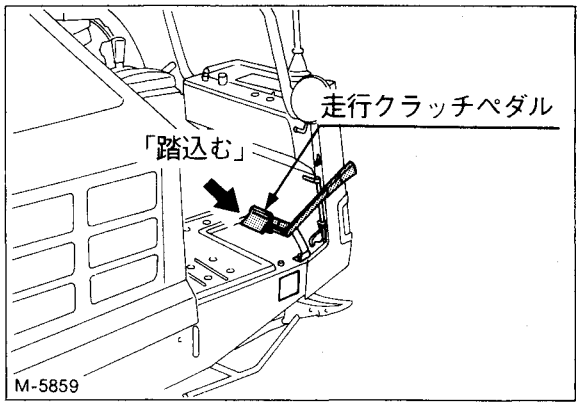


(2)レバーを左・右に操作すると，方向修正から旋回までできます。
レバーの倒し量に応じて，ブレーキ力が変わりますので，ゆるやかな方向修正からコーナ旋回まで，条件に合わせて操作してください。
＊ゆるやかな方向修正……左・右に軽く倒します。
＊コーナ旋回……左・右に一杯倒します。



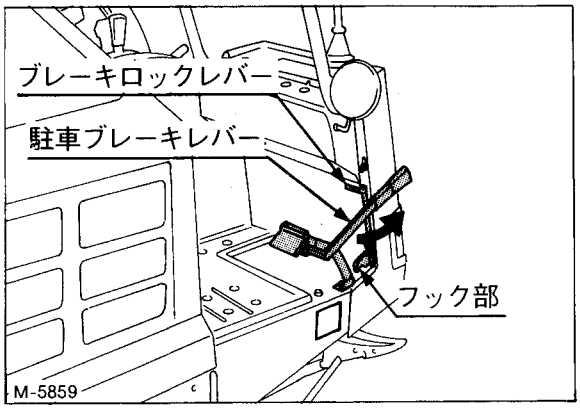
7 走行クラッチペダル

走行中，走行クラッチペダルを踏込むと停止します。また，変速するとき，走行クラッチペダルを踏込んで変速するための走行クラッチペダルです。



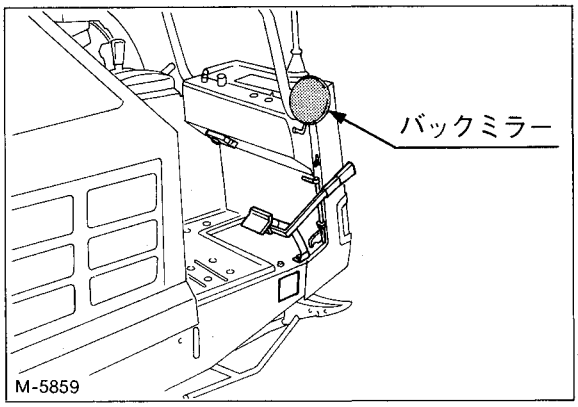
8 駐車ブレーキレバー

駐車ブレーキレバーを下げ，ブレーキロックレバーを外側に回し，駐車ブレーキレバーをフック部に引っ掛けてください。駐車ブレーキがかかります。
解除するときは，駐車ブレーキレバーを下げてください。自動的に解除されます。

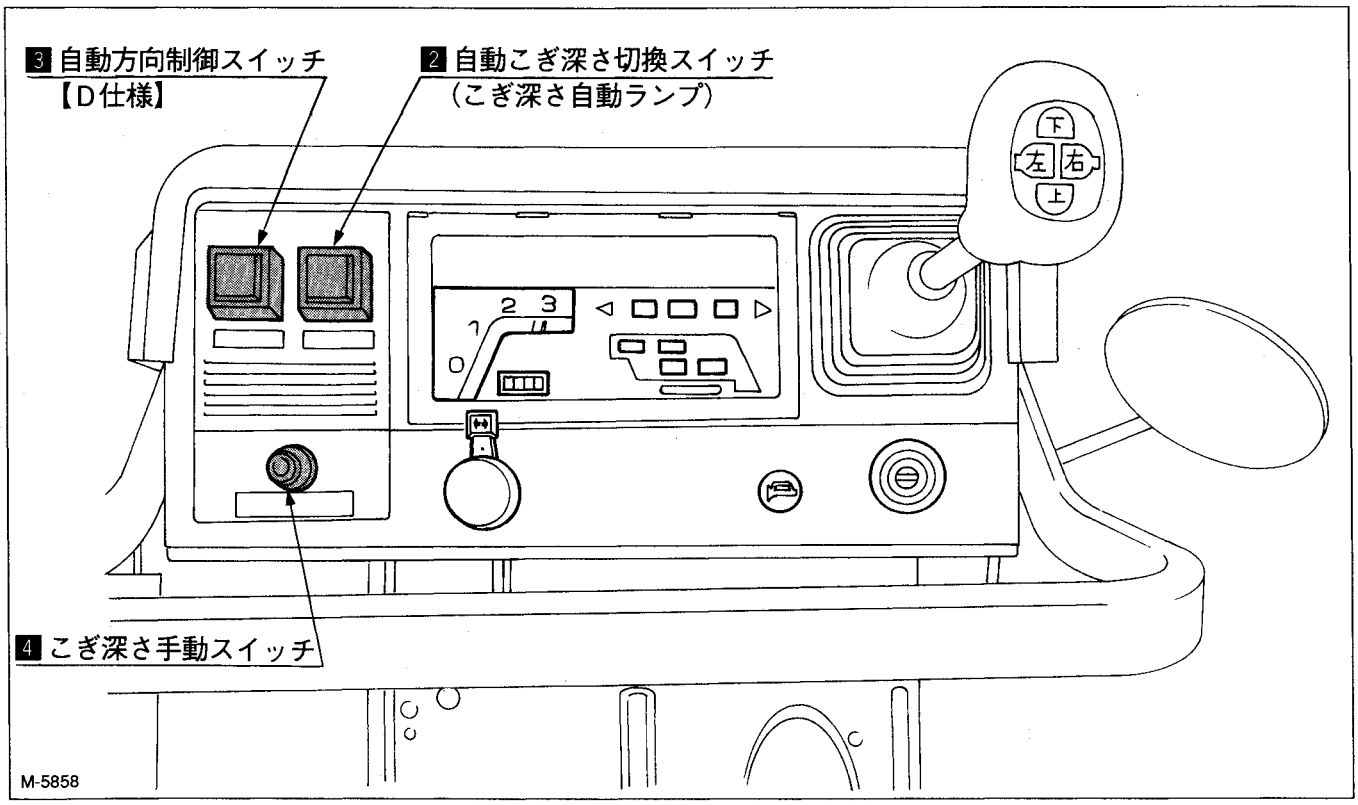


9 バックミラー

後方視野がじゅうぶんに確認できる位置に調整してください。



自動装置



1 自動エンジン停止 …… 10
2 自動こぎ深さ切換えスイッチ …… 10
3 自動方向制御スイッチ …… 10
4 こぎ深さ手動スイッチ …… 10

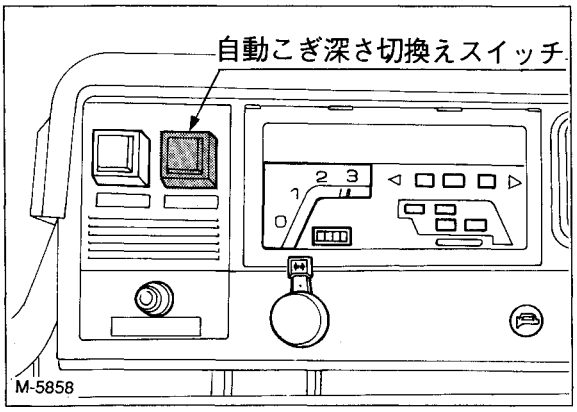
1自動エンジン停止

フィードチェーン終端部・排わら搬送チェーン部・カッタ部にわらが詰まったり，結束機の結節部にわら・ひもが巻付いたとき，自動的にエンジンが停止する装置です。

2自動こぎ深さ切換えスイッチ

“自動”……スイッチを押すとロックされ，自動ランプが点灯し自動こぎ深さ制御が作動します。

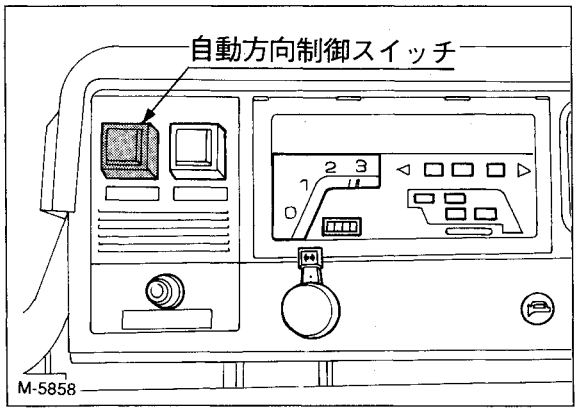
“手動”……スイッチを再び押すとロックが外れ，自動ランプが消灯し，自動こぎ深さ制御が解除されます。



3自動方向制御スイッチ【D仕様】

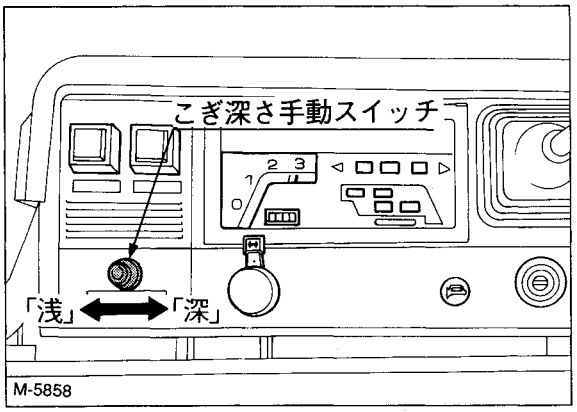
“自動”……スイッチを押すとロックされ，自動ランプが点灯し自動方向制御が作動します。

“手動”……スイッチを再び押すとロックが外れ，自動ランプが消灯し，自動方向制御が解除されます。



4こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに適したこぎ深さに手動で調節するスイッチです。



運転前の点検

点検は，運転前欠かさず行なってください。

注 意

＊火気厳禁

＊点検をするときは，エンジンを必ず止めてください。

重 要

＊燃料・オイルをこぼしたときは，きれいにふき取ってください。

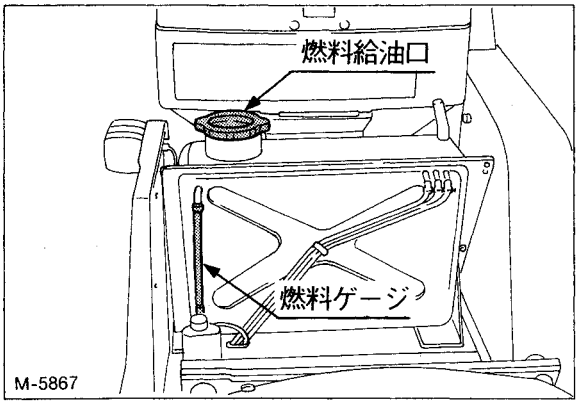
＊エンジン・マフラ・脱こく機及びカッタ結束機のベルトカバー内，バッテリにわらくずがたまっていると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

日常点検項目

<ここを>		→ <こうする>	
燃料タンク		＊作業に必要な燃料があるか。	＊ディーゼル軽油を補給する。 容量……14L
冷却水		＊ラジエータに適量あるか。 ＊リザーブタンクに適量あるか。 (必ず"L"(下限)と"H"(上限)の間にあること)	＊不足していれば清水を適量補給する。 ("H"(上限)以上には入れないこと)
エンジンオイル		＊オイルゲージの上下刻線の間に油量があればよい。	＊補給する。 クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) 15℃以下：D10W30(オールシーズン用) 15℃以上：D30又はD10W30
ランプ		＊ヘッドランプ，ウィンカランプがスイッチ"入"で点灯するか。	＊電球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。 ＊その他の場合は，販売店へ相談してください。
ホーン		＊ホーンスイッチを押せば鳴るか。	＊ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。 ＊その他の場合は，販売店へ相談してください。
バックブザー		＊主変速レバーを後進位置にしたとき，バックブザーが鳴るか。	＊ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。 ＊その他の場合は，販売店へ相談してください。
エンジンを始動して	イージーチェッカ	＊オイルランプ，チャージランプは消灯するか。 ＊回転計は正常に作動するか。	＊エンジンオイルを補給する。 ＊充電する。 ＊異常箇所を調べ，処置する。
反射器		＊汚れはないか。 ＊確実に取付けてあるか。	＊掃除する。 ＊締付けなどの処置をする。
防じんあみ ラジエータフィン		＊防じんあみの目詰まりはないか。 ＊ラジエータフィンの目詰まりはないか。	＊ブラシで，清掃してください。 ＊ラジエータフィンは，水道水か圧縮空気で清掃してください。

<ここを>		<こうする>
エアクリーナ	＊ダストカップ及びエレメントにほこりが詰まっていないか。	＊清掃する。
マフラ排気管	＊高温部にわらがたまっていないか。 ＊排気口が泥で詰まっていないか。	＊わらを取除く。 ＊詰まった泥を取除く。
刈取り駆動ベルト	＊ベルトの伸びはないか。	＊点検調整をする。
ベルトカバー内	＊わらくずがたまっていないか。	＊清掃する。
縦スクリュケース ２番スロワ	＊わらくず，もみがたまっていないか。	＊清掃する。
注油 ○油差しでの注油 ●排わら穂先チェーン 排わら株元チェーン ●株元供給チェーン ●穂先供給チェーン ●フィードチェーン ●排わらチェーン テンション支持部	＊わら，ホコリはたまっていないか。	＊わら，ホコリを取除いてじゅうぶん注油する。
○集中注油 ●左引起しチェーン ●右引起しチェーン ●刈刃左右	＊わら，泥はたまっていないか。 ＊錆びていないか。	＊わら，泥を取除いてじゅうぶん注油する。

■燃料の点検



■冷却水の点検

重　要

＊ラジエータへの補給は，きれいな真水を使用してください。（不凍液を使用すると濃度が高くなり過ぎます。）
ごみや異物などを混入しないでください。

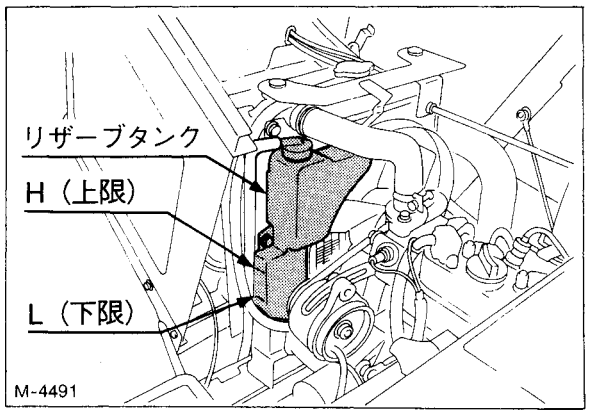
＊ラジエータのキャップ，ドレーンプラグなどは確実に閉め，パイプが折れないようにしてください。

冷却水容量 （リザーブタンクは含まない）	2.1L
リザーブタンク容量	0.25L

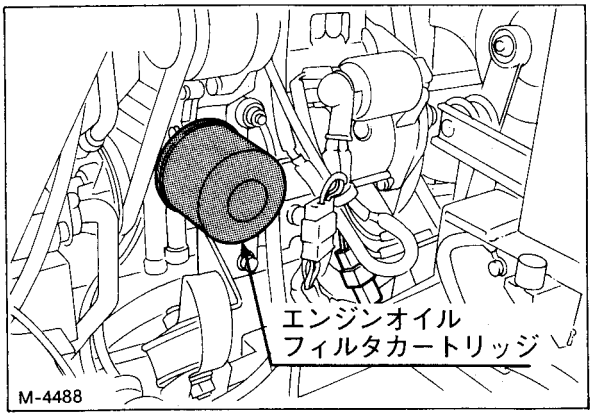
ラジエータにはリザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。

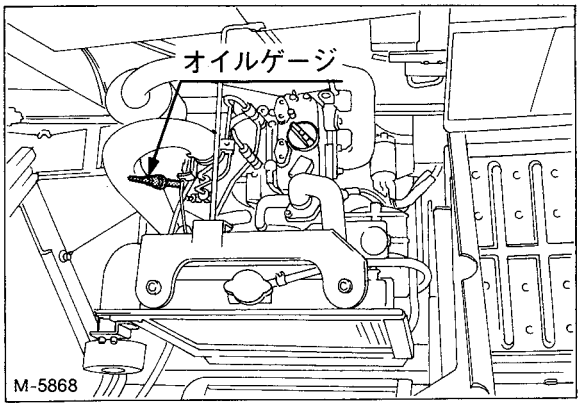
“L”（下限）**から “H”**（上限）**の間”** であれば正常です。通常は補給の必要はありませんが，リザーブタンクの冷却水が **“L”**（下限）以下の場合は，**“L”**（下限）と **“H”**（上限）のレベルの間まで清水を補給してください。

“H”（上限）以上は入れないでください。

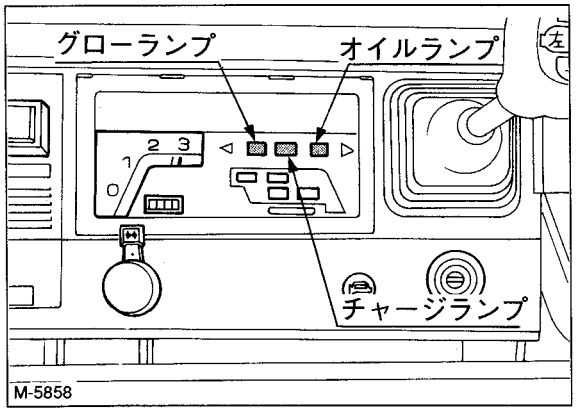


■エンジンオイルの点検

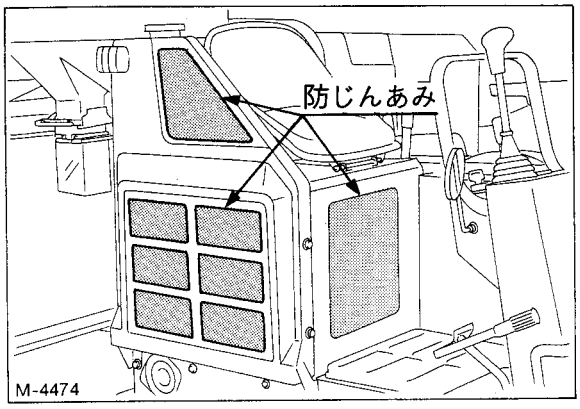




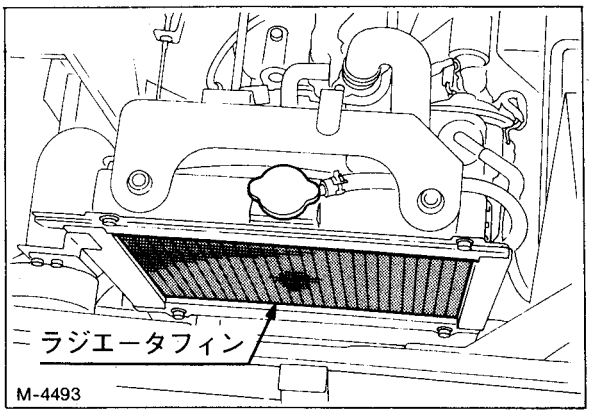
■イージーチェッカの点検



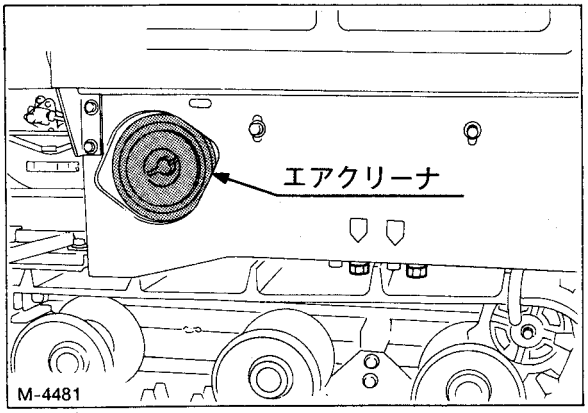
■防じんあみの清掃



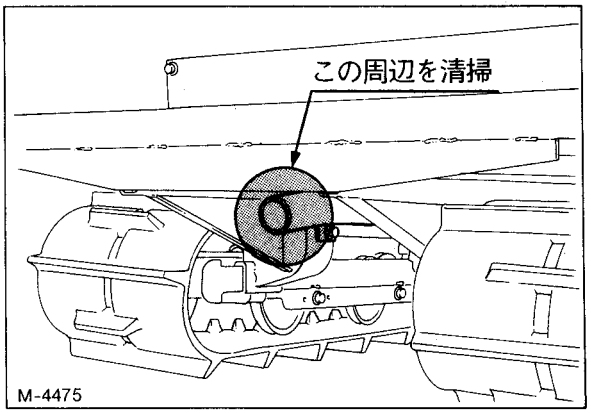
■ラジエータフィンの点検



■エアクリーナの清掃

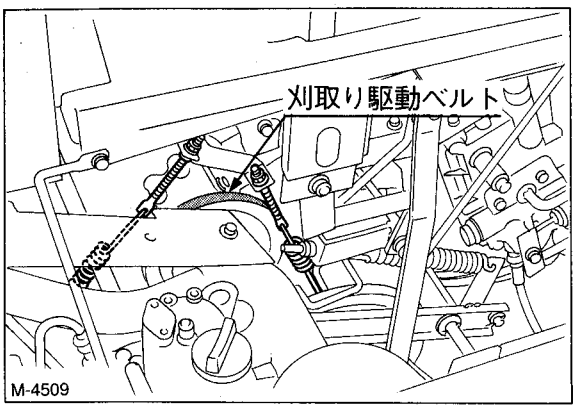


■マフラ排気管の清掃

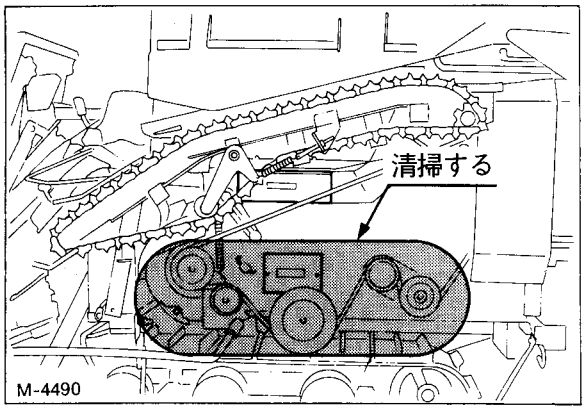


■刈取り駆動ベルトの点検

刈取り駆動ベルトの伸びを点検してください。
調整方法は66ページを参照してください。

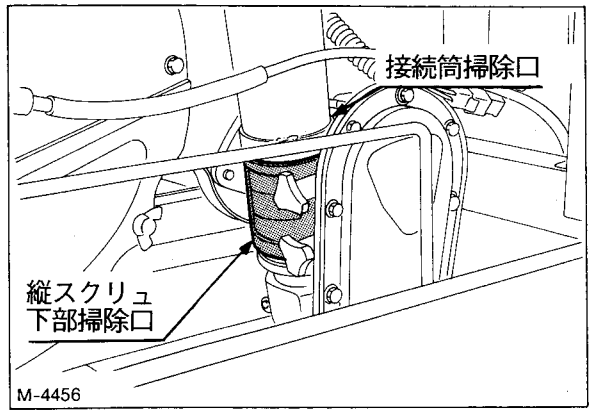


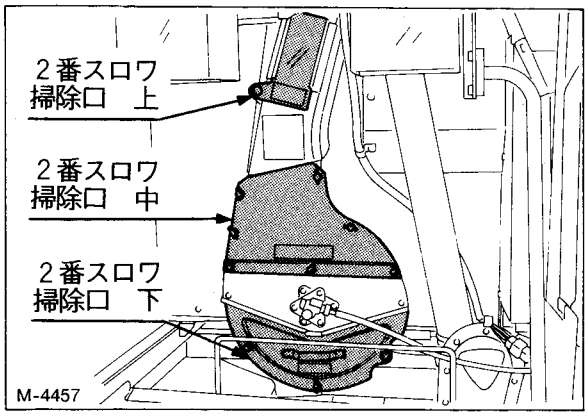
■ベルトカバー内の清掃

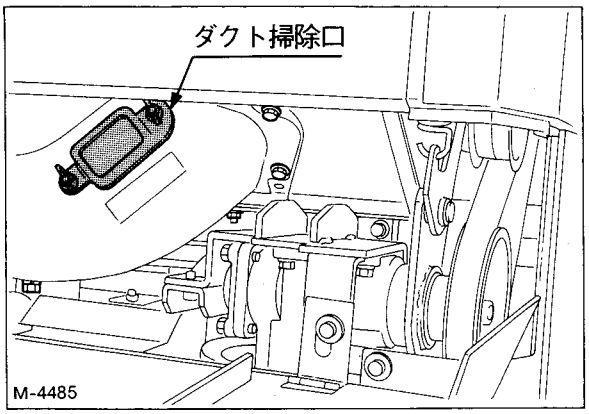


■縦スクリュケース，２番スロワ内の清掃

＊わらくずが多量にあると，詰まりの原因になります。







■油差しでの注油箇所

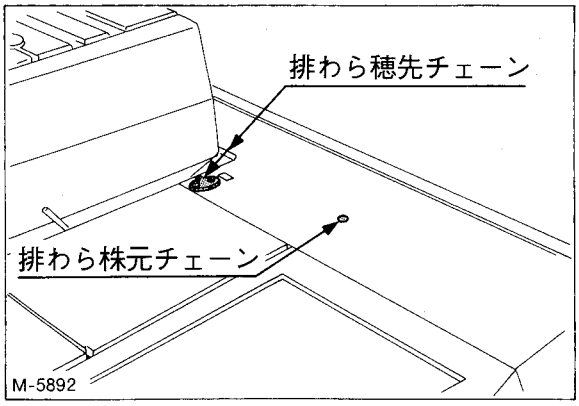
注　意

＊注油時は，エンジンを必ず止めてください。

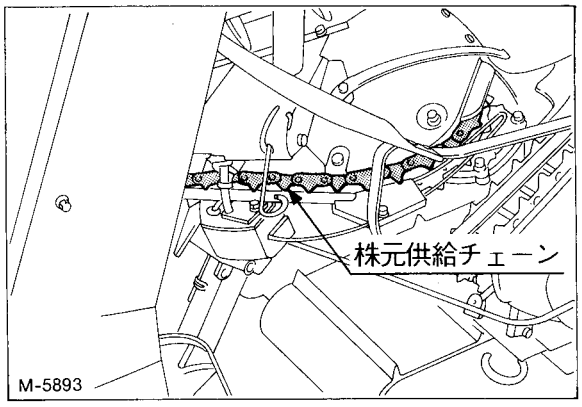
油差しは工具袋に入っていますので取出してオイルを入れてください。

◆排わら穂先チェーン，排わら株元チェーン

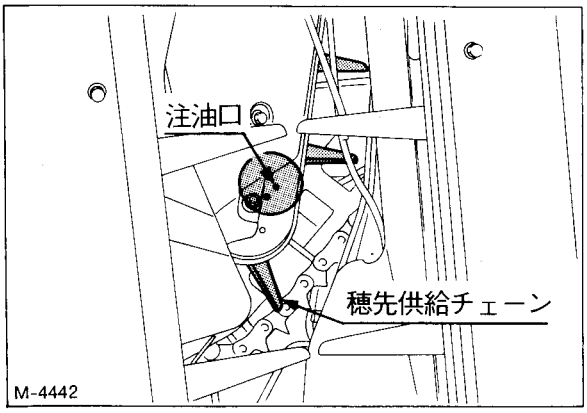
毎日作業前に，たっぷり注油してください。注油しないと爪が早期摩耗します。(クボタ純オイルM90)



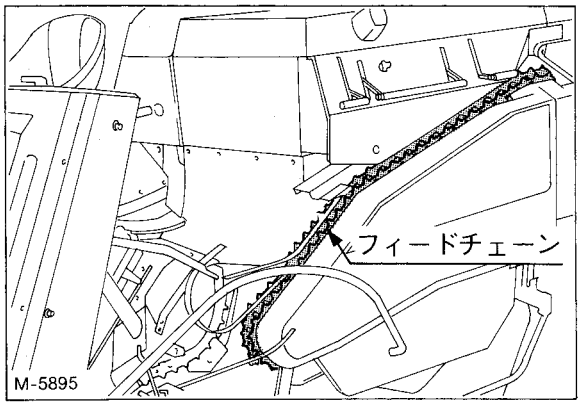
◆株元供給チェーン



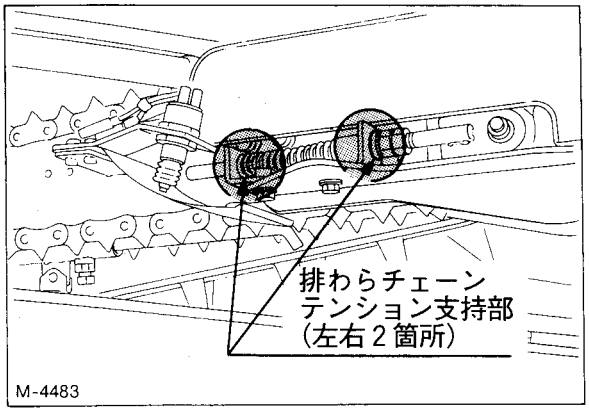
◆穂先供給チェーン



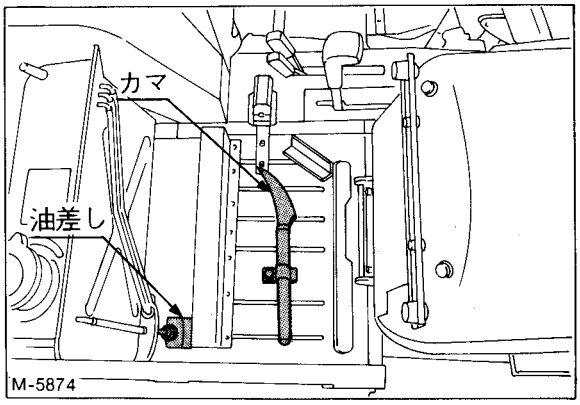
◆フィードチェーン



◆排わらチェーンテンション支持部



◆油差し収納位置



■集中注油装置

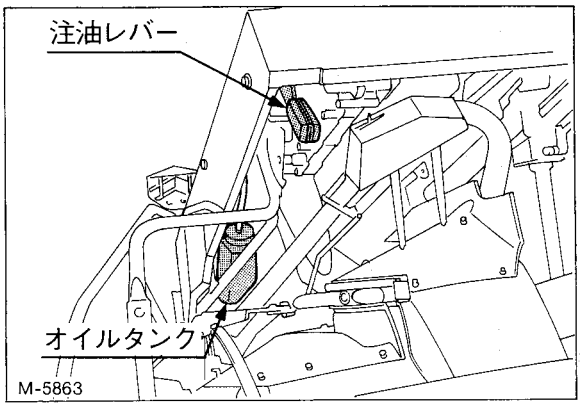
重　要

＊オイルはディーゼルエンジン用オイルD30又はD10W30を使用してください。（オイル量約0.5L）
＊ごみの混入は，ノズルの詰まりの原因になりますので注意してください。
＊気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。

注油レバーの操作により，各作動部に一度に注油できます。毎日の作業前に刈取部を中速回転しながら，注油レバーを３～４回動かして注油してください。なお，オイルタンクの油量も確認してください。

◆注油箇所

＊左引起しチェーン
＊右引起しチェーン
＊刈刃左右
その他の部分は，油差しで注油してください。



【タンクへの給油方法】

オイルタンクのキャップを外し，出荷部品のじょうごで給油するか，オイルタンクを外して給油してください。

エンジンの始動と停止

注 意

＊安全に作業するために，取扱説明書の“黄色のページ”はもちろん，機械の使い方を覚えてください。
＊コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊屋内は排気ガスがたまりやすく，ガス中毒のおそれがあるのでドアや窓を開け換気をしてエンジンを始動してください。
＊周囲の人に始動の合図をして、始動操作は運転位置で行なってください。
＊各クラッチレバーを“切”又は“停止”主変速レバーを“N”（中立）にして始動してください。

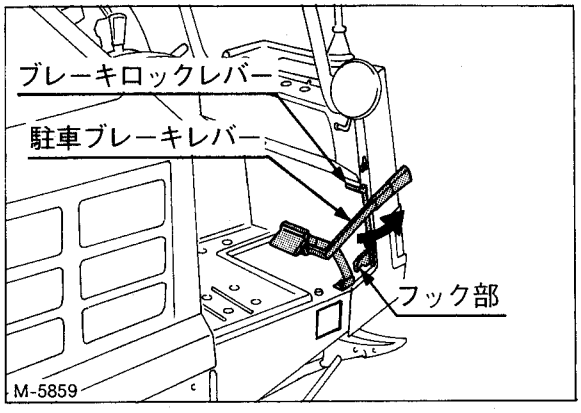
エンジンの始動

1 駐車ブレーキをかける

警 告

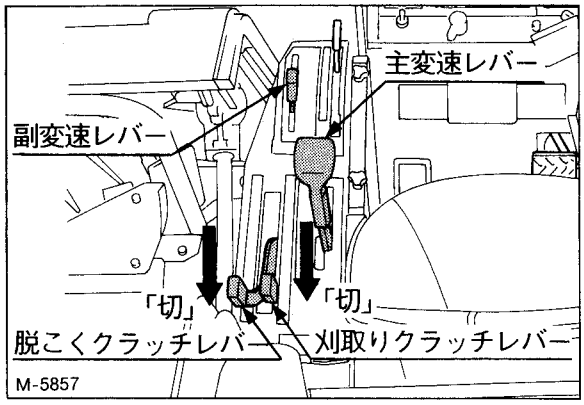
＊坂道で駐車ブレーキを掛けるときは，駐車ブレーキをロックし，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

(1)駐車ブレーキレバーを下げ，ブレーキロックレバーを外側に回し，駐車ブレーキレバーをフック部に引っ掛けてください。駐車ブレーキがかかります。
(2)駐車ブレーキレバーを下げてください。自動的に解除されます。



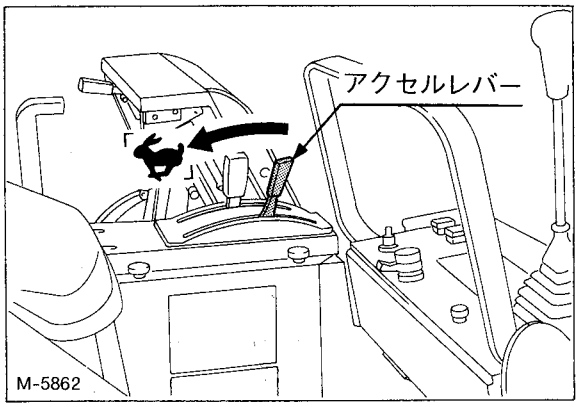
2 各種レバー位置を確認する

❶主変速レバーを“N”（中立）にしてください。
❷刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーを“切”の位置にしてください。

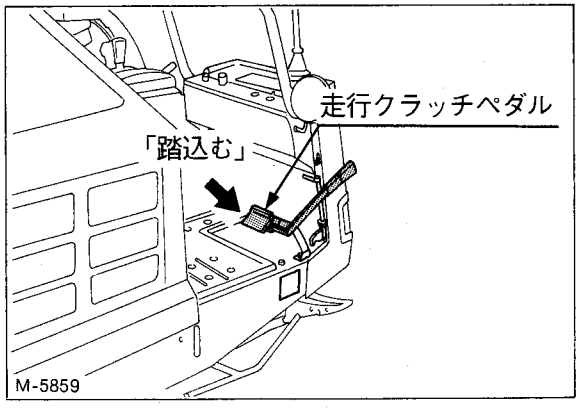


3 アクセルレバーをセットする

アクセルレバーを“🐇”の位置まで上げてください。



4 走行クラッチペダルをいっぱいに踏込んでください

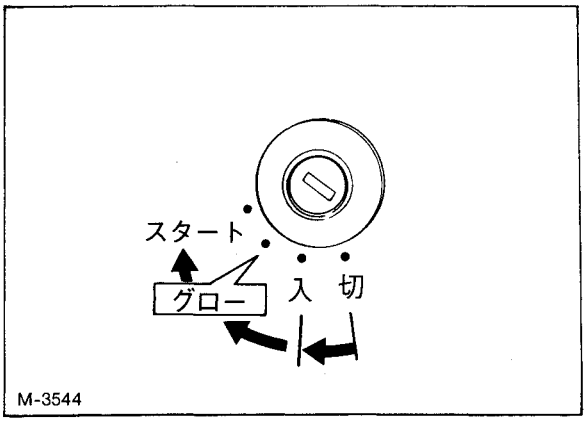


5 メインスイッチの操作

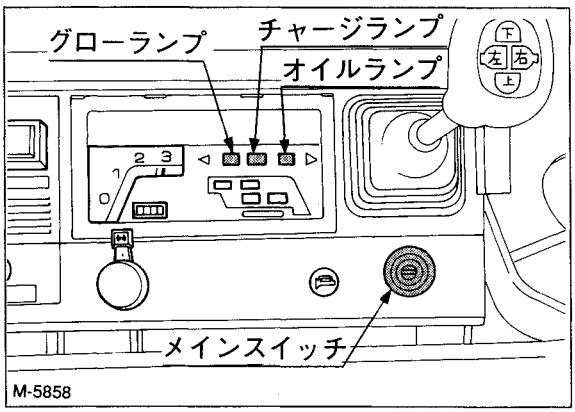
重 要

＊走行クラッチペダルを踏込み，また脱こくクラッチレバーを“切”にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。
＊アクセルレバーを“🐇”の方へあげてエンジンを始動してください。
＊メインスイッチを“スタート”にし，セルモータを回して10秒たっても始動しないときは，いったんメインスイッチを切って，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。
＊エンジンが始動すれば，暖機運転をしてください。

❶キーを差込み**“入”**の位置にセットしてください。
❷周囲の人に始動の合図を送り，安全を確認してください。
❸メインスイッチを**“グロー”**まで回し，イージーチェッカのグローランプが消えるまで（約５秒）待ってください。



❹グローランプが消えれば**“スタート”**までメインスイッチを回し，エンジンが始動すれば，キーから手を放してください。
❺エンジンが始動すれば，オイルランプ，チャージランプが消灯していることを確認してください。



◆暖機運転のしかた

注 意

＊暖機運転中は必ず平地で駐車ブレーキをかけて，主変速レバーを“N”(中立)にして行なってください。

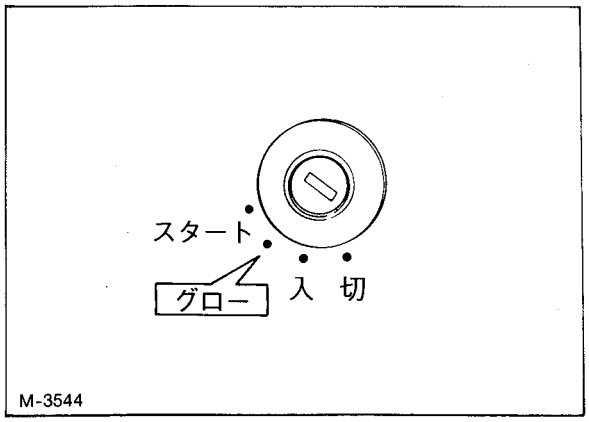
始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，回転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

寒冷時のエンジンの始動

重　要

＊エンジン回転を中間スピードに保ってください。
＊もし，エンジン，トランスミッションオイルを暖める前にコンバインを操作すると，コンバインの寿命が短くなります。
＊暖機運転は必ず平地で行なってください。

外気温が－5℃以下のときは，キーを**“グロー”**の位置に回すと約5秒間ランプ点灯します。グローランプ消灯後もグロー位置にしていますと予熱します。



◆寒冷時の暖機運転とミッションオイルについて【R1-121A】

このコンバインは油圧変速・油圧走行クラッチが採用されております。
特に寒冷地では，気温が下がって冷えると粘度が高くなって始動時に油圧の立上がりが遅かったり，正常な圧力が得られなかったりすることがあります。このようなことをなくするため，下表のとおり暖機運転をしてください。
これを怠ると油圧系統の故障を引起し，油圧クラッチの損傷，方向変換不能の状態になります。
(1)コンバインの始動時は必ず暖機運転をしてください。

気　　温	暖機運転時間
－10℃	約10分
－10℃～－15℃	10～15分
－15℃～－20℃	15～20分
－20℃以下	20分以上

(2)寒冷地域（－15℃以下）では下記のミッションオイルを使用していただくことをおすすめします。
暖機運転は10分程度で済みます。
このオイルはそのまま夏期にも使用できます。

メーカ名	オイル名
コスモ石油 日本石油	クボタ純オイルNEW・UDT

(3)上記のミッションオイルを使用しても，気温が－20℃以下の場合は15分～20分の暖機運転をしてください。

■燃料切れ後の再始動のしかた

❶運転中に燃料切れで停止した場合は各クラッチを**“切”**にしてください。
❷燃料タンクに燃料を補給してください。
❸**“エンジンの始動”**の項1から5を確認の後，セルモータを回してください。エンジンが始動します。
❹エンジン回転が安定したのを確認後，作業に入ってください。

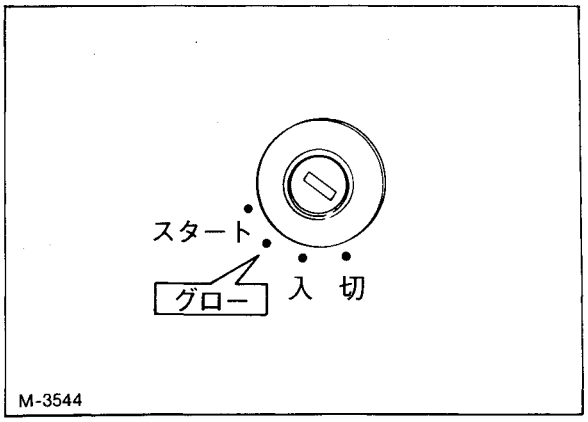
エンジンの停止

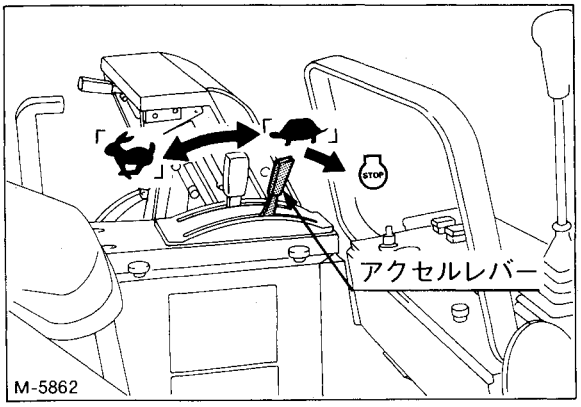
重 要

＊作業中は、脱こく，刈取りクラッチレバーを“切”にした後，メインスイッチを“切”に戻してください。

＊停止後，メインスイッチを，“入”で放置すると，電流が流れたままですので，“バッテリ上がり”の原因となります。

メインスイッチを**“切”**にしてください。エンジンが停止します。同時にアクセルレバーは“⊛”(エンジン停止)位置に戻ります。





重 要

＊アクセルレバーを“⊛”(エンジン停止)位置に戻してエンジンを停止した場合は，エンジンスイッチを必ず“OFF”(切)に戻してキーを抜取ってください。

コンバインの運転

新車時の扱い方

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響をおよぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取り作業は避けましょう。コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を厳守してください。

■初期５０時間のならし運転

＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖気運転をしてください。
＊エンジンは規定刈取り作業回転数以上にセットしないでください。
＊高速での刈取り作業は避けてください。
＊整地されていない凹凸道路では適切な低速走行をしてください。
以上は，ならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

■油脂・フィルタ類の交換とチェーン・ベルトの張り調整

＊新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，エンジンオイルは初期35時間，トランスミッションオイルは初期50時間で交換してください。
＊チェーンやベルト類はならし運転中に初期伸びが発生します。初期50時間（クローラは初期20時間）で張り調整をしてください。

発進

注　意

＊始動操作は運転席で行なってください。
＊周囲の人に合図をしてから始動してください。
＊各クラッチレバーを“切”にして始動してください。
＊運転者以外に運転席に乗せないでください。

1 バックミラーの確認

右の後方視野がじゅうぶんに確認できる位置に調整してください。

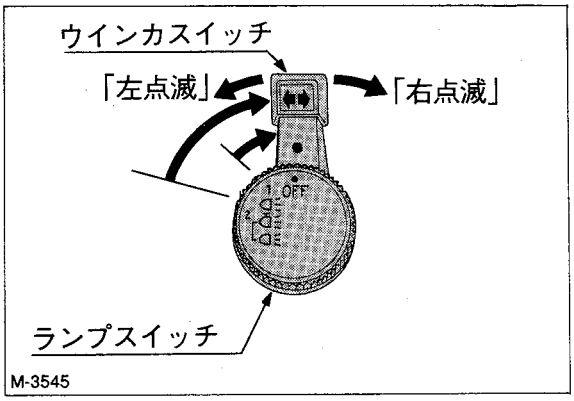
2 コンビネーションスイッチ

◆ランプスイッチ

“ＯＦＦ”　(切)……ヘッドランプ消灯位置
“1”
“2”　(入)……ヘッドランプ点灯

◆ウインカスイッチ

(1)旋回方向に操作すると，ウインカランプおよびメータパネル内のパイロットランプが点滅します。
(2)旋回が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。

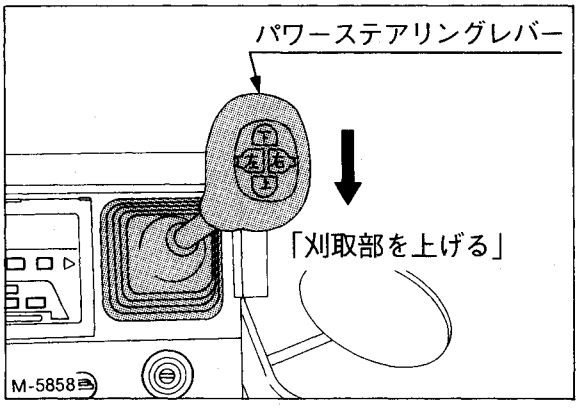


3ホーンスイッチの操作

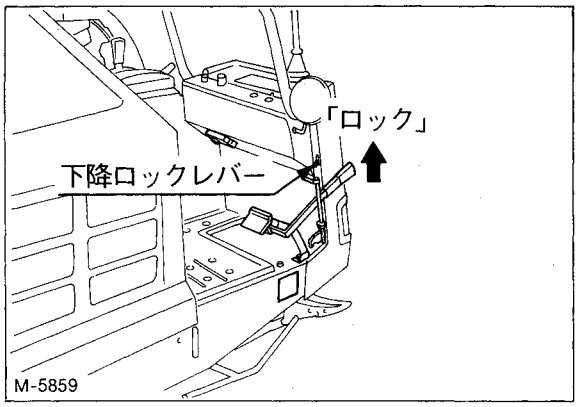
ホーンスイッチを押して鳴らし，周囲の人に始動の合図を送り安全を確認してください。

4刈取部を上げる

❶パワーステアリングレバーで刈取部を上げてください。



❷刈取部の下降ロックレバーを**“ロック”**位置にセットしてください。

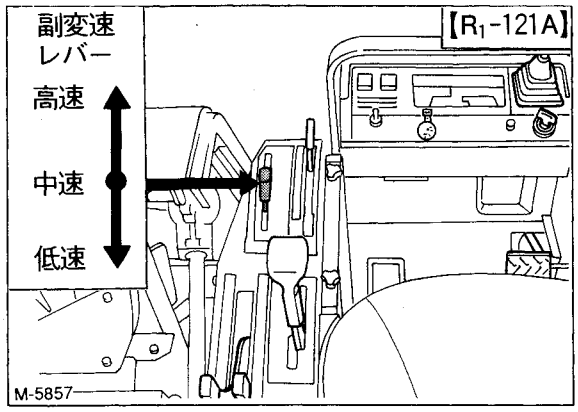


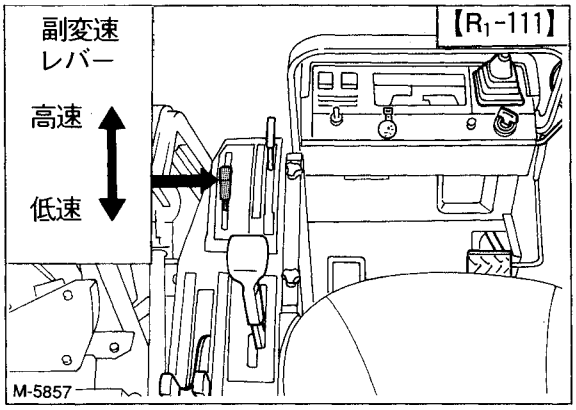
5走行速度の選択

重 要

＊副変速レバーの切換えは，必ず走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでから，行なってください。

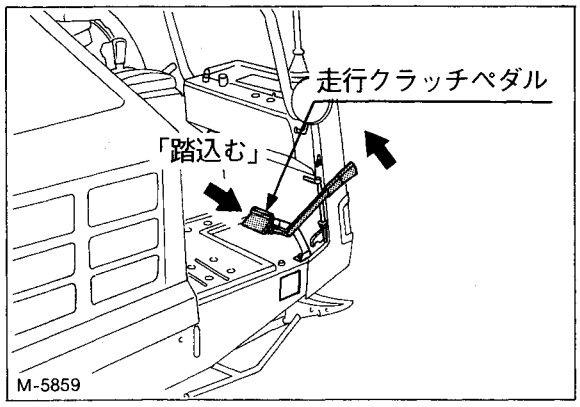
走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，副変速レバーで速度を選定してください。





6 駐車ブレーキの解除

走行クラッチペダルを強く踏込み，駐車ブレーキのロックを外してください。



7 発進と操向

重 要

＊砂利道での急旋回は，クローラに石がかみ，故障するおそれがあるので避けてください。

＊刈取部は上げたまま長時間経過すると下降することがありますので注意してください。

【R1-111 (SWK)】

＊主変速レバーの切換えは，必ず走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでから，行なってください。

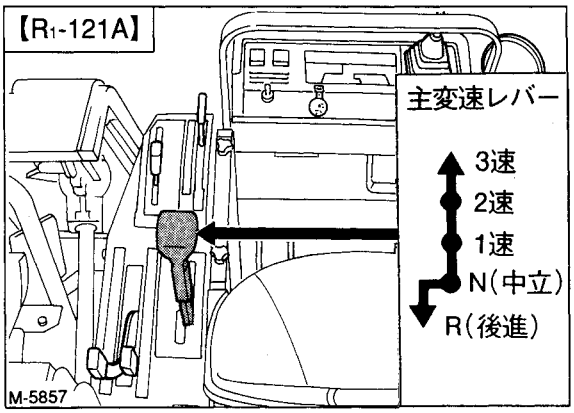
❶ **【R1-121A】**

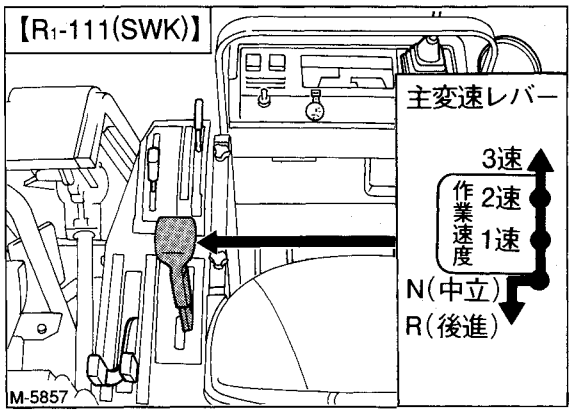
主変速レバーを前に倒すと **“前進”** しますので１速から発進し，適切な速度で走行してください。

後進は主変速レバーを後進側に倒すと **“後進”** します。

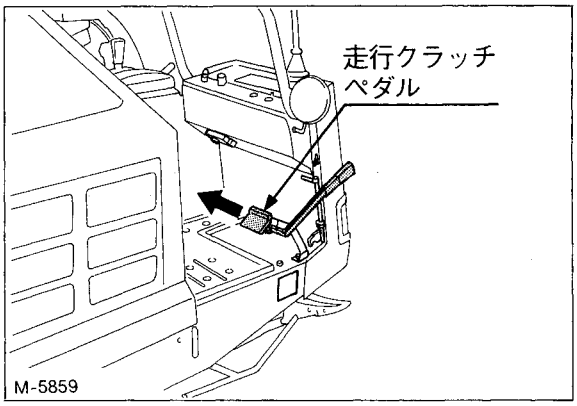
【R1-111 (SWK)】

走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，主変速レバーを操作して走行速度を選んでください。



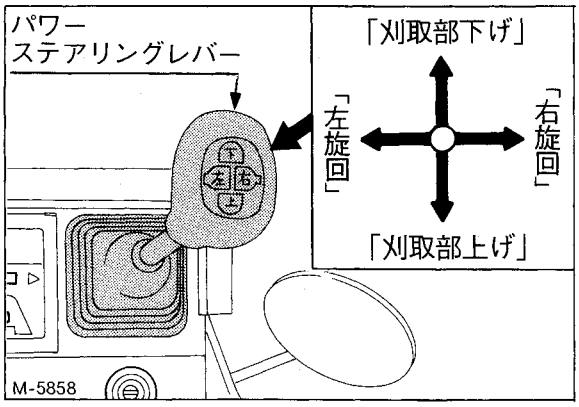


次に走行クラッチペダルをゆっくり離してください。



❷方向転換のときは、パワーステアリングレバーを軽く左または右に倒します。

強く倒すと急旋回しますので注意してください。



停車

注 意

＊コンバインを離れるときは，平地で安全な場所に置き，刈取部を降してエンジンを止め，駐車ブレーキをロックしてください。

❶停車のしかた

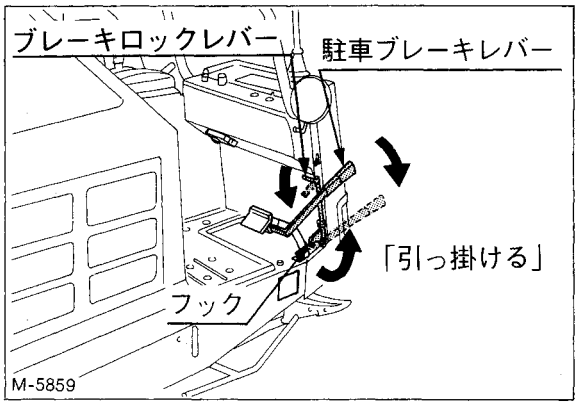
注 意

＊緊急停止を要するとき及び坂道で停車をするときは，走行クラッチペダルをすみやかにいっぱい踏込んでください。ブレーキがかかります。坂道で走行クラッチペダルを離すと，ずり落ちることがありますので，注意してください。

❶主変速レバーを“N”(中立)にしてください。
❷ 作業中は，脱こく・刈取りクラッチレバーを“切”にしてください。
❸駐車ブレーキを“ロック”してください。
❹メインスイッチを“切”に戻し，エンジンを停止してください。
❺キーを抜いてください。

❷駐車ブレーキ操作

駐車ブレーキをかける場合，駐車ブレーキレバーを下げ，ブレーキロックレバーを外側に回し，駐車ブレーキレバーをフック部に引っ掛けてください。駐車ブレーキがかかります。駐車ブレーキを解除する場合，駐車ブレーキレバーを下げてください。自動的に解除されます。

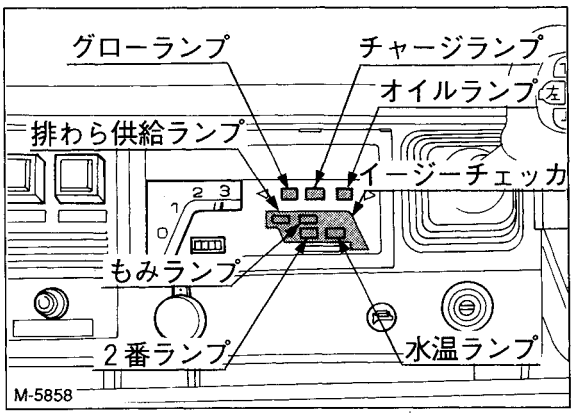


エンジン運転中の異常点検

■イージーチェッカ

重 要

＊イージーチェッカのみで日常点検を済ませないで，点検は確実に行なってください。



《🛢》 オイルランプ
エンジン回転中で点灯したままのときは，エンジンを停止させ，エンジンオイル量を点検してください。

《⚡》 チャージランプ
エンジン回転中で点灯したままのときは，エンジンを停止させ，充電系統を点検してください。

《〰》 グローランプ
メインスイッチを“グロー”位置で保持すると約5秒間グローランプが点灯します。そしてグローランプが消灯したら，メインスイッチを“スタート”位置にしてください。

《モミ》 もみランプ
グレンホッパが満杯になったとき，ランプが点滅し，ホーンが鳴ります。

《排わら・供給》 排わら・供給詰まり警報ランプ
❶排わらチェーンにわらが詰まったとき点滅し，ブザーが断続的に鳴り，エンジンが自動停止します。
【結束機仕様の場合】
＊結束機の結束部にわら・ひもが巻きついたときと，ひもがないときに点滅し，エンジンが自動停止します。
❷株元供給チェーンにわらが詰まったとき，点滅し，ブザーが連続して鳴ります。

《2番》 2番ランプ
ランプが点滅し，ブザーが鳴ったときは，脱こく機の２番口の詰まりを取除いてください。

《水温》 水温ランプ
運転中に点灯し，ブザーが鳴ったときは，エンジン停止後30分以上経過してから，エンジンルームを開けて冷却水の量及びラジエータフィン・防じんあみの目詰まりを点検してください。

◆点検方法

(1)エンジン停止中にメインスイッチを**“入”**にすると，全てのランプが点灯し，検知箇所に異常がなければ消灯します。ただし，オイルランプとチャージランプは点灯したままですが，エンジンを始動すると消灯します。

(2)エンジン回転中に検知箇所に異常があればランプが点灯し異常を知らせます。

移動走行前の準備

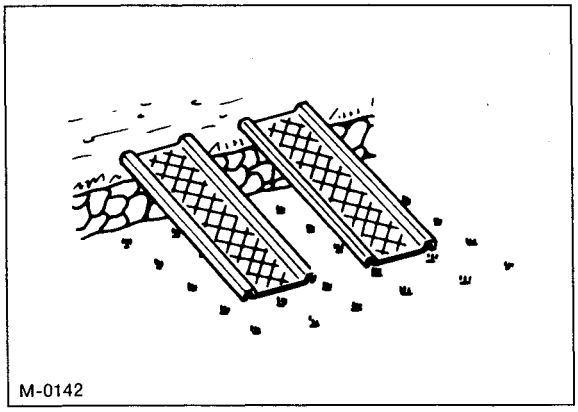
注 意

＊このコンバインは“道路運送車両法”に適合しないので公道走行はできません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。

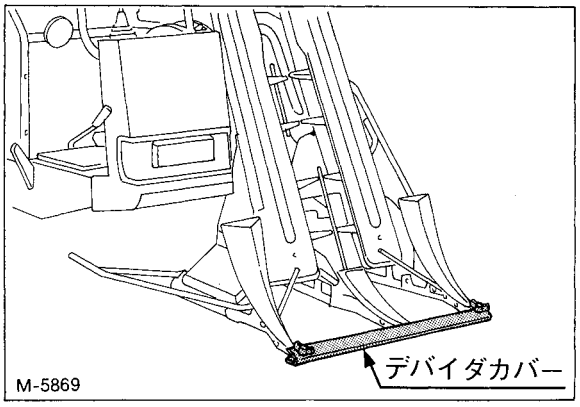
＊高速走行時，パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回時は低速に落としてからレバーを操作してください。

＊あぜの乗り越えは，もみ袋を降し，ホッパのもみを取出した状態で低速であぜに直角に進入してください。10cm以上のあぜ，又はコンクリート畦畔などの段差のあるところでは，段差の４倍以上の長さですべり止めがあり，基準にあったあゆみ板を使ってください。

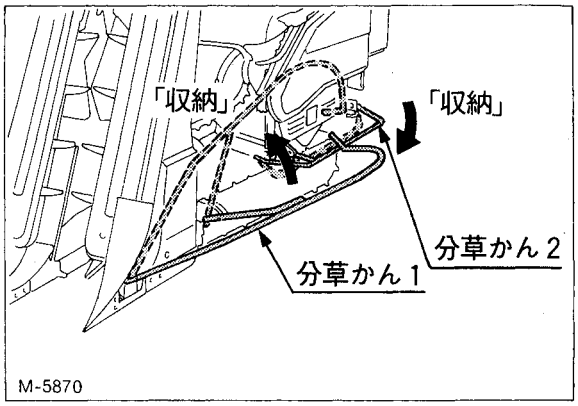
＊踏切を渡る場合は必ずいったん停止し，列車通過の有無を確認の上，速やかに渡ってください。



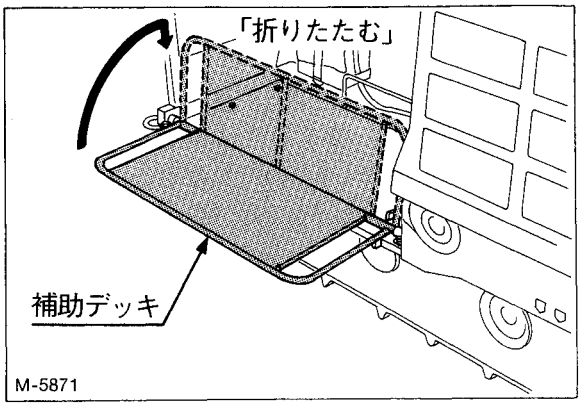
❶デバイダカバーを取付けてください。



❷分草かん１，分草かん２を収納します。

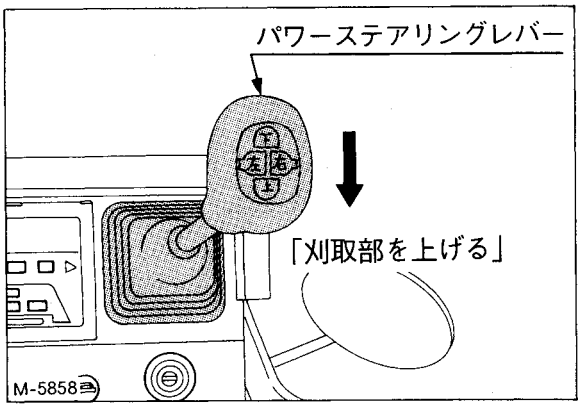


❸補助デッキを折りたたんでください。



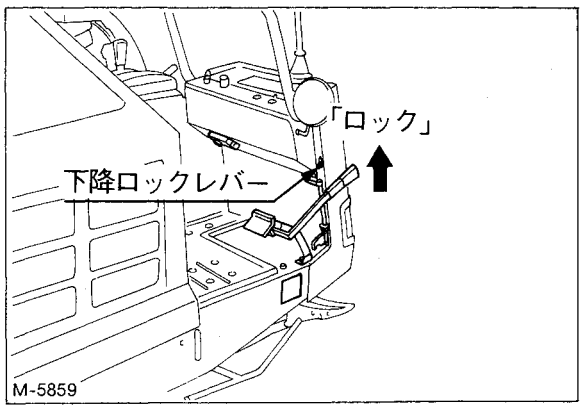
❹刈取部を上げる。

パワーステアリングレバーで刈取部を上げてください。



❺刈取部をロックする。

刈取部の下降ロックレバーを“ロック”位置にセットしてください。



トラックへの積込み・積降し

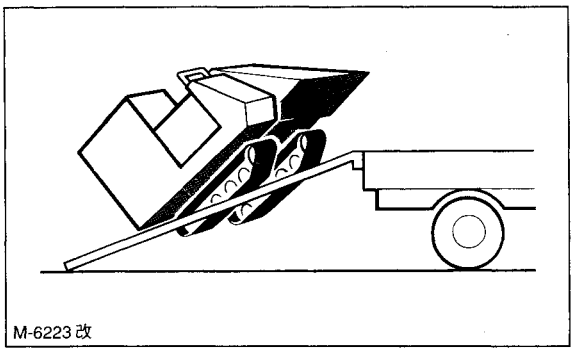
注 意

＊運転者は機械から降りて操作してください。
＊あゆみ板でトラックへの積降しは，平地を選び，できるだけ補助者の立合い誘導のもとで行なってください。
＊あゆみ板は段差の４倍以上の長さで，すべり止めがあり，基準にあったものを使い，安定・平行を確かめてください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	45cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が700kg以上の重量に耐えうる

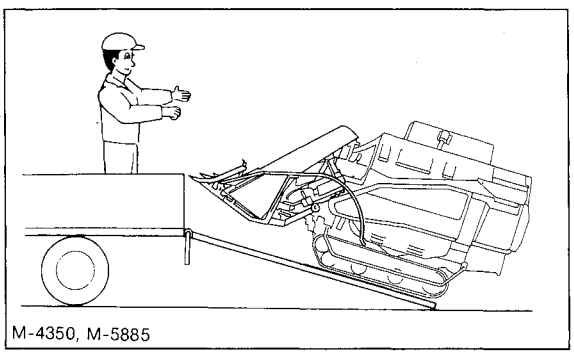
＊積込みは前進で，降すときは後進で低速で行ない，周辺に人を近付けないでください。
＊あゆみ板の途中で走行クラッチ・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないこと。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って向きを正し，再度やり直してください。


M-6223改

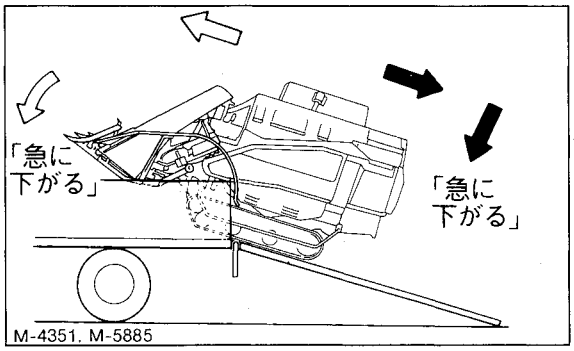
■積込み・積降しのしかた

注 意

＊平たん地を選び，できるだけ補助者の立合い誘導のもとで行なってください。また，コンバインの真後ろには立たないようにしてください。


M-4350, M-5885

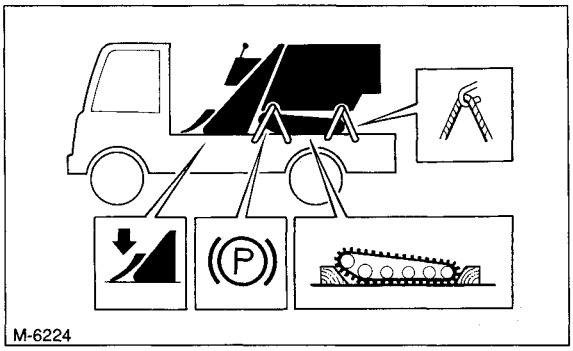
＊機体が凸部を越えるときは，急に角度が変わりますので，デバイダを手で押えるなど，じゅうぶん注意してください。



M-4351, M-5885

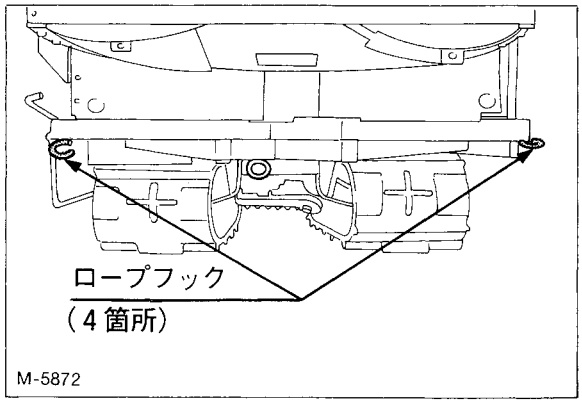
❶分草かん１，２を収納してください。
❷補助デッキを折りたたんでください。
❸パワーステアリングレバーで，刈取部を上限まで上げてください。
❹エンジン回転数を低速にしてください。
❺副変速レバーを“低速”にしてください。
❻主変速レバーを“１速”にしてください。

＊トラックの上では刈取部を床まで降し駐車ブレーキをかけ，ロープでしっかり床に固定します。
＊輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは荷動きが生じ危険ですから絶対しないでください。



M-6224

❼トラックやトレーラに積んで走るときは，ロープをフレームの所定の“ロープフック”（４箇所）に掛けてください。また，ブレーキレバーをフック部に掛けて駐車ブレーキを掛けてください。



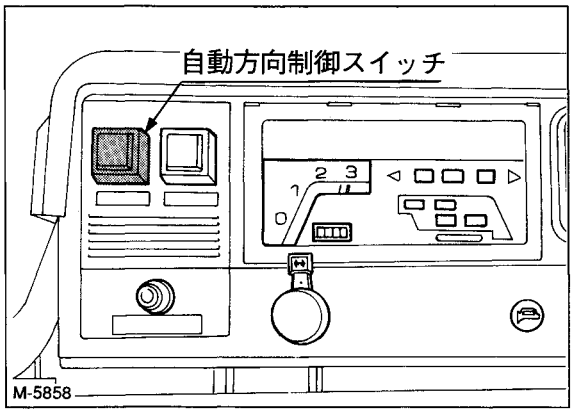
M-5872

自動装置の使いかた

■自動方向制御装置【D仕様】

◆自動方向制御の特長

＊刈取り作業中，方向センサが作物に接触すると感知し，自動的に方向制御しながら刈取り作業できる装置です。



◆操作のしかた

重　要

＊刈始めの条合わせ及びあぜぎわ刈りは“手動”で行なってください。
＊作物の倒伏が大きく（85度以上）根元から倒れている場合は，“手動”で行なってください。
＊バラ播きなどの条のないほ場では使用できません。

❶エンジンを始動し，脱こくクラッチレバーを**“入”**にして，エンジン回転数を合わせてください。(方向自動制御は刈取り作業中のみ作動します。)
❷自動方向制御スイッチを押して**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認してください。
❸刈始めて，株元センサが作物に接触すると，自動制御が作動します。

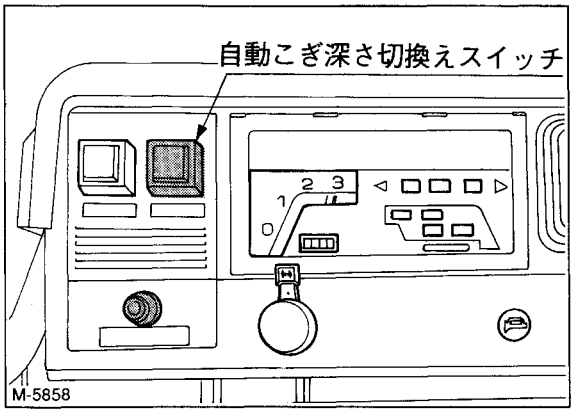
◆使用上の注意事項

(1)自動方向制御スイッチが**“自動”**でもパワーステアリングレバーによる操作が優先されます。
(2)自動方向制御スイッチ**“自動”**のまま横刈りをした場合は，刈始めの３～４秒間は自動制御により機体が振れますが，それ以降は自動制御を停止し，直進します。

■自動こぎ深さ制御装置

◆自動こぎ深さ制御の特長

＊刈取り作業中，作物が穂先センサに接触するとこぎ深さ制御が作動し，自動的に最適なこぎ深さに調節する装置です。



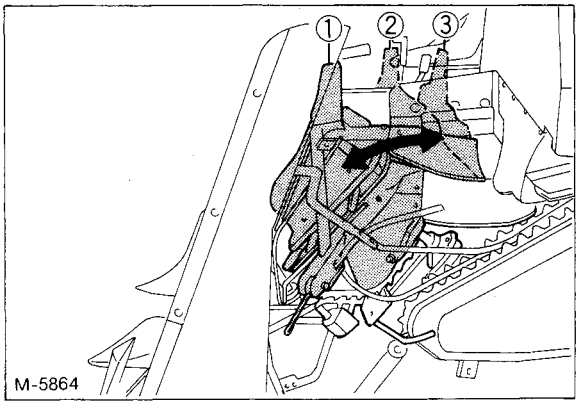
◆操作のしかた

重　要

＊走行クラッチペダル“切”では自動は作動しません。

❶エンジンを始動し，脱こくクラッチレバーを**“入”**にして，エンジン回転数を合わせてください。
❷自動こぎ深さ切換えスイッチを押して，**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認してください。
❸この装置は手動優先構造になっています。刈始める前に作物の長さを見て手動こぎ深さ操作装置で下図の位置に合わせてください。

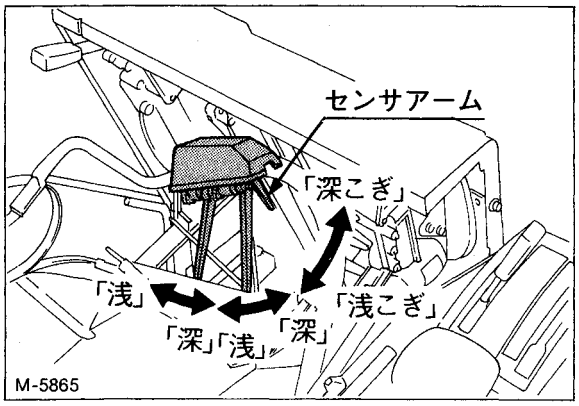
作物の長さ80 cm以下 …… ①の位置
作物の長さ80～100 cm …… ②の位置
作物の長さ100 cm以上 …… ③の位置



❹刈始めると適切なこぎ深さに制御されます。

◆センサ調節のしかた

脱こく部入口の**“▼マーク”**に穂先が合っていないとき，深こぎしたいとき，及び浅こぎしたいときは，センサアームで微調節してください。



◆使用上の注意事項

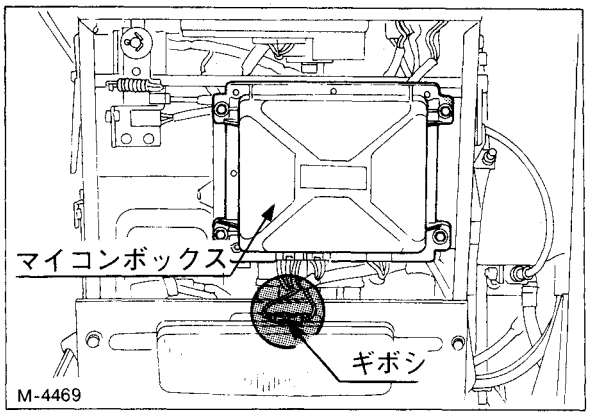
(1)自動制御で使用中にセンサにわら，雑草がからんだままになると誤作動することがありますので，取除いてください。

(2)あぜぎわの刈取り作業は，遅れ穂が多く，自動ではこぎ残しがでるおそれがあるので，自動を**“切”**にしてください。

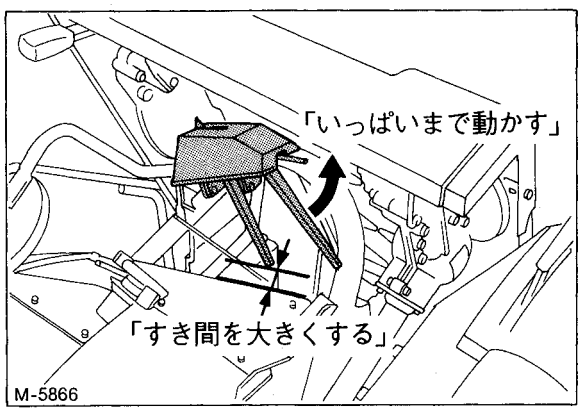
(3)遅れ穂の多いとき・雑草の多いとき，軟弱稲で搬送が乱れるときなどは，自動を**“切”**にしてください。

(4)脱こく入口に常時，わらくず，雑草がたまって誤作動する場合も自動を**“切”**にして作業してください。

(5)結束機使用時，結束ひもの位置がこぎ深さ調節により頻繁に変化するときは，下図のギボシを抜いてください。制御速度が遅くなり，株の揃いがよくなります。



(6)軟弱稲でボリュームが少ないとき，穂先が遅れるときはセンサを**“最深こぎ”**の位置に動かしてセンサが作物にふれないようにし，自動スイッチを**“切”**にして手動で作業してください。

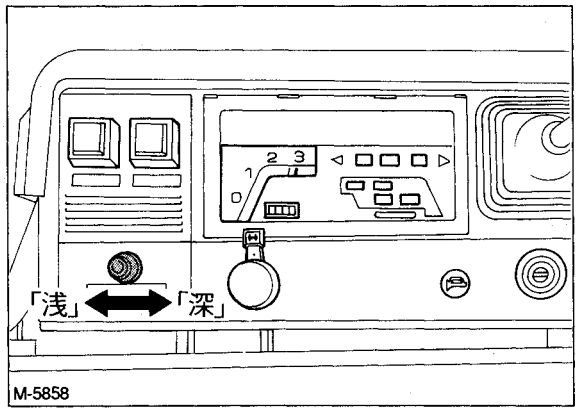


(7)操作パネル，マイコンボックス，センサ，モータなどには水をかけないように注意してください。

(8)草丈が80～90cmの作物では，自動のとき，深こぎになりやすいので，センサが最浅こぎになるようにセンサアームで調節してください。

■こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに適したこぎ深さに手動で調節するスイッチです。



■自動エンジン停止

フィードチェーン終端部，排わら搬送チェーン部・カッタ部にわらが詰まったり，結束機の結節部にわら・ひもが巻付いたとき，自動的にエンジンが停止する装置です。

■供給搬送詰まり警報

株元供給チェーンにわらが詰まったとき，ビーと連続ブザーが鳴ります。

上手な収穫作業のしかた

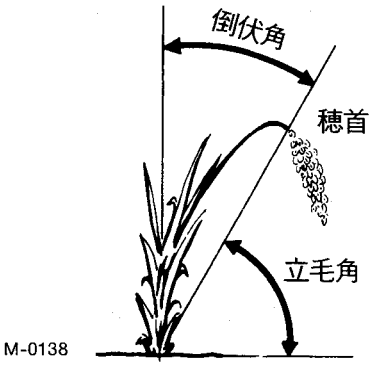
コンバイン作業ができる作物とほ場の条件

作物とほ場の条件によっては、正常なコンバイン作業ができないことがあります。まず作物とほ場の条件を確認してください。

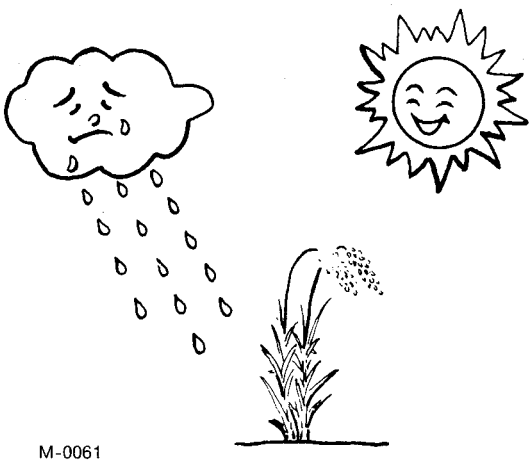
■作物の条件

(1)作物の長さ……全長55～120cm

(2)作物の倒れ(倒伏角)
- 追い刈り…85度以下。
- 向い刈り…60度以下。



(3)作物のぬれ……乾いていること。
(手でしごいてぬれない状態)

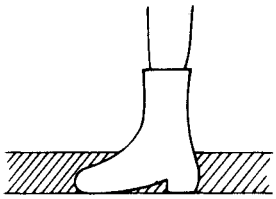


■ほ場の条件

重 要

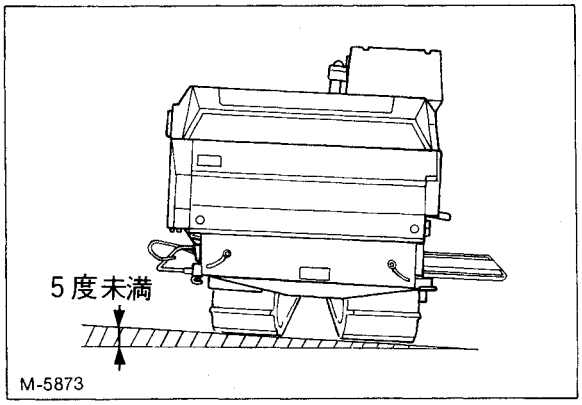
＊ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

(1)ほ場のぬかる度合…
- 足の沈み６cmまで。(標準仕様)
- 足の沈み15cmまで。(W仕様)
- 足の沈み25cmまで。(SWK仕様)



(長靴をはいた状態)

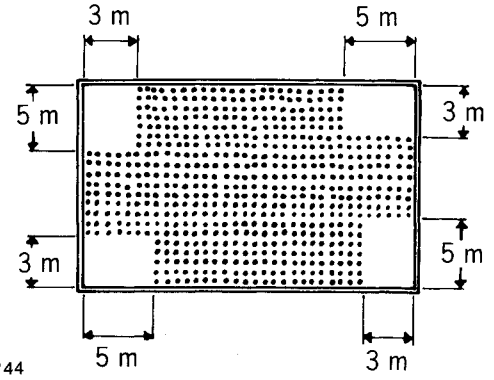
(2)機体の傾斜角度５度以上では，作業できません。



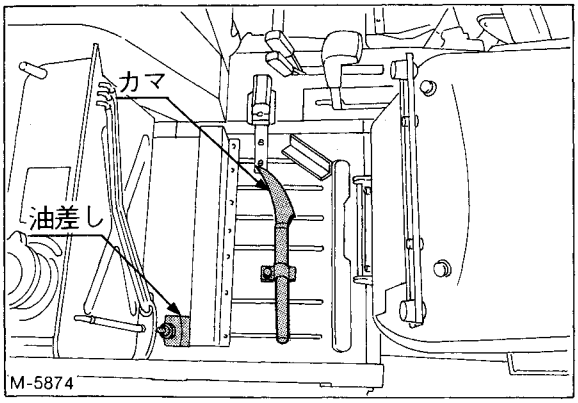
コンバイン作業前の準備

■ほ場の手刈り

能率よく作業を進めるには，コンバインをほ場に入れる前に，図のように四すみ（旋回できる範囲）を手刈りします。

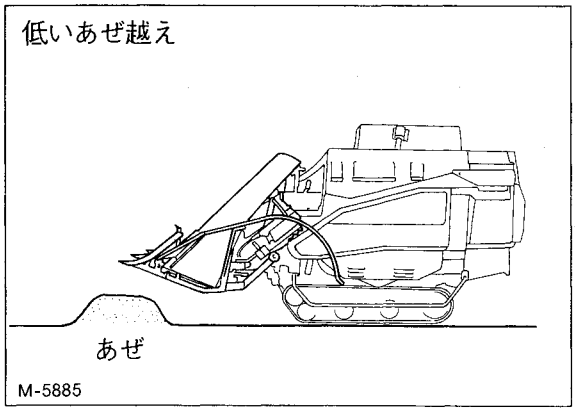


＊カマ・油差しは下図の所に収納できます。

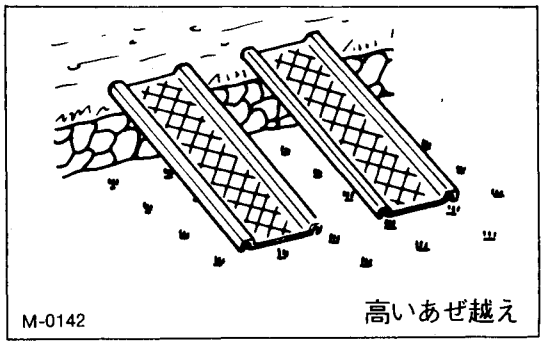


■ほ場への乗入れ（あぜ越え）

(1)前進一速，エンジン低速で直角にあぜ越えして，手刈りしたところへ乗入れてください。

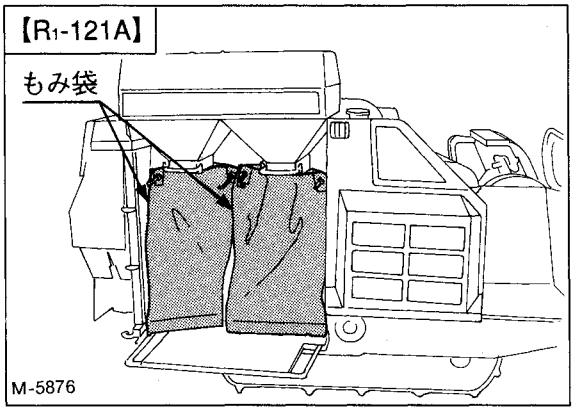


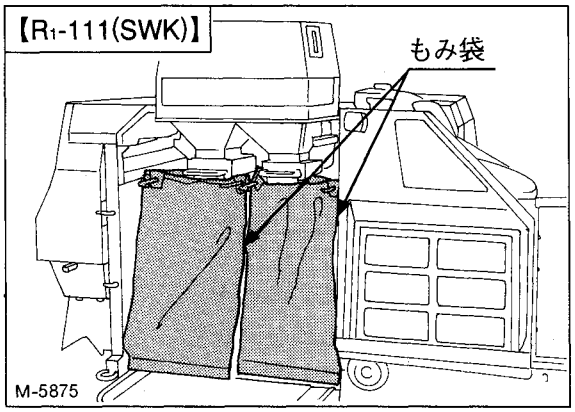
(2)10cm以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。



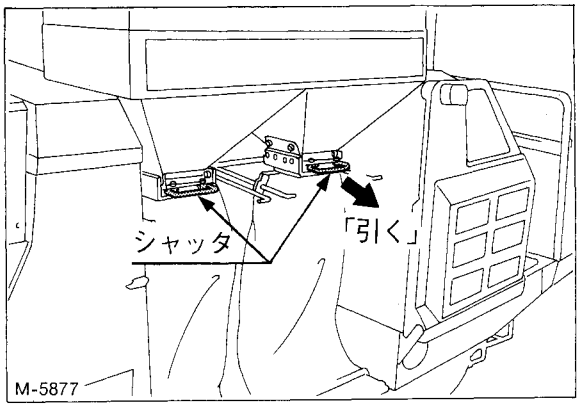
■もみ袋の取付け

❶もみ袋のファスナーを開き，袋受け棒に取付けてください。



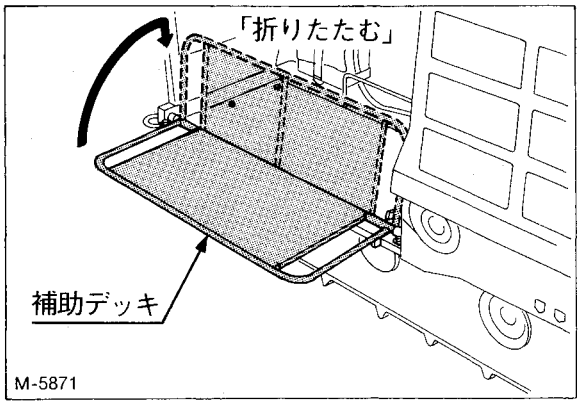


❷もみ出口のシャッタを開いてください。



■補助デッキ

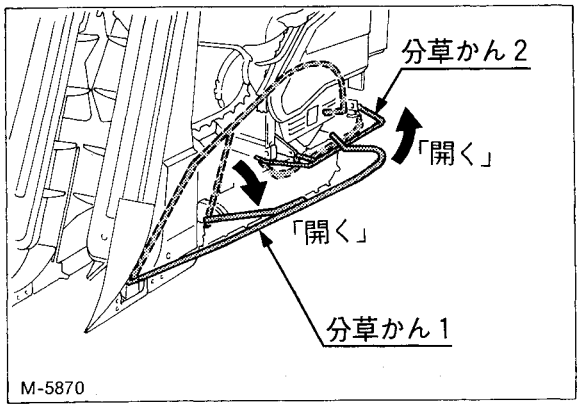
補助デッキは，中割作業，あぜぎわ刈りのときは折りたたみます。



■分草かん

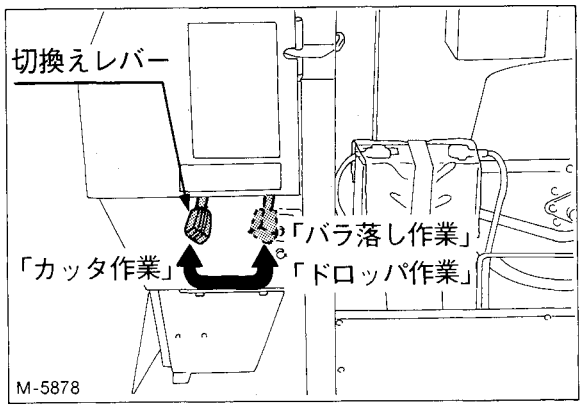
❶分草かん１，２を開いてください。（開かないと搬送作物の詰まりの原因となります。）

❷分草かん２は常に１の下側になるように，水平より斜め下まで開いてください。



■排わら処理装置の選択

カッタ作業（排わらの切断），バラ落し作業を切換えレバーで選択してください。

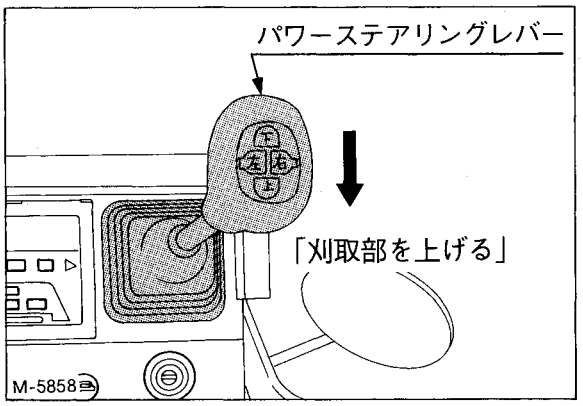


作物条件に応じた各部の調整

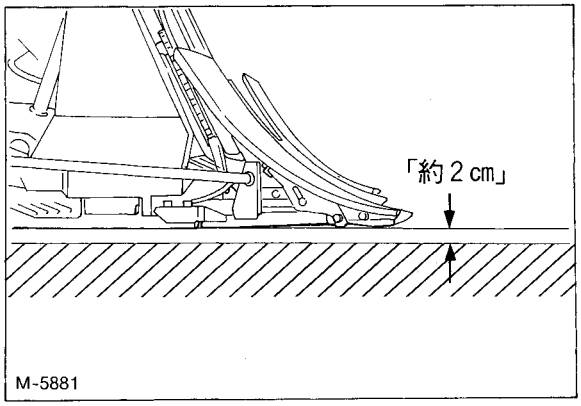
■刈取り高さの調節方法

◆刈取部昇降

(1)パワーステアリングレバーで，デバイダの先端が地面に接しないように少し持上げてください。



(2)通常は，地面からデバイダの先端まで約２㎝になるようセットしてください。



(3)長かんや麦・雑草のある場合は高刈りしてください。

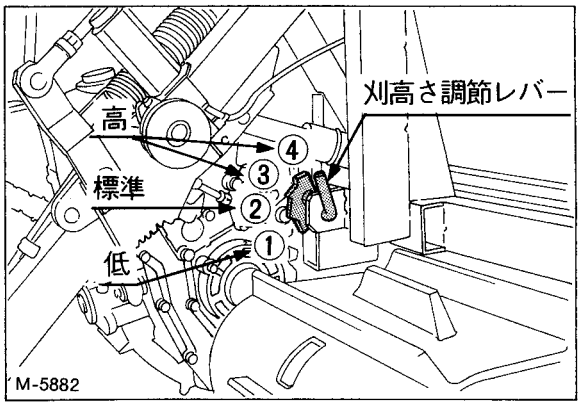
◆刈取り高さの調節

【R1-121A, R1-111】

(1)通常は刈高さ調節レバーを②標準位置にしてください。刈取部が一定の地上高で止まるので便利です。

(2)湿田で機体前部が持上がる場合は，刈高さ調節レバーを①低の位置にしてください。刈取部が本体に対して更に下がるようになります。

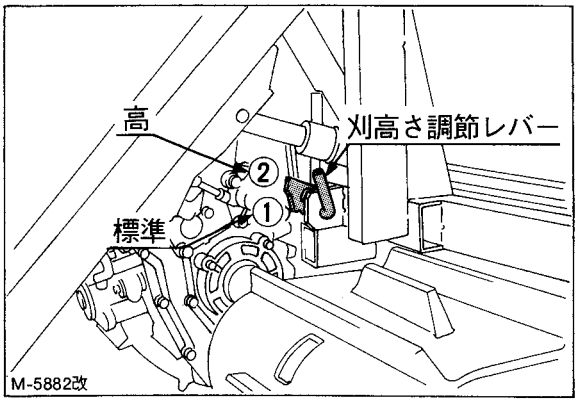
(3)高刈り位置で刈取部を一定に止めたいときは，刈高さ調節レバーを③又は④の高位置にしてください。



【R1-111SWK】

(1)通常は刈高さ調節レバーを①標準位置にしてください。刈取部が一定の地上高で止まるので便利です。

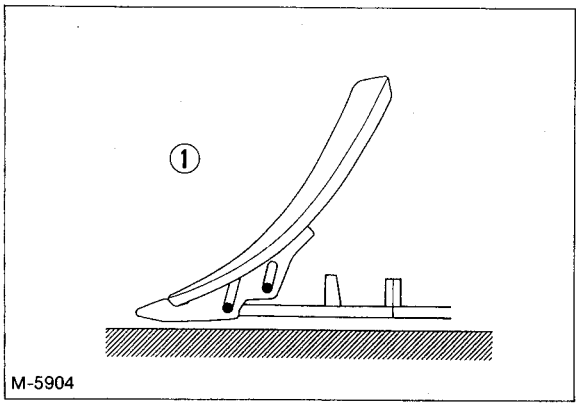
(2)高刈り位置で刈取部を一定に止めたいときは，刈高さ調節レバーを②の高位置にしてください。

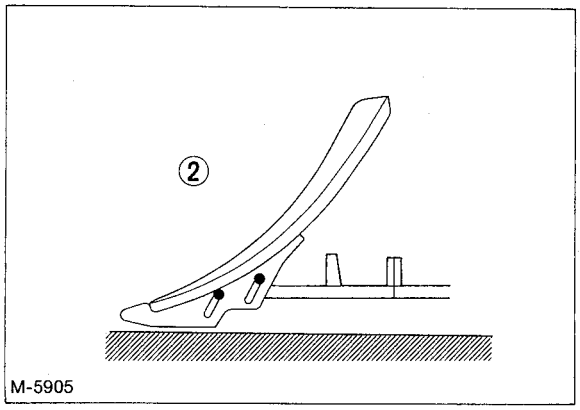


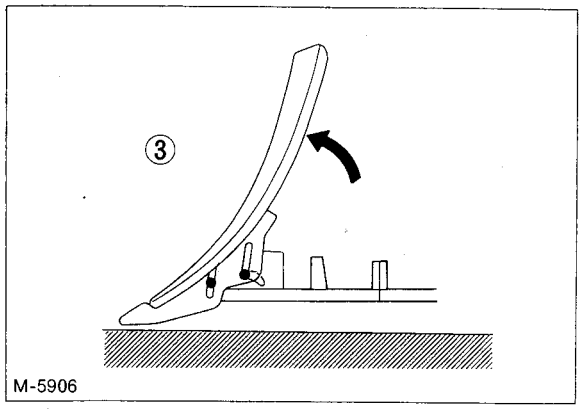
■デバイダの調節方法

【上下調節】

作物・ほ場条件	セット位置
標　　準	①の位置
湿田で前上がりになるとき	デバイダ先端を下げる ②の位置
雑草が多く高刈りしたいとき	
横倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いとき	デバイダ先端を下げる ③の位置







コンバイン作業について

警 告

＊掃除・点検時はエンジンを必ず止めてください。
＊エンジン回転中は，コンバインの回転部に手や身体を近づけないでください。
＊異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてから点検してください。

注 意

＊コンバインの回りに人を近づけないでください。
＊エンジンの始動・各クラッチを入れるときは，ホーン，その他の方法で補助者や回りにいる人に合図して，回りの安全を確認してください。
＊外装部品(安全カバーなど)を取外しての作業は絶対にしないでください。
＊バックする場合は後方の人の安全確認，また後方に川 (用水路) やがけのある場合は転落しないよう後方をよく注意してください。
＊あぜぎわがコンクリート畦畔の場合は，クローラであぜに乗上げたり，急旋回などは絶対にしないでください。脱輪やクローラの切損の原因となります。
＊機体が凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が急に変わるのでじゅうぶん注意してください。
＊コンバインを停止するときは，切りわらや雑草の上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。
＊エンジン・マフラ・脱こく機及びカッタ結束機のベルトカバー内，バッテリにわらくずがたまっていると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊コンバイン作業を終えて，シートをコンバインにかけるときは，火災の原因になることがありますので，マフラ・エンジンが冷えてからにしてください。
＊湿田で作業する場合特に一方刈りで何回もバックすると，フレーム下部に切りわらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切りわらの無い場所をバックするか早めに切りわらを取除いてください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。またオーバヒートなどの高温時は，エンジンを停止し，30分以上経過するまでエンジンルームを開けないでください。熱湯が吹出し，高温部でヤケドをするおそれがあります。
＊小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。

重 要

＊脱こくクラッチは，エンジン回転が低速のときは絶対に入れないでください。脱こく機の詰まり，故障の原因になります。
＊カッタとドロッパ（オプション）の切換えは，脱こく部を止めてから行なってください。
＊作業中エンジン回りの防じんカバーにごみの付着が多くなれば，そのつど清掃してください。
防じんあみ全面にごみが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますのでごみを取除いてください。

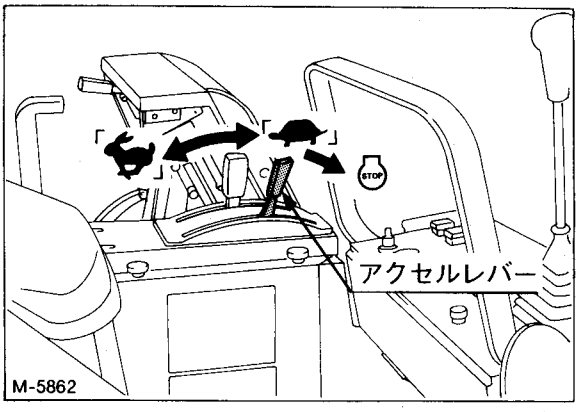
■アクセルレバー操作のしかた

エンジンの回転数を変えるレバーです。

“STOP”……エンジン停止位置

“🐢”……エンジン回転数“低速”

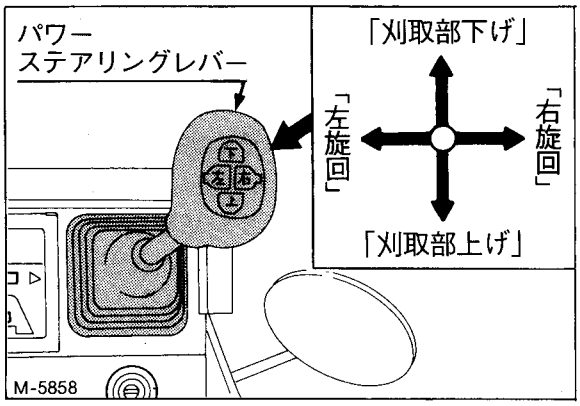
“🐇”……エンジン回転数“高速”



■パワーステアリングレバー操作のしかた

レバー１本で刈取部の上げ下げと方向修正・旋回ができます。

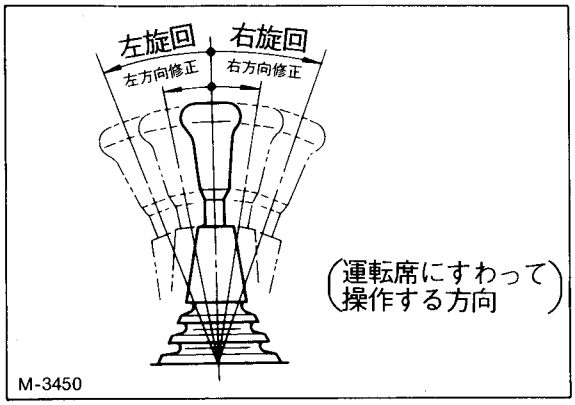
(1)レバーを前・後に操作すると，刈取部の上げ下げができます。



(2)レバーを左・右に操作すると，方向修正から旋回までできます。

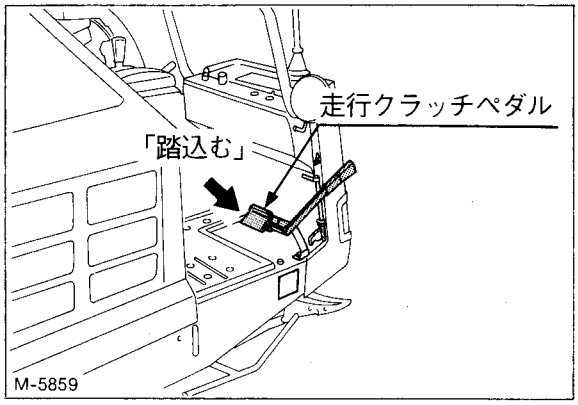
＊ゆるやかな方向修正……左・右に軽く倒します。

＊コーナ旋回……左・右に一杯倒します。



■走行クラッチペダル操作のしかた

エンジンからトランスミッション，刈取部への動力伝達のクラッチペダルです。クラッチペダルをいっぱい踏込むと走行と刈取部が停止します。（脱こく部は作動しています。）



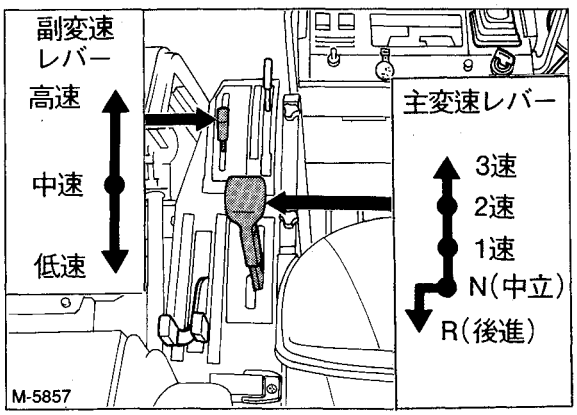
■主変速レバー・副変速レバー操作のしかた

【R1-121A】

重 要

＊副変速レバーの切換えは，必ず走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでから，行なってください。

２本のレバー操作を組合わせることにより，前進９段・後進３段の車速が得られます。

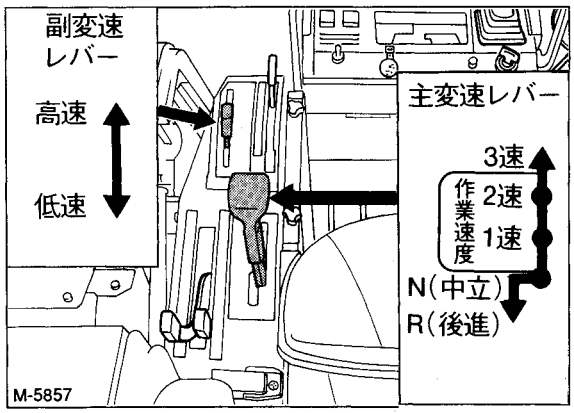


【R1-111 (SWK)】

重 要

＊主変速レバー・副変速レバーの切換えは，必ず走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでから，行なってください。

２本のレバー操作を組合わせることにより，前進６段・後進２段の車速が得られます。

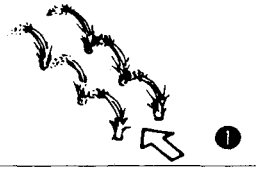
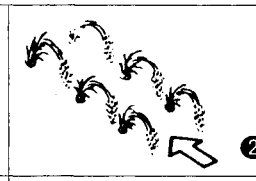
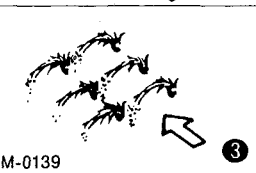
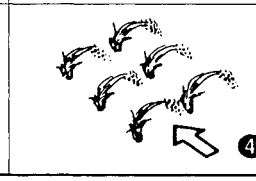


◆作物の倒伏角と作業速度

重 要

下記のような条件では，上表のような作業速度ではできない場合があります。

＊雑草がきわめて多いほ場
＊病虫害，風水害により倒伏している作物
＊作物がくさり，ぬれているもの
＊10 cm 以上の高うねのほ場
＊５度以上傾斜しているほ場
＊根ぐされし，切れやすい作物
＊過熟して，茎が折れやすくなっている麦

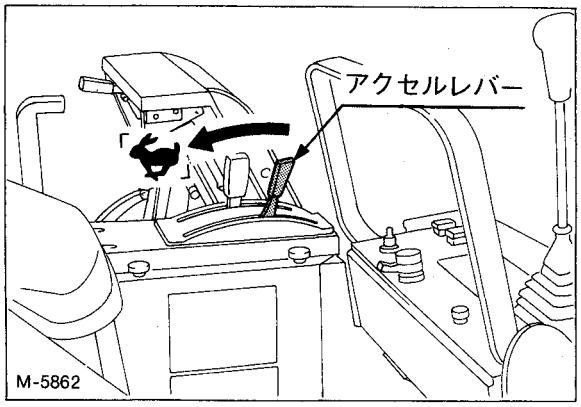
刈る方向 ＼ 倒れぐあい			倒伏角85度程度の場合	倒伏角45度程度の場合	立毛状態の場合
	❶ 追い刈り		【R1-121A】 副変速：低 主変速：1～2速 【R1-111(SWK)】 副変速：低，高 主変速：１速 （向い刈りの場合は倒伏角60度）	【R1-121A】 副変速：低 主変速：2～3速 【R1-111(SWK)】 副変速：高 主変速：１速 又は 副変速：低 主変速：２速	【R1-121A】 副変速：中 主変速：1～3速 【R1-111(SWK)】 副変速：低，高 主変速：２速
	❷ 向い刈り				
 M-0139	❸ 左倒伏刈り				
	❹ 右倒伏刈り				

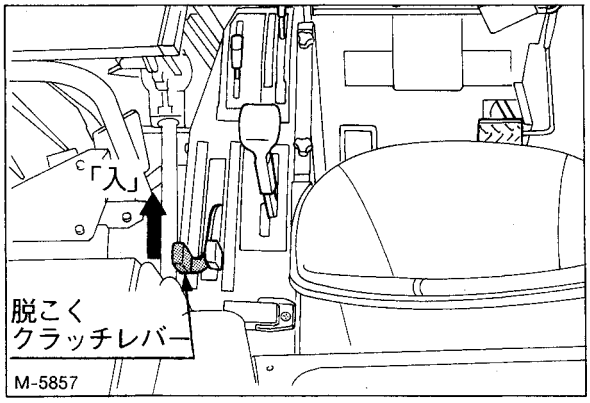
■脱こくクラッチレバー操作のしかた

重　要

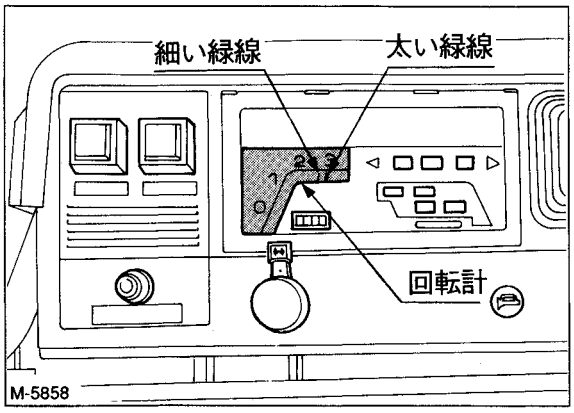
＊脱こく部の回転は，無負荷の状態（機械を停止させ刈取部を回転させない状態）で合わせてください。
＊過負荷又は２番詰まりで回転が低くなった場合，警報のブザーが鳴ります。

❶アクセルレバーを“🐢”の方へ上げ，エンジンを始動してください。
❷脱こくクラッチレバーを“**入**”にし，脱こく部を回転させてください。





❸回転速度の調節は，回転計をみながら**標準回転速度位置**まで徐々にアクセルレバーで調節してください。



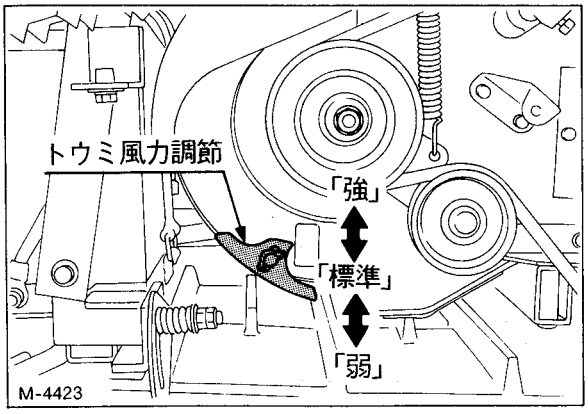
	標準回転速度位置
稲・麦	回転計の太い緑線
傷みやすい稲・麦	回転計の細い緑線
麦作業で穂切れ，のげ，稈の混入が多いとき	回転計の太い緑線

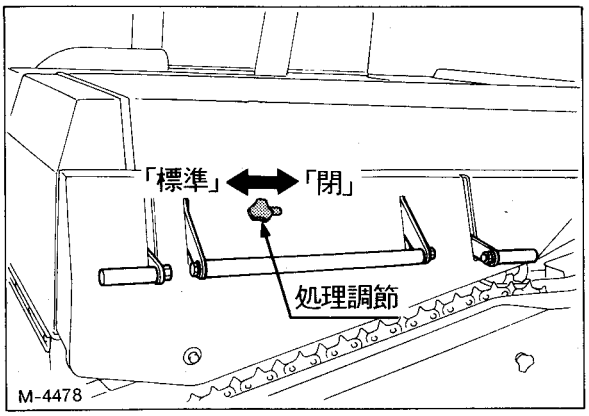
◆作物に適した調節のしかた

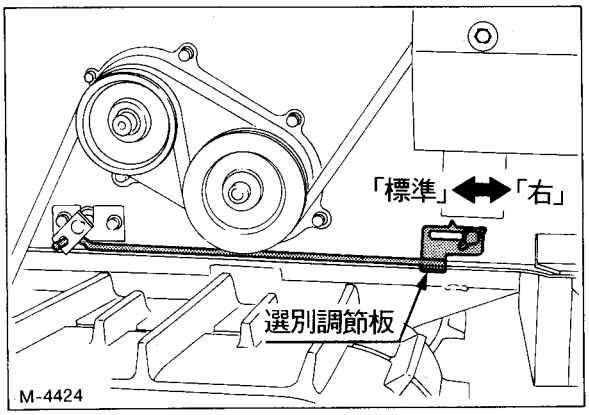
ほとんどの稲麦は，工場より出荷した状態で問題なく作業できますが，より高い品質や能率を上げて作業を希望される場合は，下表を参考に調整してください。

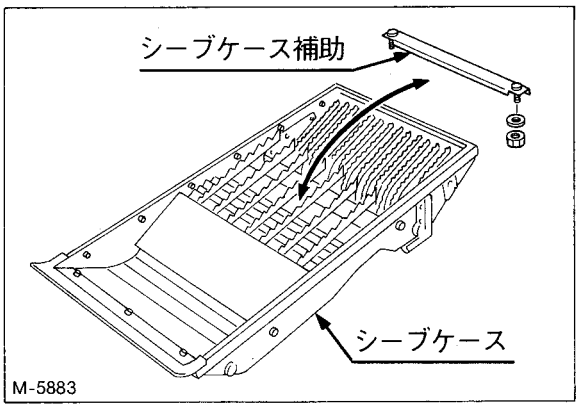
調整箇所	範囲又は調節指示方法	出荷状態	6条大麦，小麦，裸麦	ビール麦	早期米	中期・晩期稲
トウミ風力調節	強・標準・弱	標準	標準又は強		標準又は弱	
処理調節	標準・閉	標準	標準			標準又は閉
選別板調節	標準・右	標準	標準又は右		標準	
シーブケース補助調節	着・脱	着	着		着又は脱	
エンジン回転数	回転計の正規位置指示	—	太い緑線	太い緑線又は細い緑線		太い緑線
こぎ深さ調節	こぎ深さ標準位置ラベル	—	こぎ深さ標準位置に合わす			
刈高さ調節	1・2・3・4	1	2（ほ場条件により選択）			

（一般的な標準作物生育状態，ほ場条件の場合）









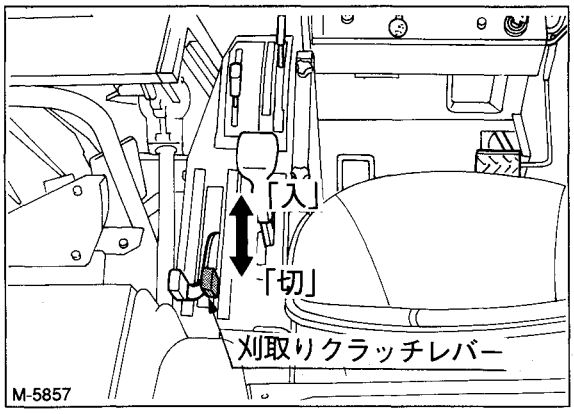
◆ほ場に雑草が多いとき

ほ場内の雑草は，常に除草するように心掛けてください。

雑草が多い場合は，選別が悪くなることがあるので雑草を取除くか，高刈りを行なってください。

■刈取りクラッチレバー操作のしかた

“入”……刈取部が駆動します。
“切”……刈取部が停止します。



■刈取り作業の手順

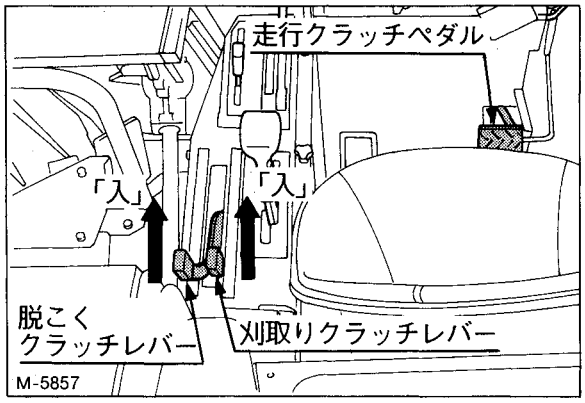
注 意

＊副変速レバー“高速”で，主変速レバーを“R”（後進）に入れると，速い速度で後進しますので注意してください。

重 要

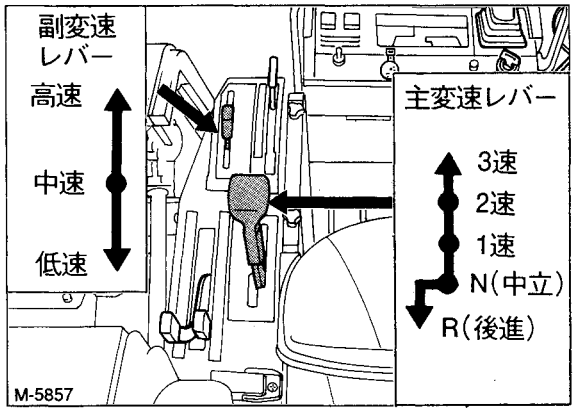
＊刈取りクラッチは，走行クラッチペダルと連動しているので，走行クラッチペダルを踏むと，刈取部は回転しません。
＊刈取り作業中に走行を停止する場合は必ず走行クラッチペダルを踏んでください。主変速レバーを“N”（中立）にしても刈取部は停止しませんので，作物を引倒して搬送コボレが発生します。
＊刈取りクラッチレバーは脱こくクラッチレバーと連動しているので，刈取りクラッチを入れると，脱こくクラッチも入ります。
＊コンバインを止めたまま，刈取部を回転したいときは，主変速レバーを“N”（中立），走行クラッチを“入”にしてください。

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。
脱こく機とカッタ部が回転します。
❷アクセルレバーで回転計をみながら**“標準回転速度位置”**に合わせる。
❸刈取りクラッチレバーを**“入”**にしてください。

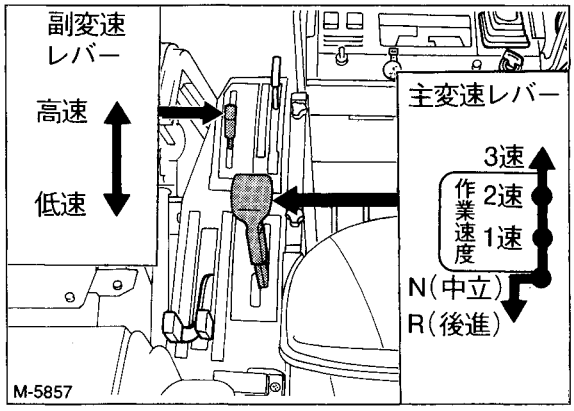


❹作物の状況により，副変速レバーを操作して作業速度を選定してください。
❺主変速レバーを操作して，最適速度で作業してください。

【R1-121A】



【R1-111 (SWK)】

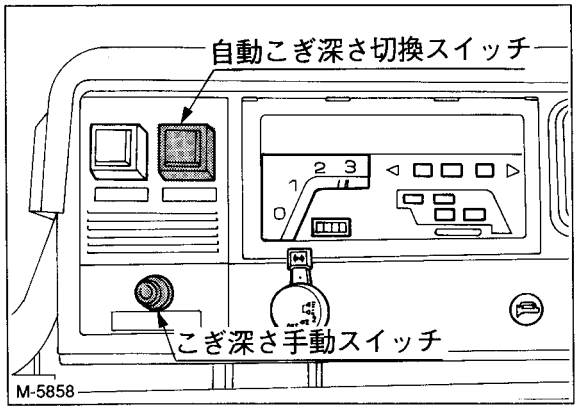


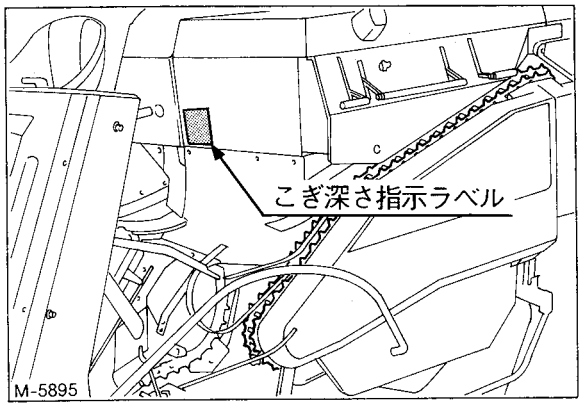
■こぎ深さの調節

重 要

＊作業を始めてから，再度ラベル位置に穂先がくるように，こぎ深さスイッチで調節してください。

作物の長さに適したこぎ深さを，自動こぎ深さスイッチまたはこぎ深さ手動スイッチでこぎ深さ指示ラベルの位置に穂先がくるように調節してください。





■刈取部の条合わせのしかた

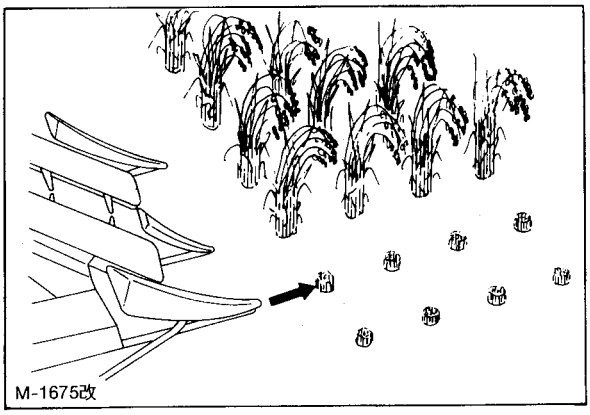
重 要

＊条合わせのときは、パワーステアリングレバーを小刻みに操作してください。

＊右側のデバイダは50mm外へ広げて使うのが標準です。あぜぎわ刈りや中割り時3条を刈る場合に必要です。

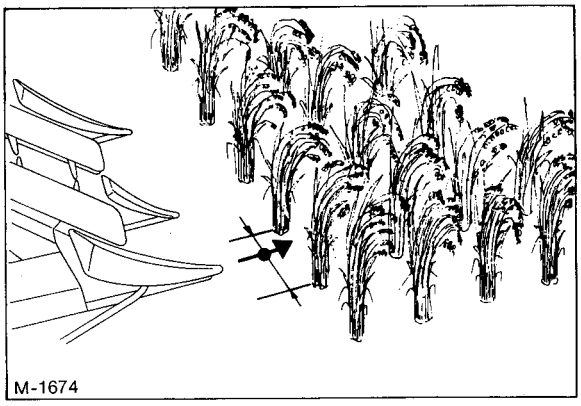
◆通常の回り刈りのとき

既刈側の刈跡に右デバイダを合わせてください。



◆中割作業のとき

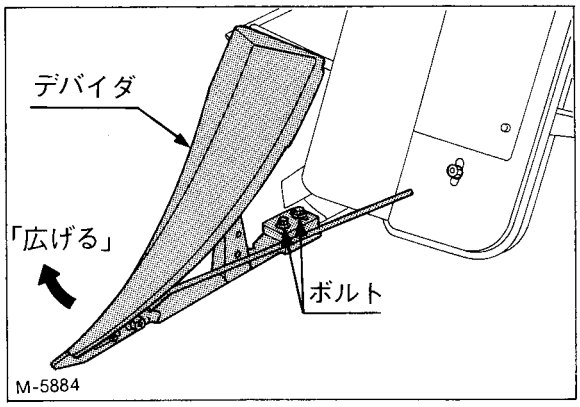
右デバイダを条間の左寄りになるように合わせてください。（作業速度を低くしてください。）



◆右側デバイダの調節

❶ボルト2本を14スパナでゆるめ，デバイダ先端を持って外方向に広げます。

❷ボルト2本をもと通りに締めつけます。



※デバイダカバーを取付けるときは右側デバイダを狭く調節してください。

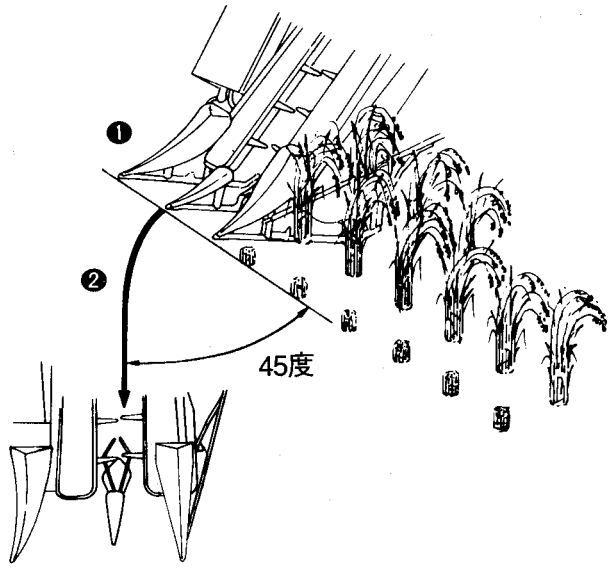
■ほ場内での旋回のしかた

重 要

＊旋回するときは必ず刈取部を上げてください。

❶刈終ると，前進しながら刈取部を少し上げてください。（早く上げすぎないように注意してください）

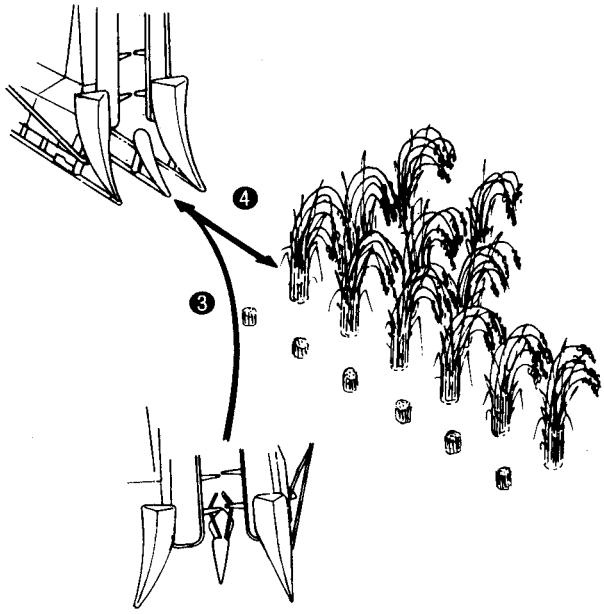
❷パワーステアリングレバーを左に一杯倒し，45度くらい旋回した位置でストップしてください。



M-1676

❸主変速レバーを“R”（後進）側に入れ，バックしながらパワーステアリングレバーを右に一杯倒し，次に刈る方向にまっすぐに合わせてください。

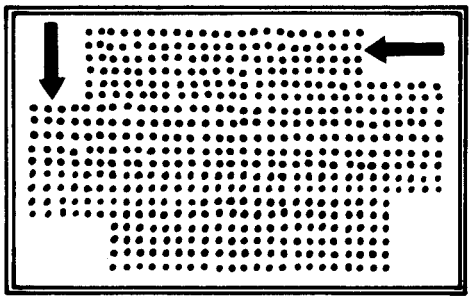
❹刈取部を下げ，前進してください。



M-1589

■刈取り作業のしかた

◆一般的なほ場



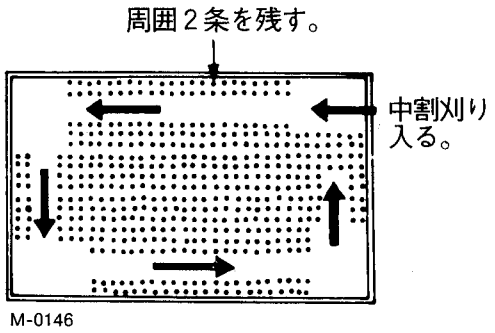
M-0144改

◆あぜぎわまで植えてある場合や障害物があるほ場

重　要

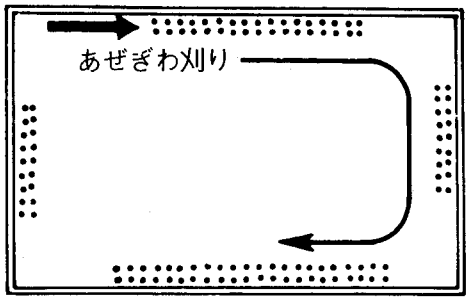
＊右回りであぜぎわ刈りをするとき，デバイダを突込むことがありますので，少し高刈りをしてください。
　また，分草かんをあぜに強く当てると刈取部が変形することがありますので，半開きにして作業してください。
＊あぜぎわ刈りのときは自動こぎ深さスイッチを“切”にして，こぎ深さ手動スイッチで深こぎにしてください。
＊あぜぎわ刈りや中割刈りのときは，補助デッキを必ず折りたたんでください。
＊あぜぎわ刈りのとき，コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると，クローラに傷がつきますので注意してください。

＊あぜぎわは周囲２条を残して，左回りで刈取ってください。



M-0146

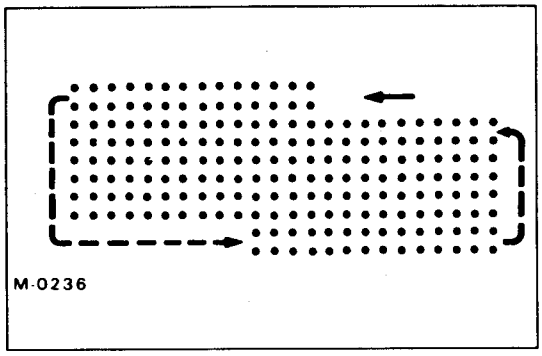
＊あぜぎわに残した稲は，低速で，右回りで刈取ってください。



M-0147

◆長方形のほ場

両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら次に長手方向のみ刈取ってください。能率が上がります。

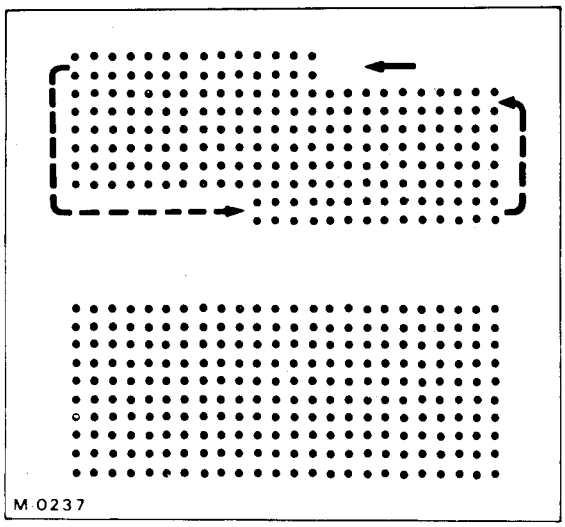

M-0236

◆広いほ場

重　要

＊旋回中はエンジン回転を下げないでください。下げると“選別を悪くしたり”“詰まりの原因”になります。

中割刈りで分割して，前記の長方形のほ場と同じ要領で刈取ります。


M-0237

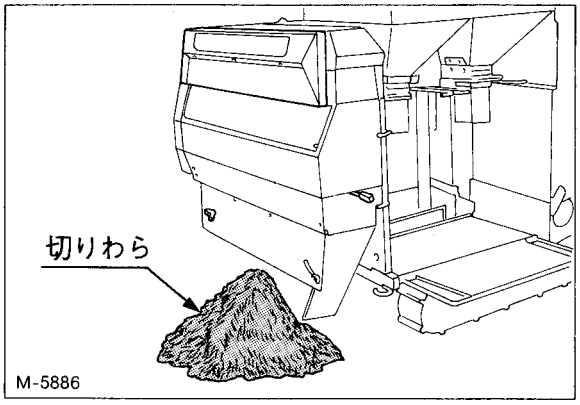
■手こぎ作業のしかた

警 告

＊コンバインを移動しながら，手こぎ作業をしては危険です。停止してから作業してください。
＊袖口が開いていたり，首にタオルを掛け端がたれていると，チェーンに巻込まれるので，きちんとした服装で作業してください。
＊チェーンに手を近づけないようにしてください。
＊切りわらのたまった上に，コンバインを近づけないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると火災のおそれがあります。

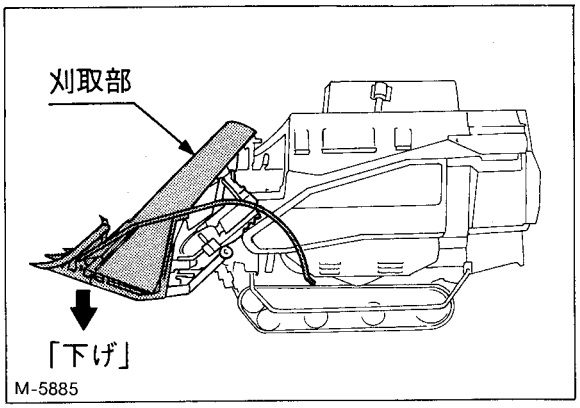
重 要

＊手こぎは一度に多量の供給をしないでください。
＊１箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下の排わらや切りわらの堆積がカッタなどの詰まり，及び火災の原因となりますから，機械を移動させるか堆積わらを取除いて作業してください。

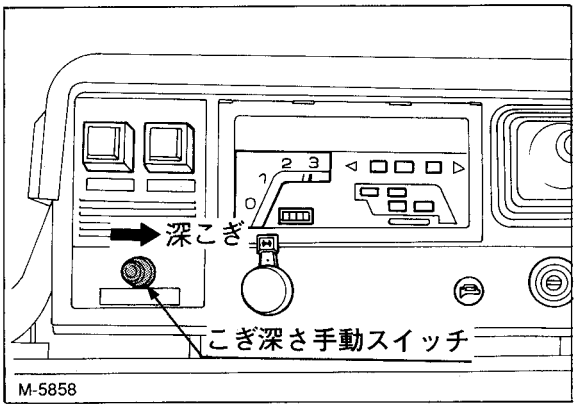


＊切りわらがカッタわら排出口に詰まった場合は，エンジンを必ず止めてください。

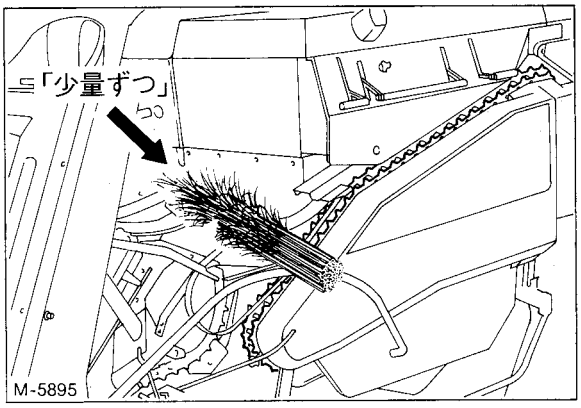
手刈りをした稲・麦は刈取り終了後に脱こくします。
❶主変速レバーを“N”（中立）にし，コンバインを停止してください。
❷刈取部を下げてください。



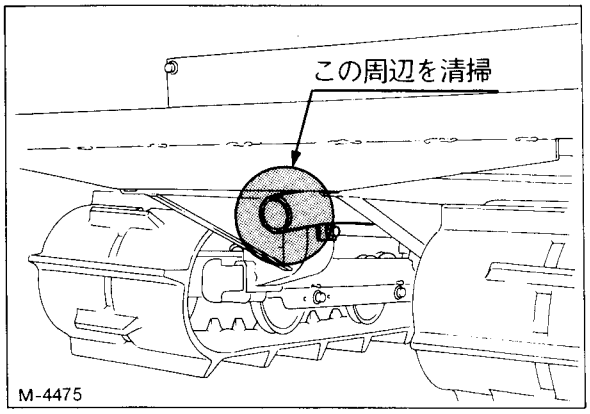
❸こぎ深さ手動スイッチで深こぎにしてください。



❹少量ずつ供給します。



❺湿田作業後は、マフラ排気口に泥の詰まりはないか，下図の位置に“わらくず”がたまっていないか，点検し掃除してください。



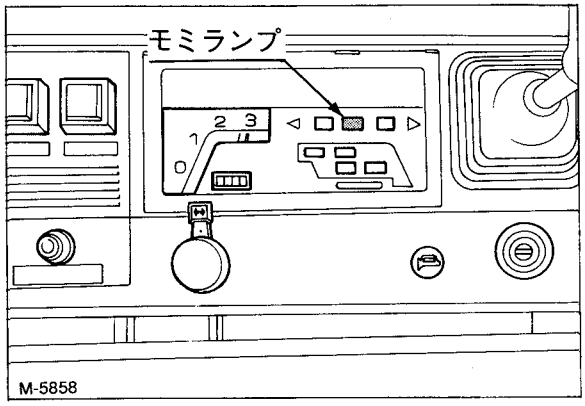
■刈取り作業中のもみ満杯警報

重　要

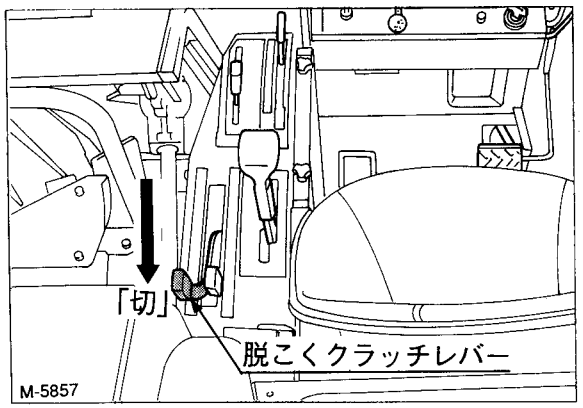
＊警報ブザーが鳴った後も刈取りを続けると，もみがあふれたり詰まったりして，故障の原因になります。

＊いっぱいになったもみ袋は，袋受け棒にかけないでください。

❶ホッパ下部のもみ袋とホッパがいっぱいになると，イージーチェッカの“モミ”ランプが点滅し，警報ブザーが断続（ビービー）して鳴ります。

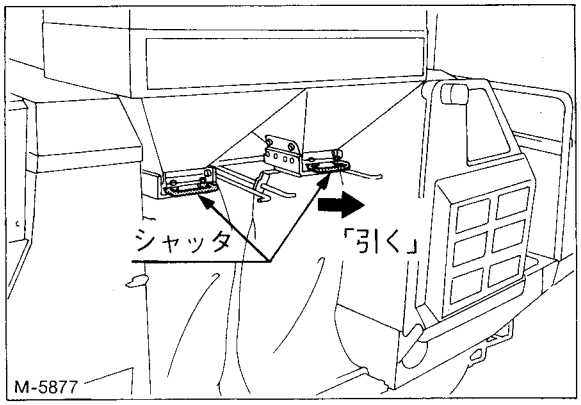


❷警報ブザーが断続して鳴ると，走行クラッチペダルを踏んで直ちに刈取り作業を中止し，もみ袋の交換を行なってください。



❸シャッタが閉まっていることを確認してから，ホッパ下部のもみ袋を取出してください。

❹もみ出口の下に次のもみ袋を取付けてシャッタを開き，ホッパ内のもみを取出してください。



❺取出したもみ出口に次のもみ袋を取付けてシャッタを開き，作業を再開してください。

カッタの取扱いについて

注　意

＊エンジンを必ず止めてから作業してください。

■カッタ作業とバラ落し作業の切換え

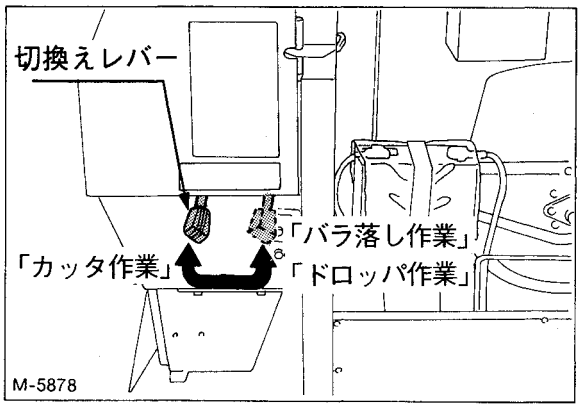
レバー操作により，カッタ←→バラ落しの切換えができます。

◆カッタ作業のとき

切換えレバーを**“カッタ”**に切換えてください。

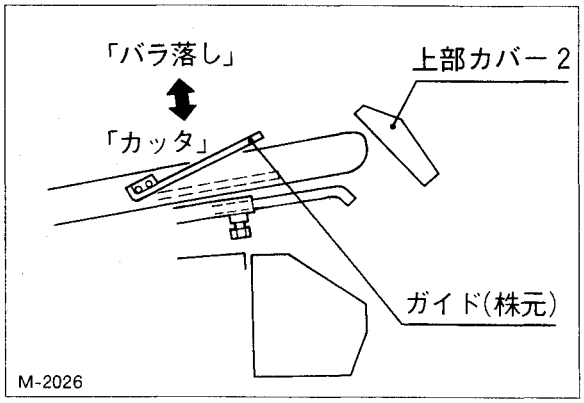
◆バラ落し作業のとき

❶切換えレバーを**“バラ落とし・ドロッパ”**に切換えてください。

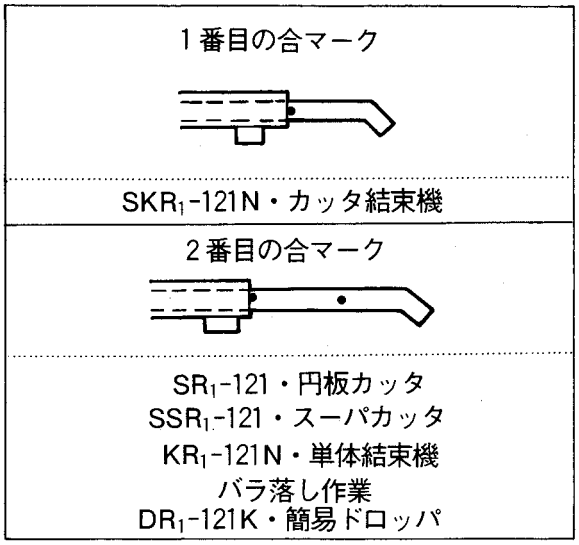


❷上部カバー２を開けてください。

❸ガイド(株元)を上げてください。
（カッタ作業時は必ず下げてください。）



◆排わらレール２の出代



■オーバヒート時の注意事項

注　意

＊エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が吹出し，あるいは高温部に接触してヤケドをするおそれがあります。

＊ヤケドの危険性がなくなってから，オーバヒートの原因を“コンバインの不調と処置”の項に従って除去してください。その後，エンジンを再始動させてください。

オーバヒートでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。

❶エンジンを止める。

❷エンジン停止後30分以上経過してから開ける。

❸点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。

メンテナンス

定期点検と処置

警　告

＊取外した回転部のカバー類は，衣服などを巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。
＊各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず止め，各レバー類を“切”にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊オイル交換中・バッテリ点検・交換中は火気厳禁。

注　意

＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをすることがあります。
＊エンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジンを停止する。
❷エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
❸点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が吹出したり高温部に接触してヤケドをするおそれがあります。
＊刈取部は上げたまま長時間経過すると下降することがありますので注意してください。

重　要

＊ベルト類は亀裂又は帆布のはがれたとき必ず交換してください。
＊専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，販売店・JA農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

補　足

定期点検は，下記の時間ごと（○，●又は△，▲印）に整備をしてください。
定期点検一覧表は一般的な目安です。異常を感じたときはそのつど，調整をしてください。
下記の項目について処置をしたら，印をつけてください。
○，●印は点検，調整，△，▲印は交換をしてください。

■定期点検と調整一覧表

●：ならし運転後の点検と調整
○：点検と調整

項目＼時期		50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	参照ページ
エンジン部	エアクリーナエレメントの清掃		○		○		○		○		○	59ページ
	ラジエータホースの締付け・点検				○	(または6ヵ月ごと点検)			○			59ページ
	フューエルフィルタの清掃		○		○		○		○		○	59ページ
	ラジエータ防じんあみの清掃	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	60ページ
	ラジエータフィンの清掃											
	アクセルワイヤの調整			○			○			○		62ページ
	ファン駆動ベルトの張り調整	●		○			○		○			60ページ
	燃料こしあみの清掃		○		○		○		○		○	63ページ
走行・操作部	バッテリの充電	エンジンの始動が不能となったとき										57ページ
	電気配線・ヒューズの点検	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	68ページ
	ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	67ページ
	パワーステアリングレバー〔操向クラッチ〕の調整	●		○		○		○		○		63ページ
	パワーステアリングレバー〔刈取り昇降〕の調整	●		○		○		○		○		63ページ
	駐車ブレーキレバーの調整	●	○		○		○		○		○	63ページ
	駐車ブレーキの調整	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	63ページ
	クローラの張り調整	(20H)●		○		○		○		○		67ページ
	走行駆動ベルトの調整	●	○		○		○		○			66ページ
	脱こく駆動ベルトの調整	●	○		○		○		○			66ページ
	刈取り駆動ベルトの点検・調整	※●	○		○		○		○			66ページ

※ベルトの伸びを日常点検してください。

●：ならし運転後の点検と調整
○：点検と調整

	項目＼時期	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	参照ページ
刈取部	引起しチェーンの張り調整	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	68ページ
	株元供給チェーンの張り調整	●	○		○		○		○		○	69ページ
	穂先供給チェーンの張り調整	●	○		○		○		○		○	69ページ
	刈刃のすき間調整	●	○		○	○		○	○		○	69ページ
脱こく部	こぎ胴駆動ベルトの張り調整	●	○		○		○		○		○	66ページ
	1番，2番，チェーン駆動ベルトの点検	●	○		○		○		○		○	66ページ
	揺動駆動ベルトの点検	●	○		○		○		○		○	66ページ
	排わら駆動ベルトの張り調整	●	○		○		○		○		○	67ページ
	フィードチェーンの張り調整	●		○		○		○		○		67ページ
	排わら株元チェーンの張り調整	●	○		○		○		○		○	69ページ
	排わら穂先チェーンの張り調整	●	○		○		○		○		○	69ページ
カッタ	カッタ駆動ベルトの張り調整	●	○		○		○		○		○	67ページ

■定期交換一覧表

△：交換（交換は販売店又はJA農協の整備工場で行なってください。）

項目＼時期		50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	参照ページ
エンジン部	エアクリーナエレメントの交換						△					70ページ
	ラジエータホースの交換	2年ごとに交換(使用時間が短くても)										70ページ
	排油チューブの交換											
	フューエルパイプ，ハイスイホースの交換											
	エンジンオイルフィルタカートリッジの交換				△				△			71ページ
	フューエルフィルタの交換								△			71ページ
	ファン駆動ベルトの交換					△					△	☆71ページ
走行・操作部	バッテリの充電	エンジンの始動が不能となったとき										57ページ
	パワーステアリングレバー(操向クラッチ)のワイヤの交換					△					△	☆63ページ
	走行駆動ベルトの交換					△					△	☆66ページ
	脱こく駆動ベルトの交換					△					△	☆66ページ
	刈取り駆動ベルトの交換					△						☆66ページ
刈取部	引起しチェーンの交換					△					△	68ページ
	株元供給チェーンの交換					△					△	☆69ページ
	穂先供給チェーンの交換					△					△	☆69ページ
	刈刃の交換			△			△			△		☆71ページ
脱こく部	こぎ胴駆動ベルトの交換					△					△	66ページ
	1番，2番，チェーン駆動ベルトの交換					△					△	66ページ
	揺動駆動ベルトの交換					△					△	66ページ
	排わら駆動ベルトの交換					△					△	67ページ
	フィードチェーンの交換								△			☆67ページ
	排わら株元チェーンの交換					△					△	☆69ページ
	排わら穂先チェーンの交換					△					△	☆69ページ
	排わら穂先搬送爪の交換			△			△			△		☆71ページ
	わら切刃の交換				△				△			☆72ページ
カッタ	カッタ刃の交換			△			△			△		☆72ページ
	カッタ駆動ベルトの交換					△					△	67ページ

＊参照ページが☆の整備項目については，最寄りの販売店又は整備工場で行なってください。

■注・給油(水)一覧表

▲：ならし運転後の交換　○：点検・補給　△：交換

項目＼時期		毎作業前	35時間目	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	参照ページ
エンジン部	燃料	○												11,12ページ
	冷却水	○ 冬期格納時は排出または不凍液を入れること												12,58ページ
	エンジンオイル	○	▲		△		△		△		△			☆60ページ
走行部	トランスミッションケースのオイル			▲	○		△		○		△		○	☆61ページ
	油圧オイルタンクのオイル				○		○		○		○		○	62ページ
	バッテリ液	作業シーズンの前後に点検・補給												56ページ
刈取部	引起しチェーン	○												15ページ
	供給チェーン(株元，穂先)	○												14ページ
	パッカ駆動ケースのグリース	分解時に補給												58ページ
	刈取りギヤーケースのグリース													58ページ
	供給ギヤーケースのグリース													58ページ
	引起しギヤーケースのグリース													58ページ
	集中注油タンクのオイル	○												15ページ
脱こく部	こぎ胴ケースのオイル				○		○		○		○		○	62ページ
	フィードチェーン駆動ケースのオイル				○		○		○		○		○	62ページ
	排わらチェーン(株元，穂先)	○												14ページ
	フィードチェーン	○												14ページ
	排わらチェーンテンション支持部	○												14ページ
	排わらベベルケースのグリース	分解時に補給												58ページ
	縦スクリュベベルケースのグリース													58ページ
	チェーンケースのグリース													58ページ

＊参照ページが☆の整備項目については，最寄りの販売店又は整備工場で行なってください。

各部開閉のしかた

警 告

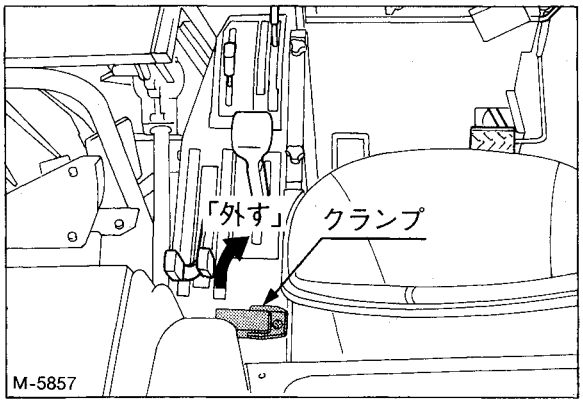
＊各部の開閉を行なうときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

注 意

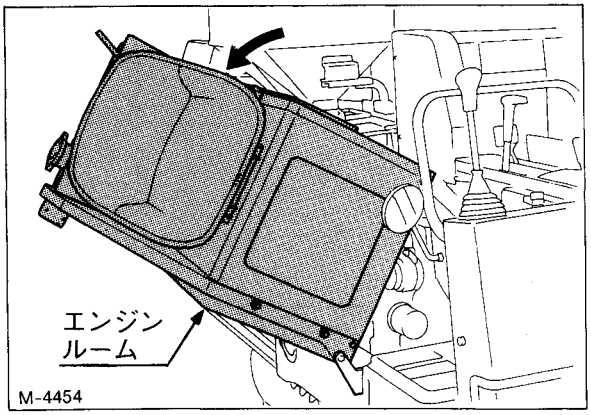
＊オーバヒートでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジンを停止する。
❷エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
❸点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が吹出したり高温部に接触してヤケドをするおそれがあります。

■エンジンルームのフルオープン

❶エンジンルーム部のクランプを外してください。



❷エンジンルームが固定されるまで外側に倒してください。



◆もとに戻すとき

重 要

＊閉じたあとは，クランプでエンジンルームを確実にロックしてください。

■こぎ胴オープン

注 意

＊こぎ胴をオープンしたときは，必ずオープンストッパで固定してください。

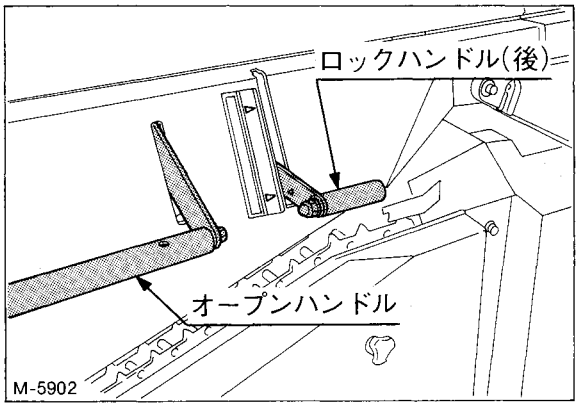
(1)レールにこくかんが詰まったときや，こぎ室内にわらくずが詰まったときの清掃に，こぎ胴をオープンすると便利です。

(2)こぎ胴受けあみを脱着するときにも，こぎ胴をオープンして行なってください。

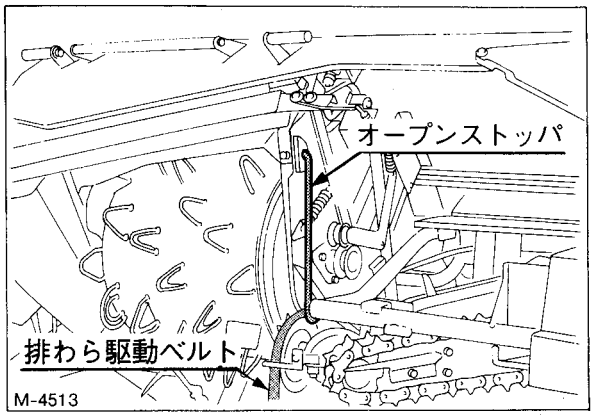
◆こぎ胴オープンのしかた

❶ロックハンドル前・後を上に押上げてください。

❷オープンハンドルを持って，こぎ胴を上に押上げてください。



❸排わら駆動ベルトを外し，オープンストッパをセットしてください。



◆こぎ胴セットのしかた

重　要

＊前後のロックハンドルが“閉”の位置にセットされていない状態で刈取り作業をすると，こぎ室フレームが変形することがあります。

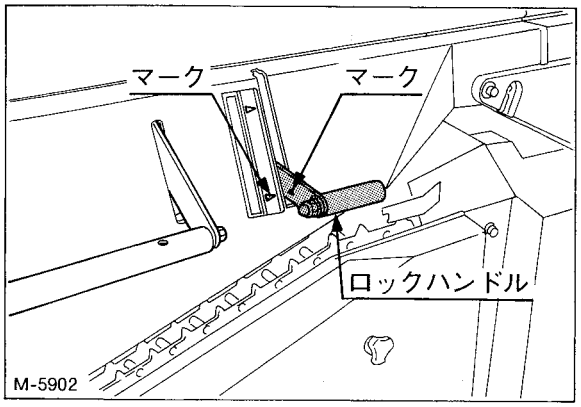
❶ オープンストッパを外し，確実に収納してください。

❷ 排わら駆動ベルトをプーリにかけてください。

❸ オープンハンドルを両手で持って，こぎ胴を下へ押下げてください。

❹ロックハンドルの“◁”印が**“閉”**の“▷”印に合っていることを確認してください。

❺ロックハンドルの“◁”印が**“閉”**の“▷”印に合っていなければ，必ず**“閉”**の“▷”印に合わせてください。



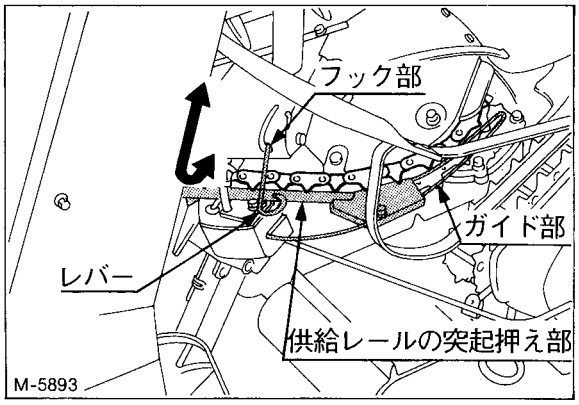
■供給レールオープン

供給搬送部にこくかんが詰まったときに，供給レールをオープンすると詰まったこくかんの除去が素早く楽にできます。

◆供給レールオープンのしかた

❶レバーをフック部から外すと供給レールが開きます。

❷長かん作物で供給が上の位置で停止している場合は，キーを**“入”**にし，こぎ深さ手動スイッチで供給を下げてからレールをオープンしてください。



◆供給レールセットのしかた

❶供給レールの搬送押え部とガイド部が株元供給チェーン突起の間に入るようにして，レバーをもとのフック部に確実に引っ掛けます。

■カッタオープンのしかた

注　意

＊傾斜地でのカッタオープンはしないでください。

＊カッタの開放時は、必ずステーを使用してください。

＊カッタの開放時は、刃物にじゅうぶん注意してください。

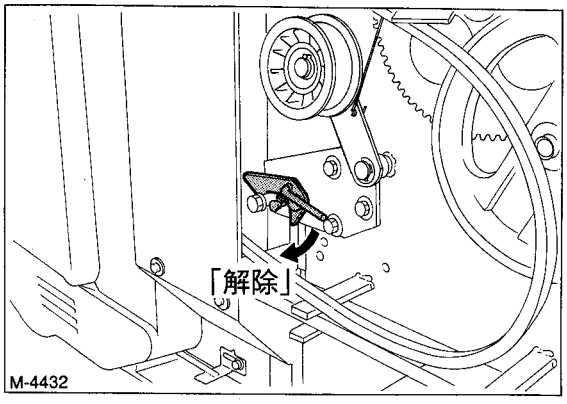
◆カッタを開く場合

❶上部カバー２を開いてください。

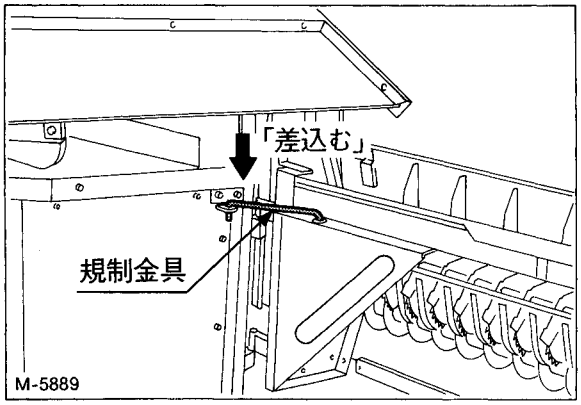
❷サイドカバー左を外してください。

❸カッタ駆動ベルトを外してください。

❹取付け金具左を解除し，カッタを少し持上げ，フックから外してください。

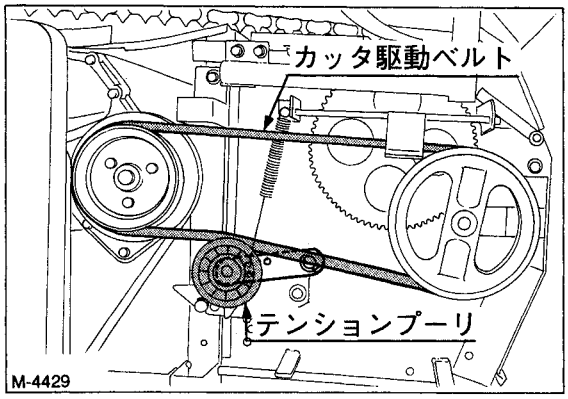


❺カッタを静かに回動させ，規制金具をコンバイン側の受け金具の穴に差し込んでください。



◆カッタを閉じる場合

❶カッタを開く場合の逆の手順で行なってください。
❷取付け金具左とコンバインが確実にロックされていることを確認してください。
❸カッタ駆動ベルトを掛ける際は，掛け間違いのないよう確実に行なってください。
❹テンションプーリがベルトに掛かっていることを確認してください。



各部の脱着のしかた

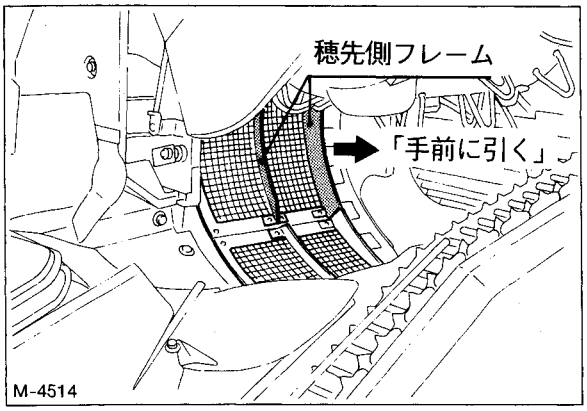
■こぎ胴受けあみの脱着のしかた

重　要

＊組付け方を間違うと，故障の原因になりますので，必ず下記要領に従って組込んでください。

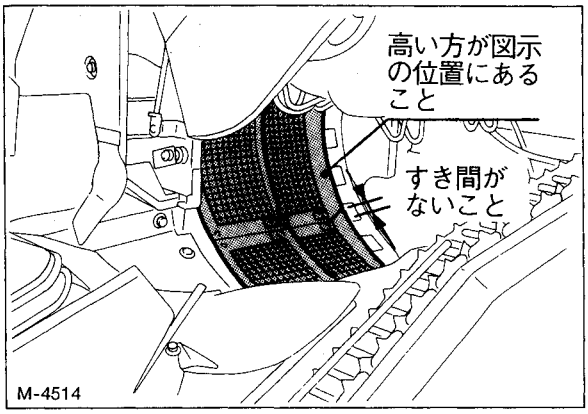
◆外しかた

❶こぎ胴をオープンし、オープンストッパで固定してください。
❷受けあみの穂先側のフレームを持って，手前に引くと外れます。



◆取付けかた

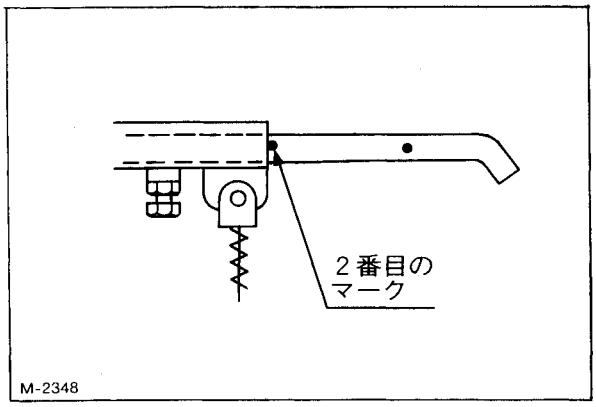
受けあみは２枚に分かれています。入れる方向を間違えると故障の原因になります。



■カッタの脱着のしかた

重 要

＊レール２の位置は，必ず２番目の合いマークで使用してください。

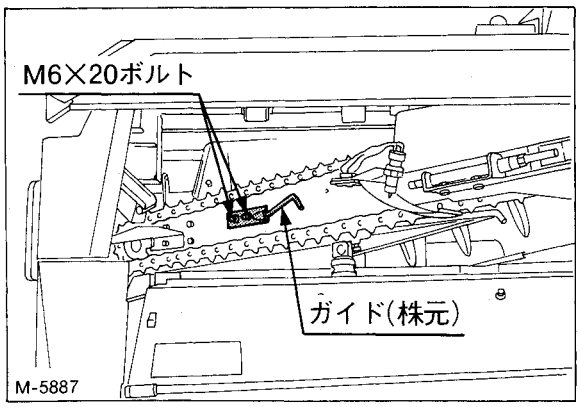


◆取付けかた

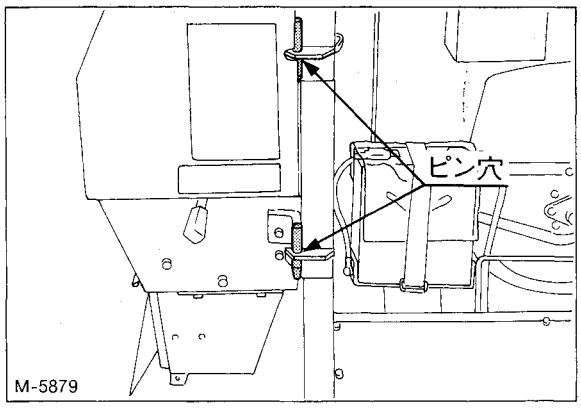
❶脱こく機のサイドカバー，カッタのサイドカバー左を取外してください。

❷上部カバー２を後方へ開いてください。

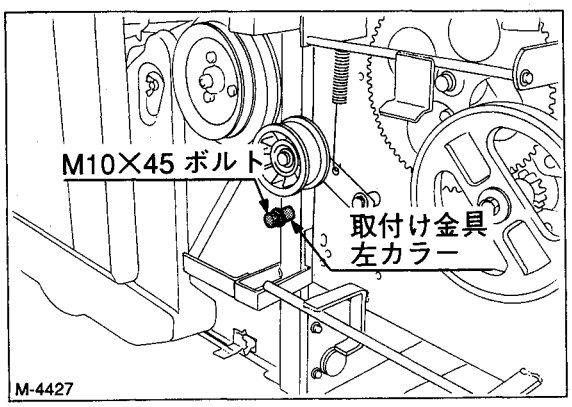
❸チェーンガイドにガイド（株元）を取付けてください。（M6×20ボルト……２個
M6平座金……１個）



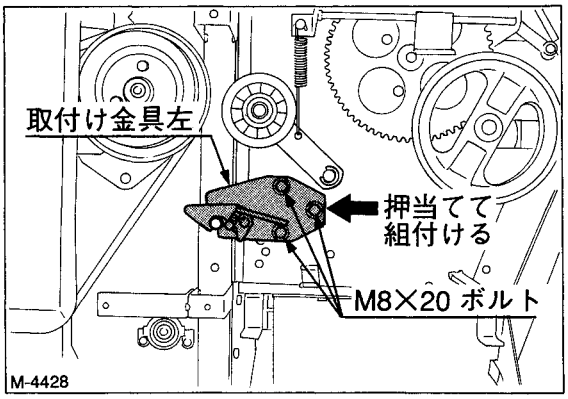
❹ 必ず２人でカッタを持ち，コンバインへ取付けてください。(補助デッキ側のピン穴に差し込んでください。)(M10×25ボルト……２個)



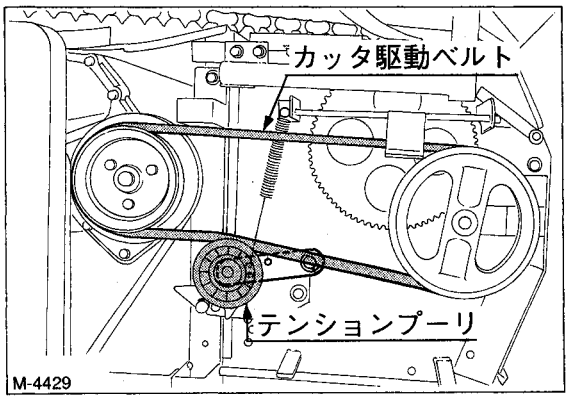
❺取付け金具左カラーを脱こく本体に固定してください。（M10×45ボルト……１個）



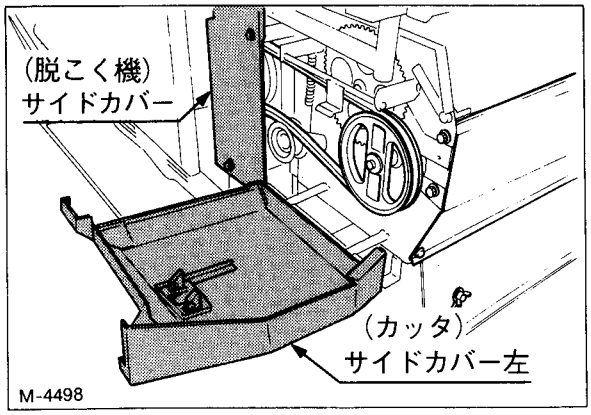
❻取付け金具左を❺の取付け金具左カラーに押当て，カッタフレームに組付けてください。
（M8×20ボルト…３個，M8平座金…３個）



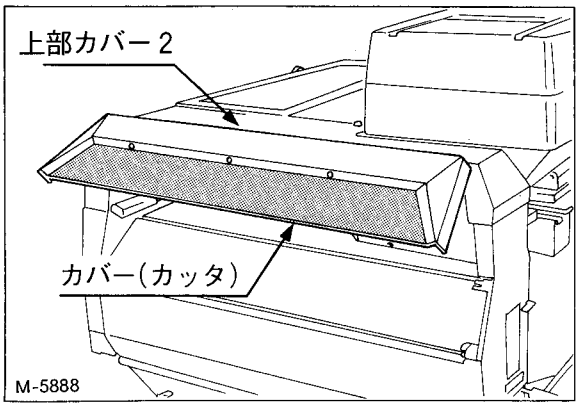
❼カッタ駆動ベルトを取付けてください。テンションプーリがベルトに掛かっていることを確認してください。



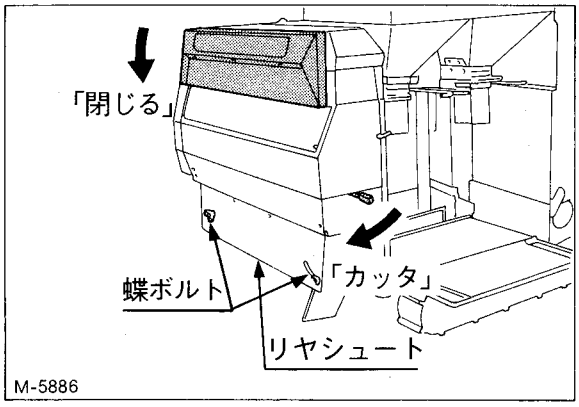
❽脱こく機のサイドカバー・カッタのサイドカバー左を取付けてください。



❾カバー（カッタ）を上部カバー２に取付けてください。（M6ナット…５個）



❿上部カバー２を閉じ，レバーを**“カッタ”**にし，リヤシュートを開け，蝶ボルトで固定してください。これで作業は完了です。



◆外しかた

カッタの取外しは，取付けの逆の順序で行なってください。

機内の掃除のしかた

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終ったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

警　告

＊各部の調整．点検・交換や部品の取外し・取付け，手による掃除は必ず脱こくクラッチを切り，エンジンを必ず止めてから行なってください。

＊空運転するときには必ずこぎ胴をセットして，カッタを閉じてください。

重　要

＊機内はよく乾燥させてから掃除してください。ぬれていると，こく粒が機内に付着して，残留こく粒が多くなります。

＊掃除の後，掃除口には確実にフタをしておいてください。フタを忘れると，こく粒が飛散します。

❶３分間空運転してください。

❷こぎ胴をオープンし，受けあみを外してください。

❸カッタを開いてください。

❹脱こく入口部，脱こく機内，排わら部，ホッパ内部のこく粒を取除いてください。

❺１番スクリュ，２番スクリュの掃除口を取外してください。

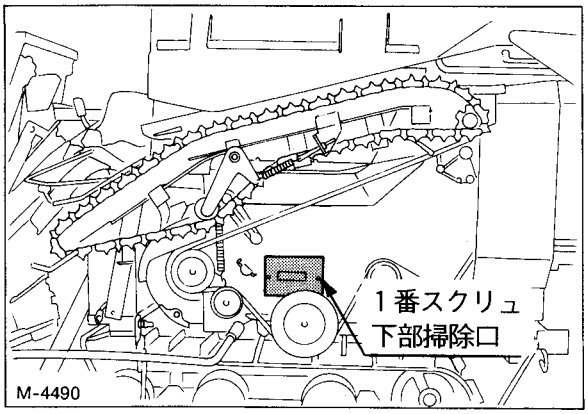
❻縦スクリュ，接続ケースの掃除口を開いてください。

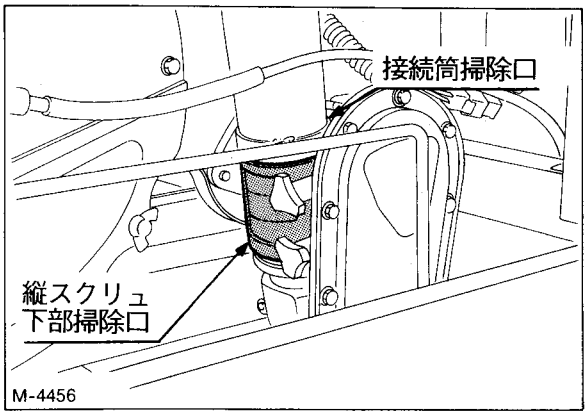
❼こぎ胴オープンを閉じて，１～３分間の空運転の後，カッタを開き，お手持ちの動力散布機やコンプレッサ，ブロワを使ってきれいに掃除してください。他の掃除口も開いて掃除すると，より効果があります。

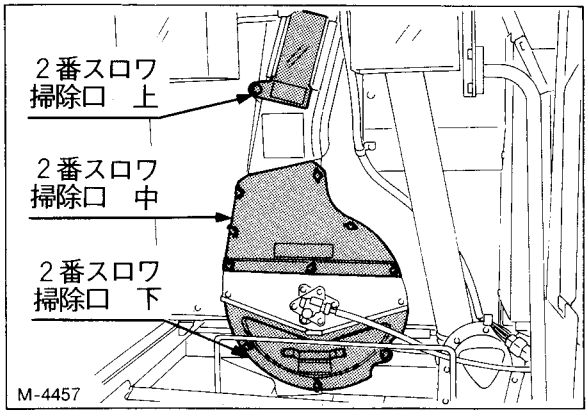
❽更に１分間の空運転を３～４回繰返してください。機内の残留こく粒が取除けます。

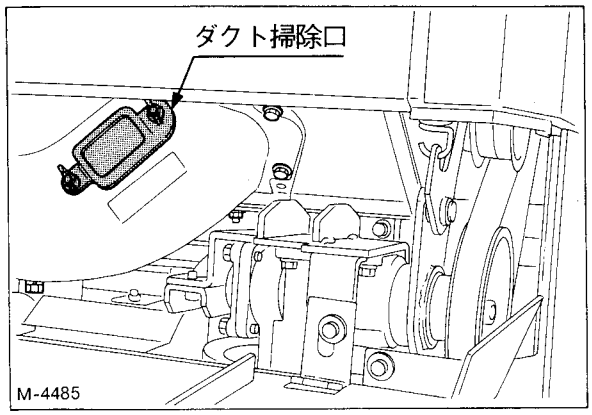
❾ブロワなどを使ってもう一度機内を掃除してください。

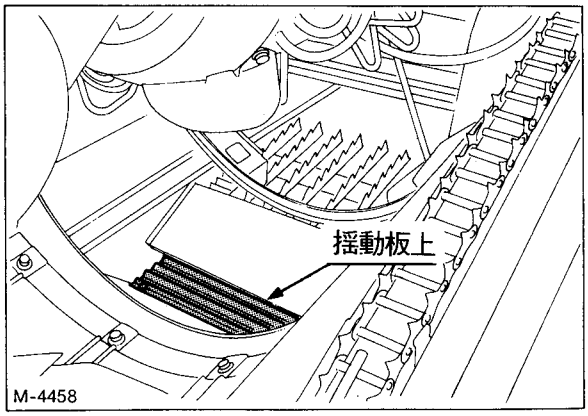
■掃除口の箇所

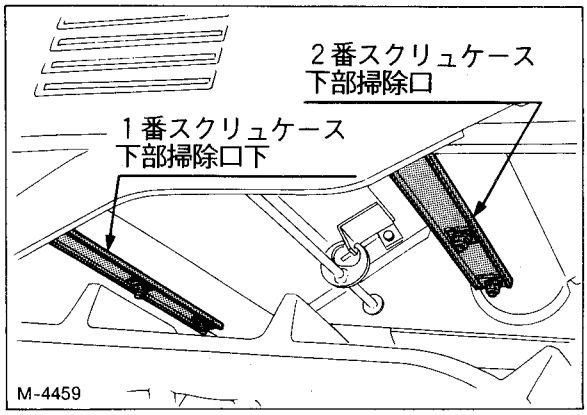

1番スクリュ
下部掃除口
M-4490

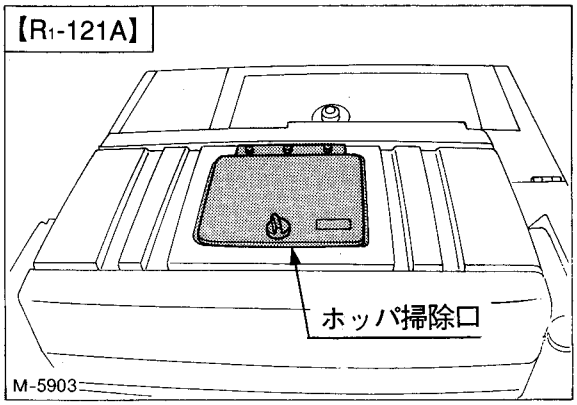

接続筒掃除口
縦スクリュ
下部掃除口
M-4456

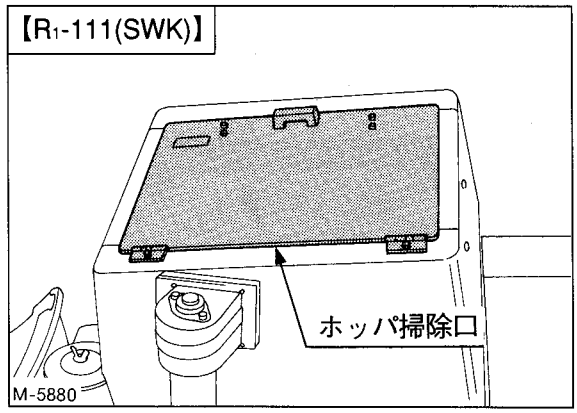

2番スロワ
掃除口 上
2番スロワ
掃除口 中
2番スロワ
掃除口 下
M-4457


ダクト掃除口
M-4485


揺動板上
M-4458

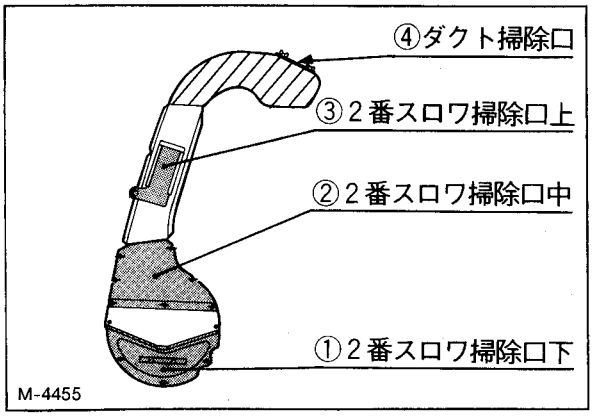

2番スクリュケース
下部掃除口
1番スクリュケース
下部掃除口下
M-4459


【R1-121A】
ホッパ掃除口
M-5903


【R1-111(SWK)】
ホッパ掃除口
M-5880

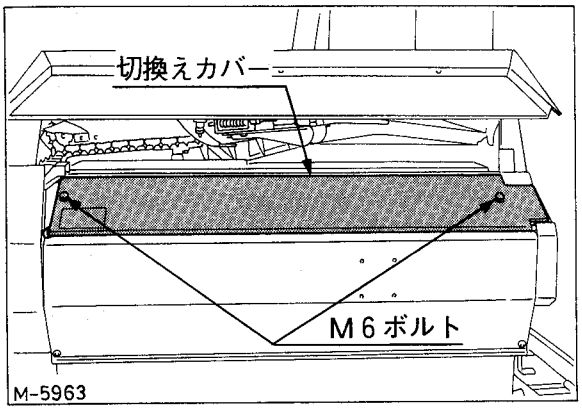
◆２番スロワの掃除のしかた

２番スロワが詰まったときは必ず①～④までの４箇所を掃除してください。特に斜線部を充分掃除してください。

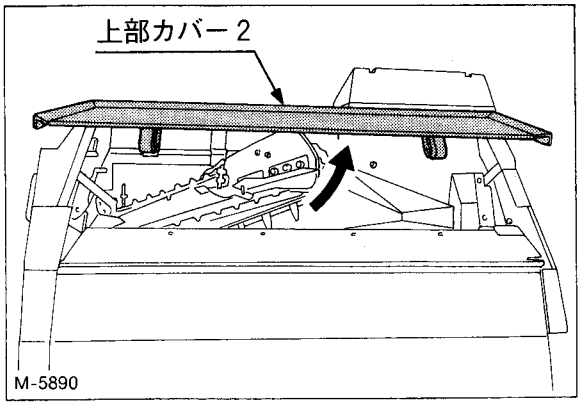


■排わらチェーン部，切断部の点検・掃除のしかた

❶カッタの切断部の点検・掃除はM6ボルト（２個）を外して，切換えカバーを開けて行なってください。



❷排わらチェーン部の点検・掃除は上部カバー２を上に開いて行なってください。



作業シーズン前後のメンテナンス

■バッテリの点検と交換

危　険

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。希硫酸によってヤケドをすることがあります。

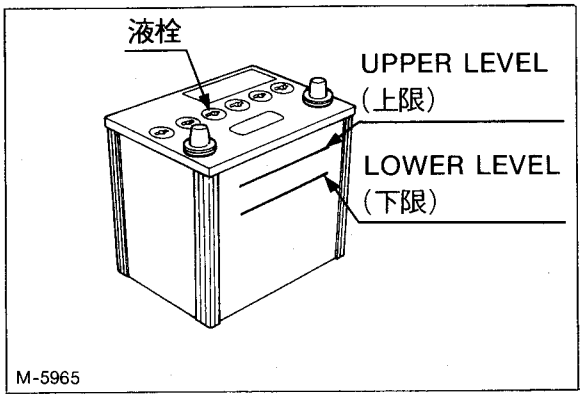
＊バッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊バッテリを点検するときは，エンジンを停止し，メインスイッチを“切”にしてください。

◆バッテリ液の点検

バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用しておりますので、従来品に比べ液減りの度合がきわめて少なくなっています。側面に２本の線(レベル)がありますので、その間に液面があればよく、少ないときは下記要領で上側の線(レベル)まで精製水を補給してください。



重 要

＊バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊精製水を多く入れすぎるとこぼれ出て，機体を傷めます。必ず液面線内に入れてください。
＊バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊エンジンが始動しにくくなったり，ライトが暗くなってきましたら，早めに補充電をしてください。

◆MF（メンテナンスフリー）バッテリの補水のしかた

(1)バッテリ上フタの液栓(６個)を外します。
(2)６個の補水穴から精製水をまんべんなく上側の線（レベル）まで補水します。
(3)液栓をもとの通り締付けてください。バッテリのバッテリ液が液面線の間にあるかどうか点検し，不足のときは精製水を補充してください。

注 意

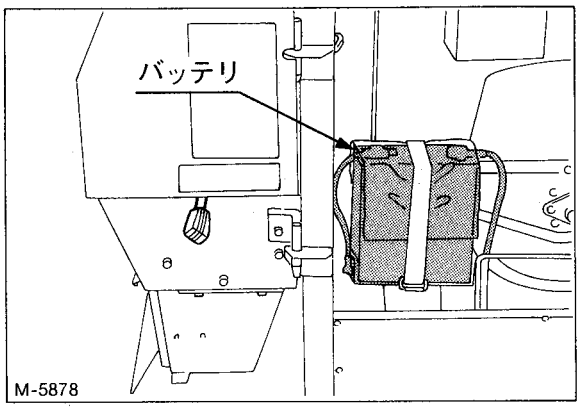
＊作業中バッテリコード先端がフレームに接触すると，ショートする危険性がありますので，絶対に接触させないでください。

◆バッテリの補充電

(1)充電は必ず本体からバッテリを取外して行なってください。電装品や配線を傷めることがあります。
(2) 充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して，普通充電法で行なってください。
(3)大電流を通して短時間で充電する急速充電法を応急処置として行なったときは，作業後必ず補充電してください。

◆バッテリの取外し，取付け方法

(1)バッテリからコード線を外す場合は，必ず⊖側から外してください。逆にすると，工具などが接触したときショートします。
(2)バッテリを取付けるときは，⊕側を先に接続し，次に⊖側を接続してください。
(3)バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖を間違わないようにしてください。間違うと，電気系統の故障の原因になります。
(4)指定外のバッテリは使用しないでください。
指定バッテリ形式：**34B19L-MF**
(5)⊕⊖のコードをもとどおりの配線にしてください。⊕コードは他部品の鋭利な角に触れないよう，確実に組付けてください。

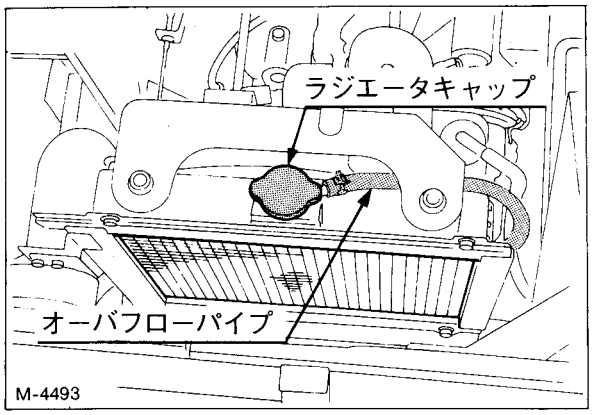


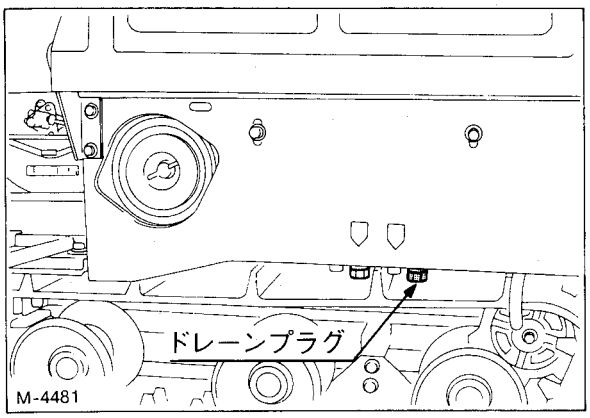
■冷却水の交換

重 要

＊ドレーンプラグは10ミリスパナで締付けてください。相手部品は樹脂製ですのでモンキレンチなどで締付け過ぎると破損します。

ラジエータ下部のドレーンプラグとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出してください。リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水してください。





排水・洗浄後，給水するときはドレーンプラグを閉め，ラジエータをいっぱいにし，リザーブタンクに適量給水してください。

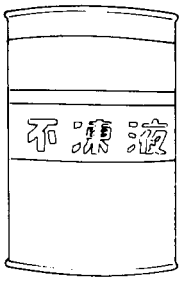
◆不凍液の使い方

重 要

＊冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を35％入れ，よく水と混ぜ合わせてからお使いください。(北海道のみ50％)

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとスラッジが生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。



＊クボタ不凍液ロングライフクーラントの有効使用期間は２年間です。
必ず２年で交換してください。

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が０℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータに給水するか，又は冷却水を完全に排水してください。

〔工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。〕

■各部グリースの補給

分解時にクボタスペアグリースを補給してください。

＊刈取りギヤケース（80g）
＊供給ギヤケース（80g）
＊引起しギヤケース（左・右）（40g）
＊パッカ駆動ケース（30g）
＊チェーンケース（120g）
＊縦スクリュベベルケース（80g）
＊排わらベベルケース（30g）

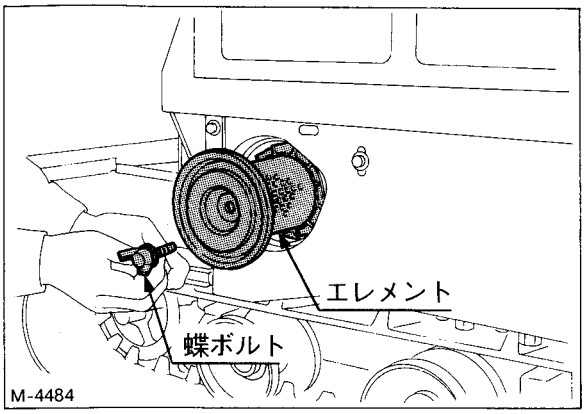
定期点検と調整

■エアクリーナエレメントの清掃

重 要

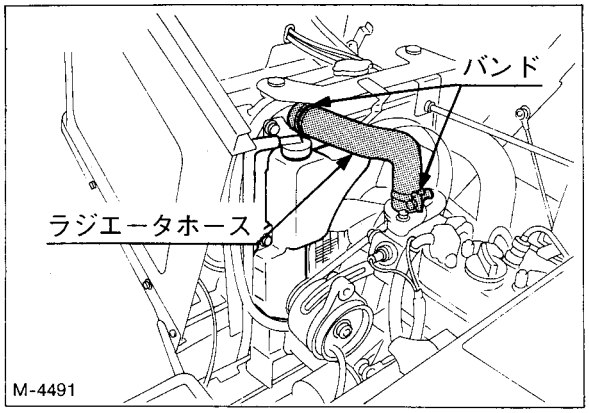
＊清掃時は必ずエレメントの注意書を参照してください。
＊高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

エレメントの清掃は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってごみを取除いてください。
カーボンや油分の場合は，中性洗剤に15分間浸してから，数回ザブ洗いを行ない，ザブ洗いのあと清水でよくすすいでから通風のよい場所で，自然乾燥してください。乾燥のとき圧縮空気や火気は使用しないでください。



■ラジエータホースの締付け・点検

ラジエータホースの締付け点検は，200時間運転ごと又は6ヶ月ごとに行なってください。
(1)締付けバンドがゆるんでいたり，水漏れのある場合はバンドを確実に締付けてください。
(2)ラジエータホースが膨れたり，固くなったり，ひび割れしているときにはホースを交換し，バンドを確実に締付けてください。

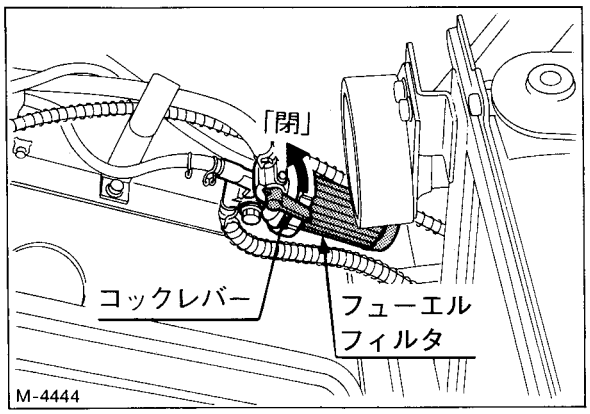


■燃料フィルタの清掃

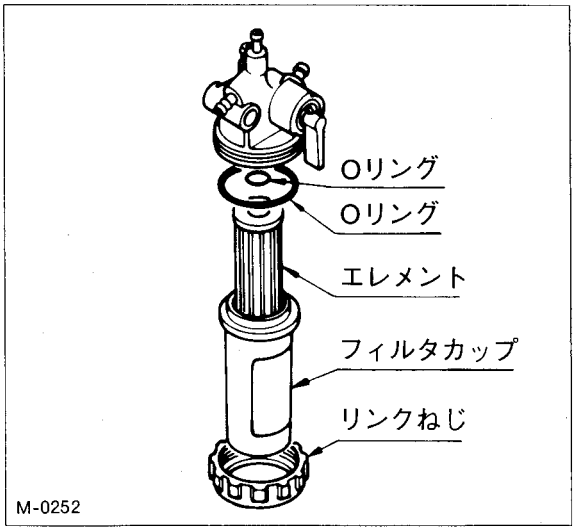
重 要

＊燃料内にごみやホコリなどが混入すると，燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗します。
＊清掃は，燃料タンクを満杯にする前に行なってください。
＊燃料フィルタが目詰まりすると，エンジン出力が低下することがありますので，フィルタを交換してください。(洗浄では短時間しか効果がありません。)

燃料こし器の洗浄を行なってください。洗浄方法は次のとおりです。
❶エンジンルームをオープンしてください。
❷燃料コックレバーを締めてください。
❸カップ上部のねじを戻してカップを外し，内部を軽油で洗浄してください。

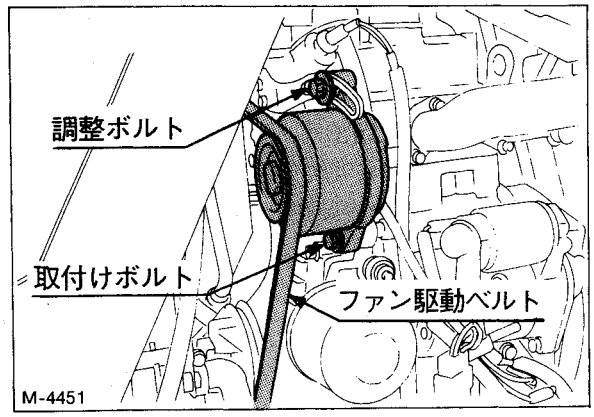


❹エレメントを取出し，軽油につけてすすぎ洗いをしてください。
❺洗浄がすむと，ごみやホコリがつかないようにして，もとのように正しく組付けてください。



■ファン駆動ベルトの張り調整

ベルトの中央部を指先で押さえ，約7mmたわむのが適正です。たわみが大きい場合は，取付けボルトと調整ボルトをゆるめて，ベルトを張ってください。



■ラジエータ吸気部の清掃

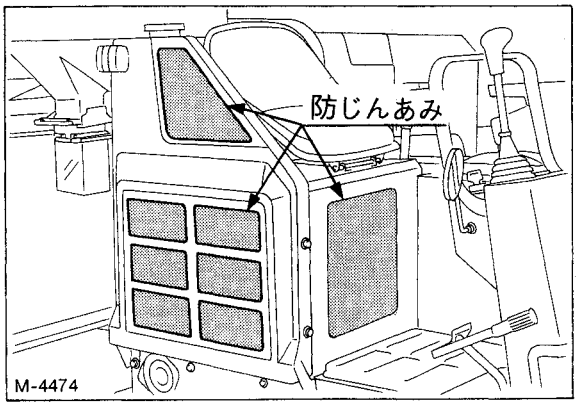
重 要

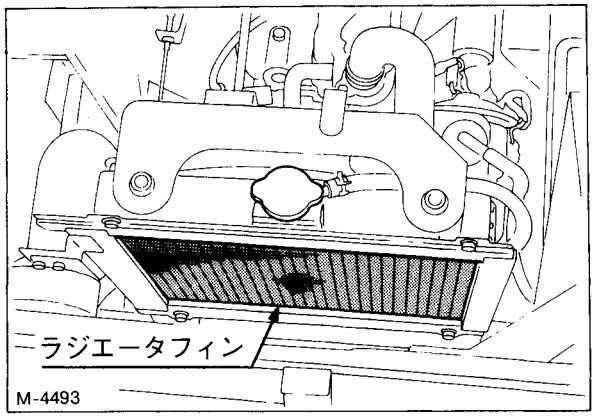
＊ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

＊エアクリーナの吸入口には絶対水をかけないでください。エンジン不調または破損の原因となります。

＊フィンがつぶれるので高圧水では清掃しないでください。

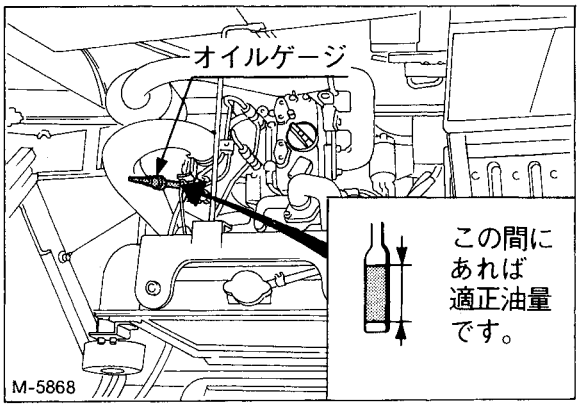
オーバヒート警報が鳴るときは，防じんあみとラジエータフィンがわらくずで詰まっていますので，圧縮空気か水道水などで清掃してください。





■エンジンオイルの点検と交換

◆点検とオイルの種類



気 温	オイルの種類	オイル量
15℃ 以 上 の と き	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10W30	＊上限線 2.05L
15℃ 未 満 の と き	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W30	＊下限線 1.35L

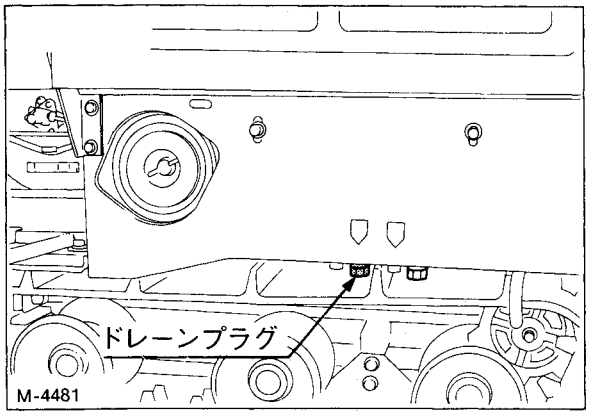
クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気 温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W－30
0～25℃	SAE20又は10W－30
25℃以上	SAE30又は10W－30

10W—30はオールシーズン用です。

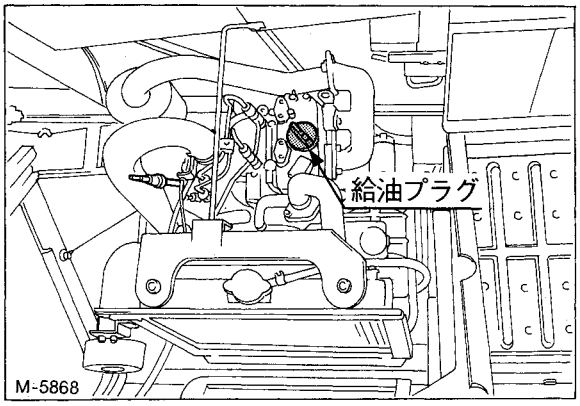
◆排油のしかた

給油プラグを外してから，ドレーンプラグを外し，オイルを排出してください。
給油プラグを閉めたままでは完全に排出できません。
エンジンの暖かいうちに排出しますと，オイルの流動性がよく早く抜取ることができます。



◆給油のしかた

ドレーンプラグを締付けて，給油口から適量給油し，給油プラグをきちんと締付けてください。（付属のじょうごを使用してください。）



■トランスミッションケース
オイルの点検と交換

注 意

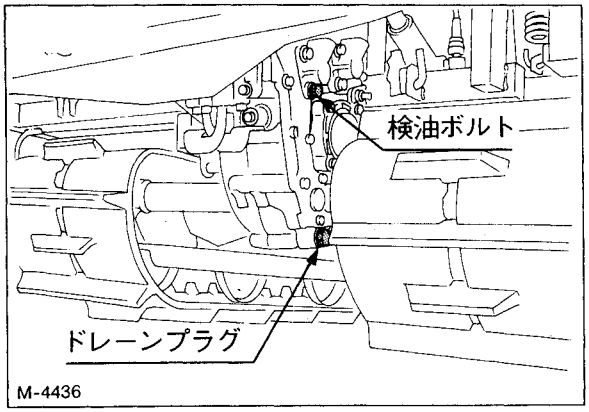
＊排油するときは，刈取部を上げて刈取部が下がらないように必ずパワーステアリングレバーのロックをし，さらに刈取部の下部に台をかませてください。

重 要

＊ミッションオイルを補給・交換するときは，給油口の回りをきれいにしてください。ミッションケース内に泥などが混入すると故障の原因になります。

◆点検

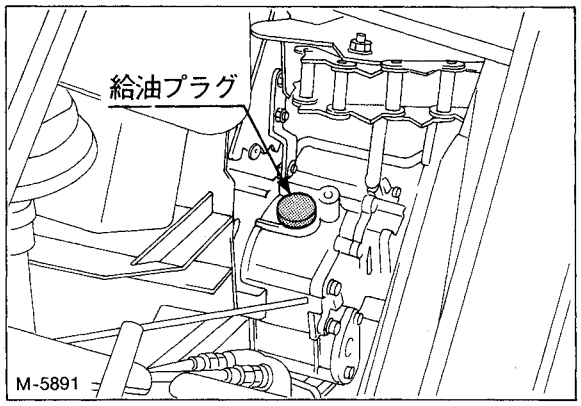
検油ボルトを抜き，オイルが出てくれば適正量です。
不足のときは，給油口から付属のじょうごを使用して補給してください。



◆交換

機械を丈夫なあゆみ板の上に載せて地面から高くし，ドレーンプラグ(M16)を外して古いオイルを排出してください。給油は検油ボルト穴からオイルが出てくるまで，給油口から新しいオイルを入れてください。

オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルM80B	R_1-121A 3.0L
又はNEW・UDT(コスモ・日石)	R_1-111 (SWK) 2.5L



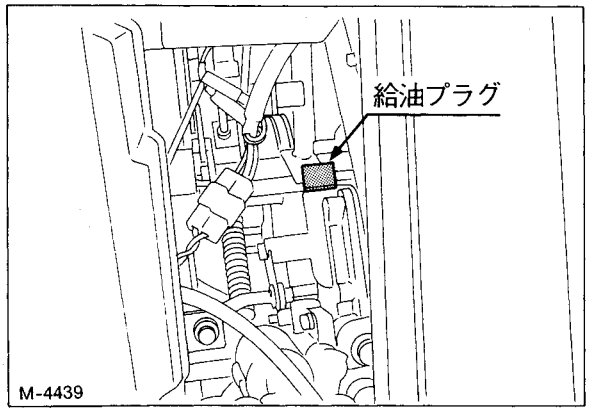
■油圧オイルタンクのオイル

重 要

＊刈取部を下げた状態で検油してください。

給油プラグを外し，オイルゲージの油をふいてもう一度ねじ込んでから外してください。オイルゲージの先端に油が付着しておれば適正です。不足のときは給油口から補給してください。

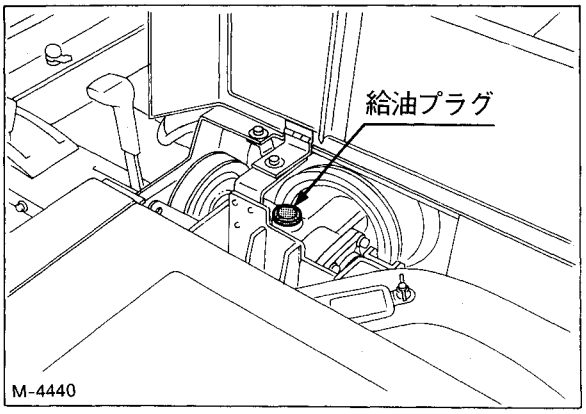
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルM80B 又はNEW・UDT(コスモ・日石)	0.9L



■こぎ胴ケースのオイル

給油プラグを外して，オイルが入っているか点検してください。

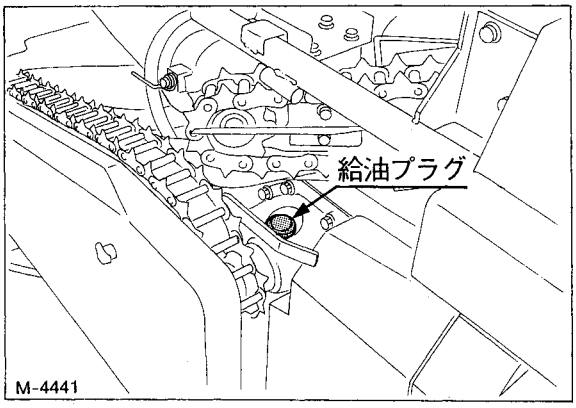
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル M90又はM80B	0.15L



■フィードチェーン駆動ケースのオイル

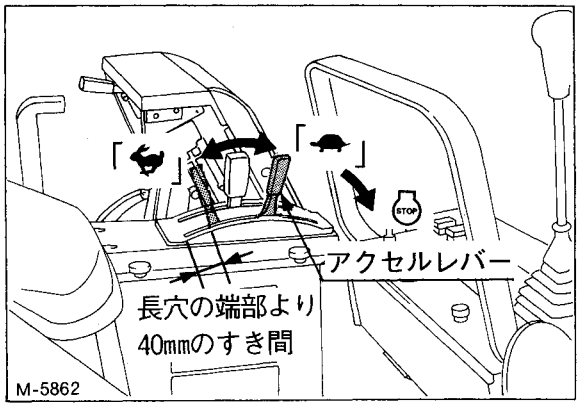
給油プラグを外して，オイルが入っているか点検してください。

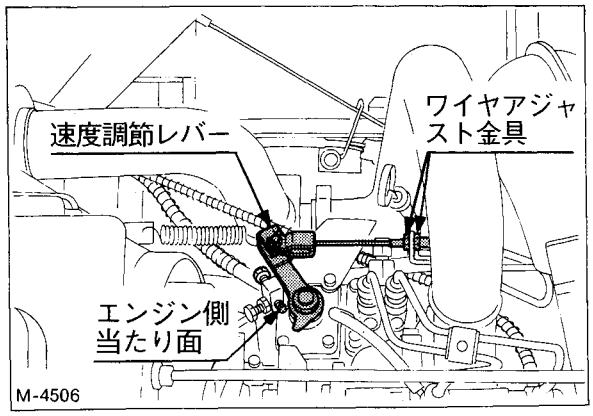
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル M90又はM80B	0.3L



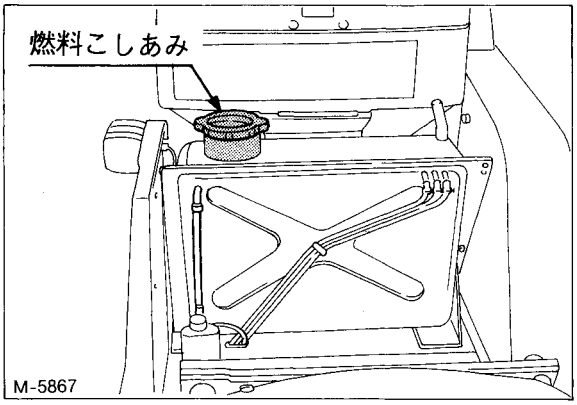
■アクセルワイヤの調整

規定の回転数が得られない場合，下記のように調節してください。アクセルレバーが“🐇”(下図位置)のとき，エンジンの速度調節レバーがエンジン側の当たり面に密着し，脱こくクラッチレバーを**“入”**にしてアクセルレバーが“🐢”(下図位置)のとき，エンジン回転数が1100min^{-1}(rpm)以上になるようにワイヤアジャスト金具で調節してください。





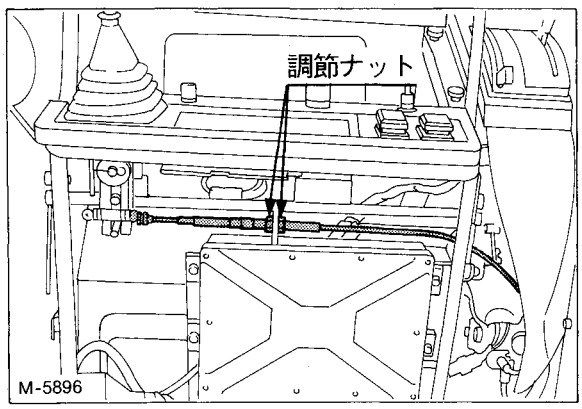
■燃料こしあみの清掃



■パワーステアリングレバー

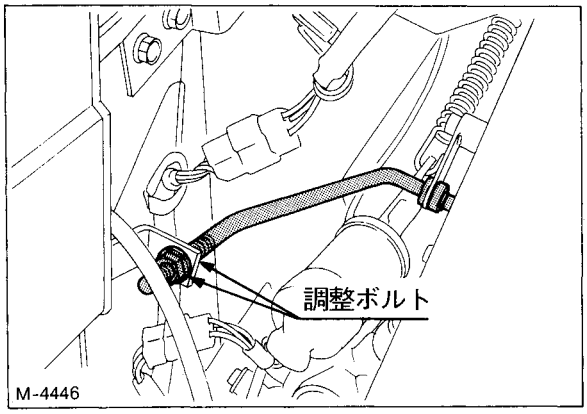
◆操向クラッチの調整

パワーステアリングレバーが中立のときバルブレバーが中立の位置にくるようワイヤを調整してください。



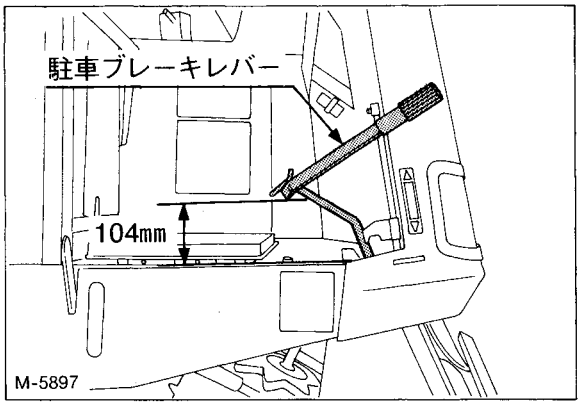
◆刈取昇降の調整

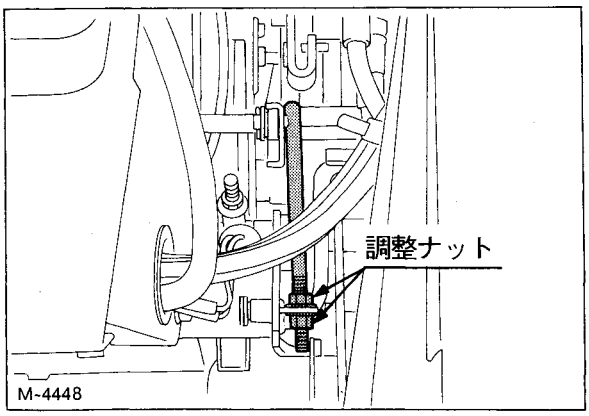
パワーステアリングレバーを操作したとき，昇降スピードが遅いとき，又は昇降できないときは，調整ボルトで調節してください。



■駐車ブレーキレバーの調整

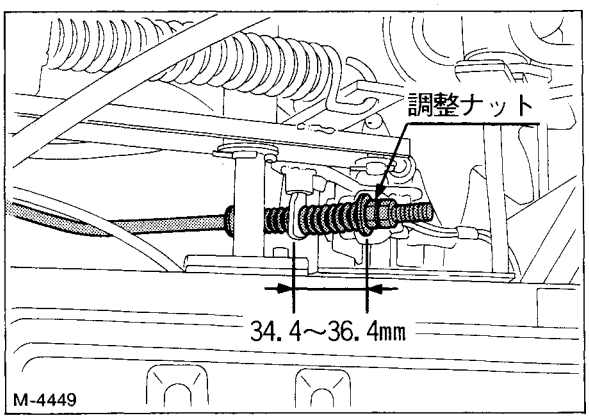
ペダルとステップの間が104mmとなるよう調整ナットで調整してください。





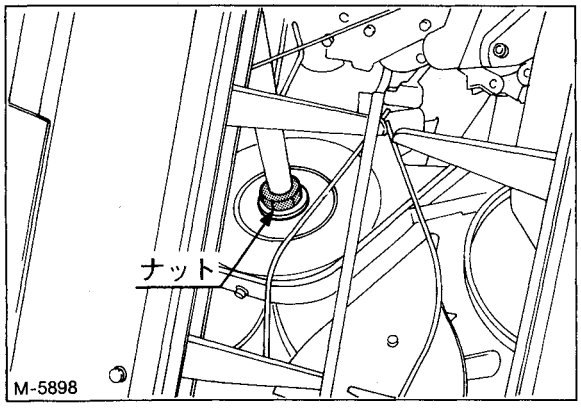
■駐車ブレーキの調節

駐車ブレーキレバーをフック部に掛けた状態で，下図の寸法になるよう，調整ナットで調整してください。なお調整後傾斜したあゆみ板（段差の４倍以上の長さ）の上で停止できるかどうか確認してください。



■トルクリミッタの調整

トルクリミッタはパッカ駆動軸に組付けてあり，パッカに過負荷がかかるとクラッチがスリップし，パッカの回転を止めて機械の破損を防止する安全装置です。
パッカのトルク調整は次の要領でトルク88.2～117.6N·m (9～12kgf·m)に設定してください。
下図のナットをゆるめた状態から手でいっぱいに締め，さらに1.5回転スパナで締込みます。

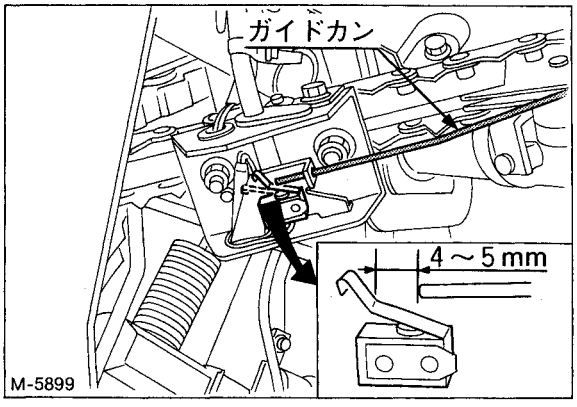


■供給搬送詰まり警報の調整

供給搬送詰まり警報は供給レールに組付けてあり，供給搬送部が詰まると警報を鳴らして知らせる装置です。

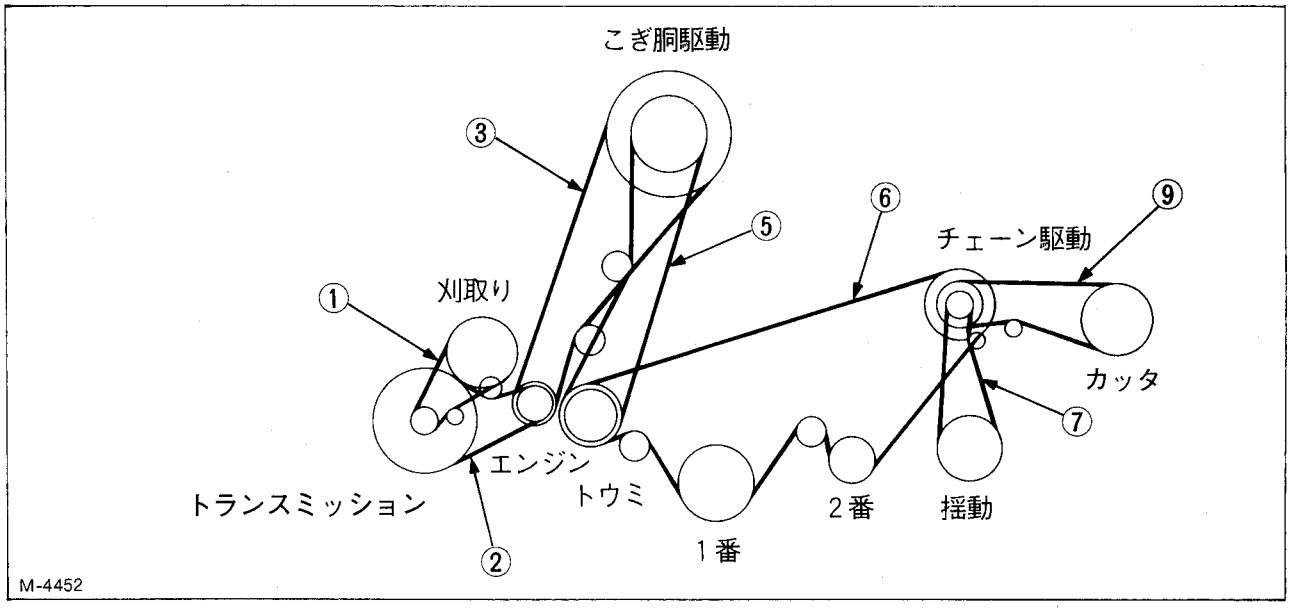
＊供給搬送詰まり警報の調整

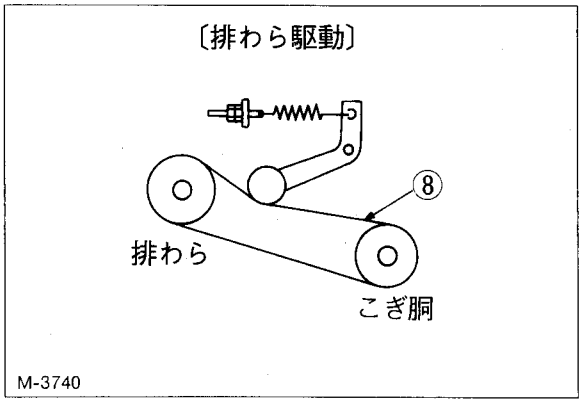
ガイドカン先端とスイッチアームのすき間寸法が4～5㎜ になるように，スイッチ取付金具の位置を調整します。

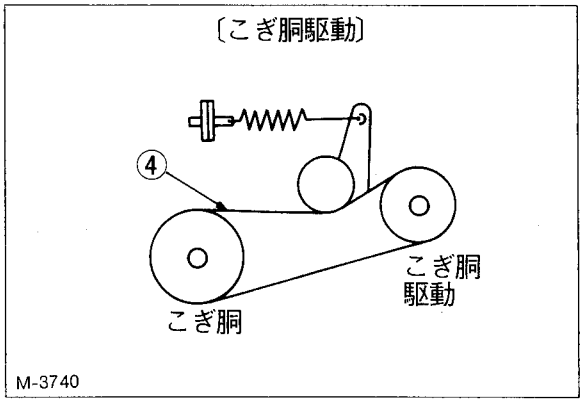


■各部のベルト調整

No.		ベルトの名称	サイズ			スプリング取付け長さ（寸法はフック内側間）
			R_1-111	R_1-111SWK	R_1-121A	
エンジン周辺部	①	刈取り駆動ベルト	特A31	特A29	特A30	188～192mm（R_1-111） 272～276mm（R_1-121A）
	②	走行ベルト	特B39		特B41	192～196mm
	③	脱こく駆動ベルト	特C78		特C78	307～311mm
脱こく部	④	こぎ胴駆動ベルト	特C51			135～145mm
	⑤	トウミ駆動ベルト	特B71			138～143mm
	⑥	1番，2番，チェーン駆動ベルト	特B102			調整なし
	⑦	揺動駆動ベルト	特A38			調整なし
	⑧	排わら駆動ベルト	特B33			150～160mm
カッタ	⑨	カッタ駆動ベルト	特B51			スプリング掛けかえ

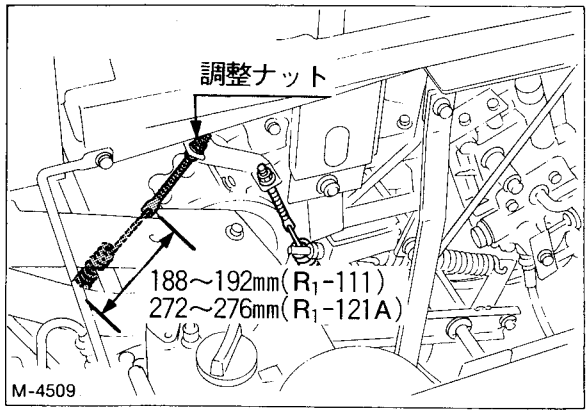






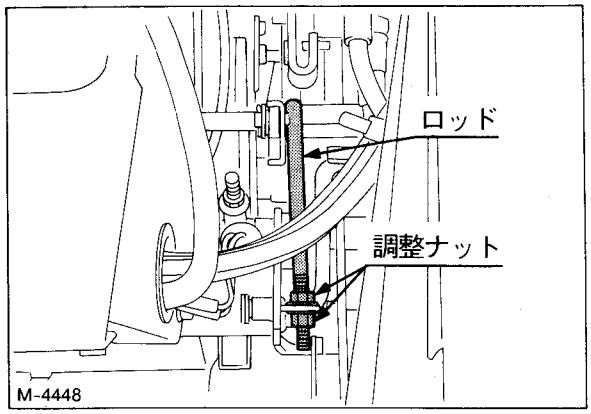
◆刈取り駆動ベルトの調整

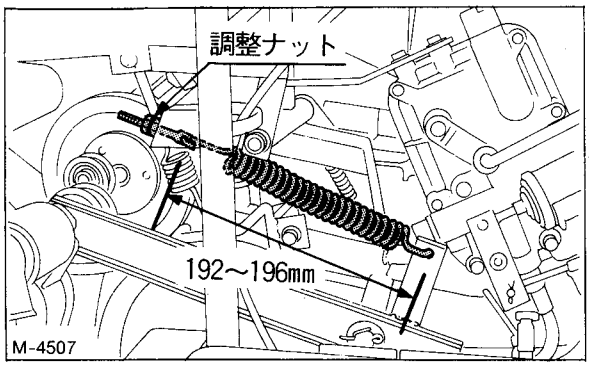
刈取り駆動ベルトがスリップするときは，刈取りクラッチレバーを“入”にして，スプリング長さが下図の寸法になるよう調整ナットを締込んでください。



◆走行駆動ベルトの調整

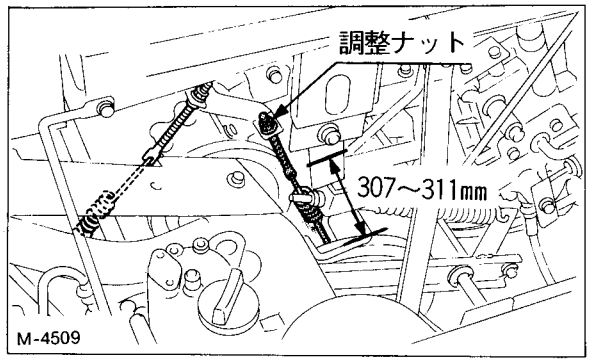
走行駆動ベルトがスリップするときは，走行クラッチを“入”にしてロッドの調整ナットをゆるめてから，スプリング長さが下図の寸法になるよう調整ナットを締込み，ロッドの調整ナットを締めてください。



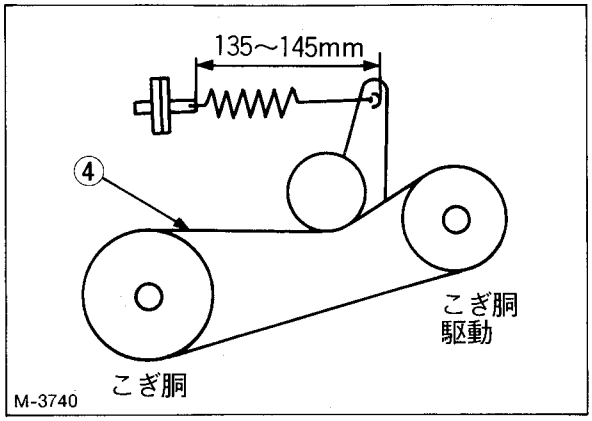


◆脱こく駆動ベルトの調整

脱こく駆動ベルトがスリップするときは，脱こくクラッチレバーを“入”にして，スプリング長さが下図の寸法になるよう調整ナットを締込んでください。

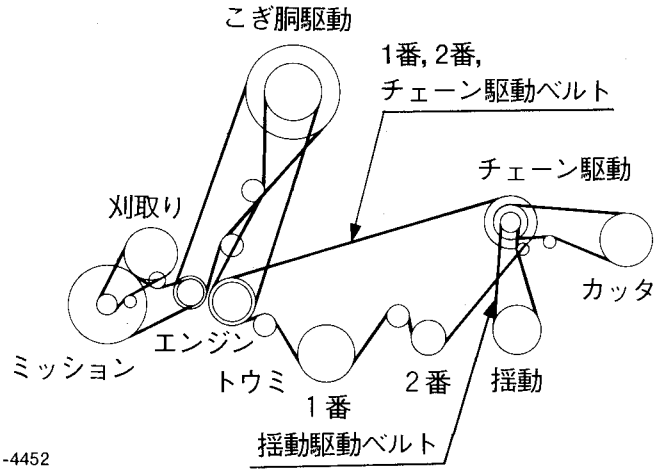


◆こぎ胴駆動ベルトの調整

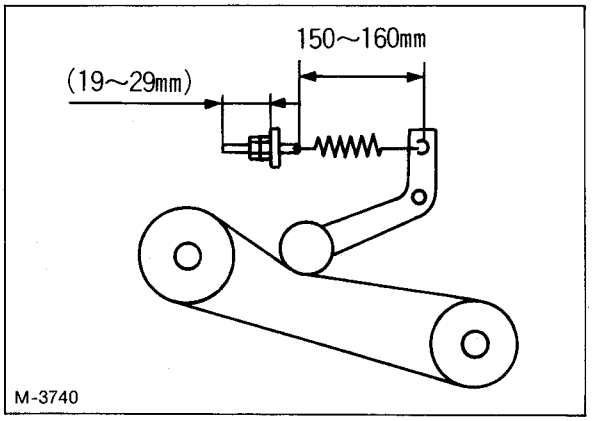


◆1番，2番，チェーン駆動ベルトの点検

◆揺動駆動ベルトの点検

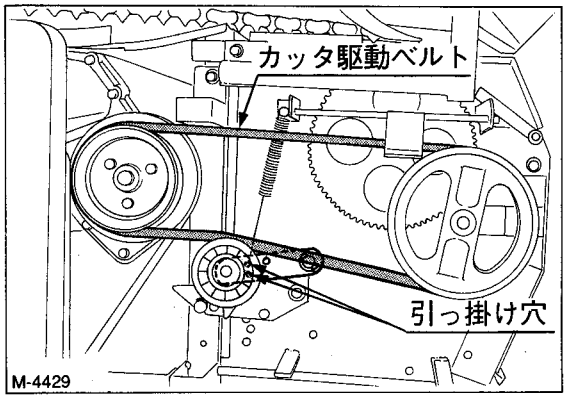


◆排わら駆動ベルトの張り調整

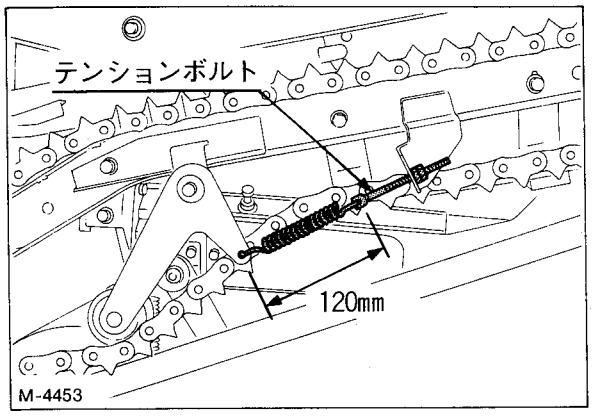


◆カッタ駆動ベルトの張り調整

カッタ駆動ベルトがスリップするときはバネを下の穴に掛け換えてください。



■フィードチェーンの張り調整



■クローラの張り調整

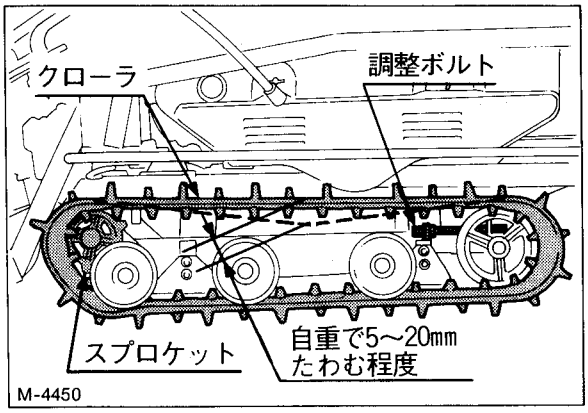
重 要

＊クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。

＊クローラがゆるみ過ぎるとスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため最初20時間までに増し張りしてください。

自重で５～20mmたわむ程度が適当です。

左右のクローラの張りが同じになるようにしてください。



■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検

注 意

＊点検・交換時はエンジンを必ず止めてください。

＊ワイヤハーネス及びバッテリコードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。

▶もし怠ると，……火災・損傷の危険があります。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検し，悪ければ交換してください。

(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプにゆるみがないこと。

(2)ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。

(3)各スイッチが確実に作動すること。

■電気配線・ヒューズの点検

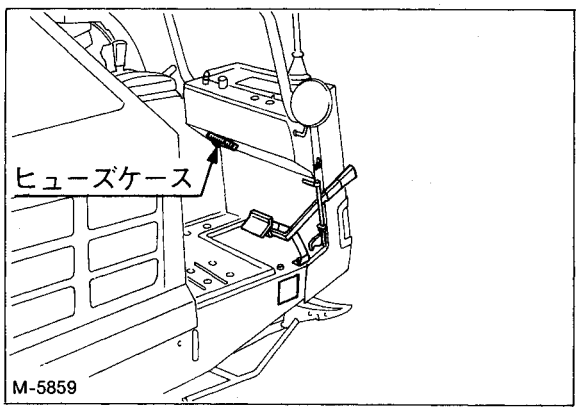
配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能をそこなうだけでなくショート(短絡)，漏電または焼損など思わぬ事故になることがあります。傷んだ配線がないか点検してください。

重 要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用しないで，販売店かJA農協で点検，修理してください。

◆ヒューズの交換

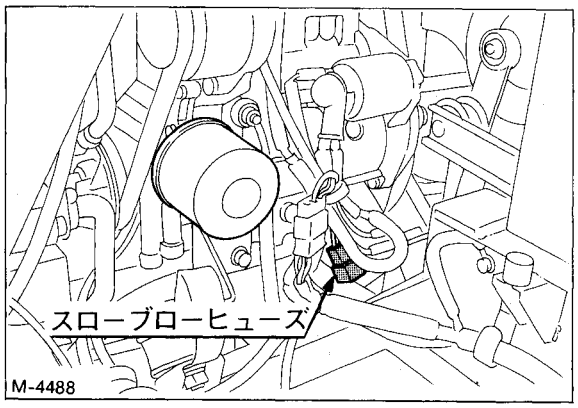
❶ヒューズケースのふたを外してください。
❷ヒューズを外してください。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換してください。



容　量	受けもっている回路
20A	方向制御　※D仕様
20A	こぎ深制御
15A	ヘッドランプ・ウインカランプ
10A	本機AC
10A	マイコン・パネル・リレー
10A	マイコン・AES

予備ヒューズは，20A 1本，15A 1本，10A 1本が入っております。

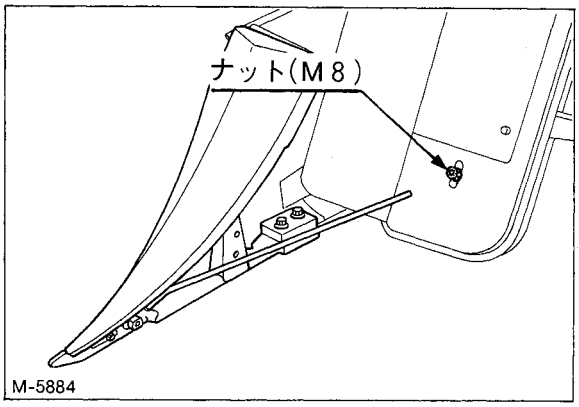
◆スローブローヒューズの交換

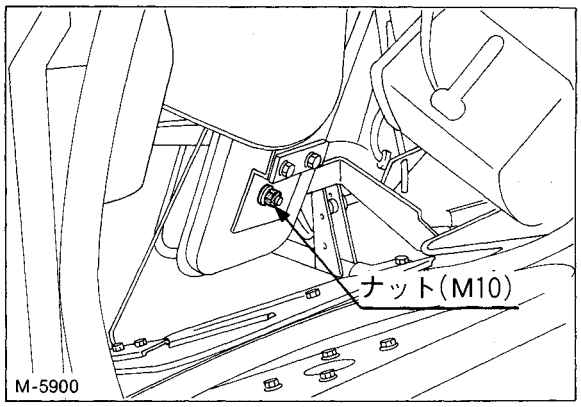


スローブローヒューズは，ビニールテープで確実にワイヤハーネスで固定して他の部品と当たらないようにしてください。また，スローブローヒューズは，配線を保護するためのものですので，もし切れた場合は，必ず切れた原因を調べ，決して代用品を使用しないで，純正部品を使用してください。

■引起しチェーンの張り調整

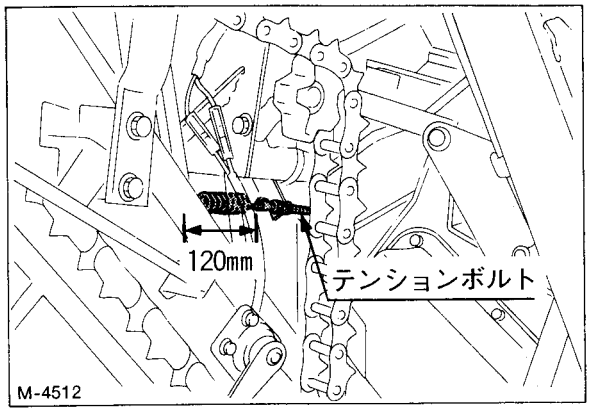
引起し枠の表(M８)と裏(M10)のナットをゆるめると枠内のスプリングの力で自動的にチェーンを張ります。張り調節が終ったら，ナット２箇所をもとの通り締付けてください。ナットが長穴の端部まで動いたら，自動テンションは効きませんのでチェーンの半コマを抜いてください。



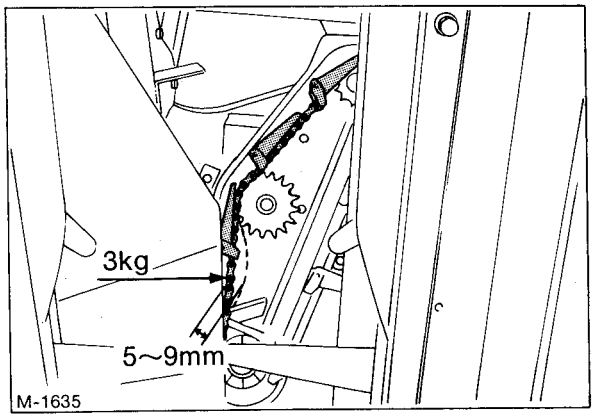


■株元供給チェーンの調整

スプリングの長さが120mmになるようにテンションボルトで調整してください。

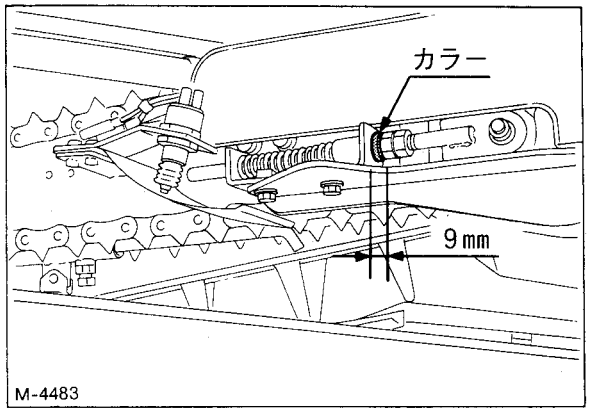


■穂先供給チェーンの調整



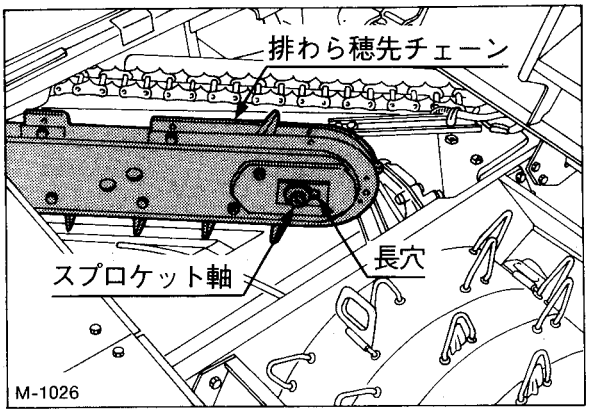
■排わら株元チェーンの張り調整

カラーの出代が９mmになるように調節してください。



■排わら穂先チェーンの張り調整

スプロケット軸が長穴の端部まで動いたら自動テンションが効きません。チェーンの半コマを抜いてください。



■刈刃のすき間調整

注　意

＊取外し，取付け調整は，エンジンを必ず止めてから行なってください。

＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。

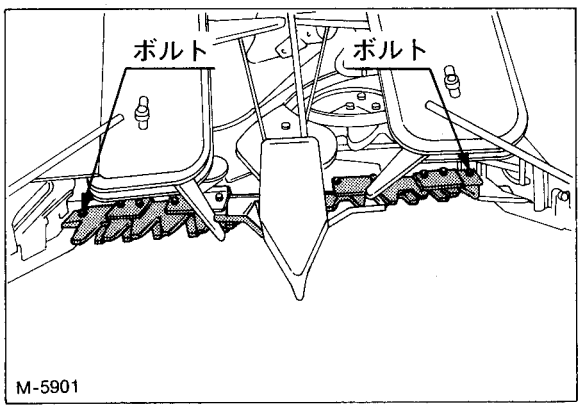
重　要

＊刃が摩耗すると刈跡が見苦しくなったり，刈取り搬送姿勢が悪くなって無駄な動力を費やしますので，受刃を研摩するか，刈刃全体を交換してください。刈刃はのこ刃ですから，研摩の必要はありません。受刃の研摩は慣れないと危険ですので，お買上げいただいた販売店・JA農協に研摩を依頼してください。

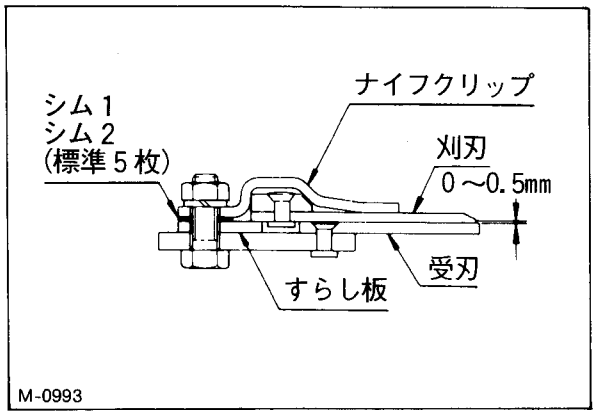
❶刈刃取付けボルト２本を取外してください。

❷刈刃全体を刈取部から外してください。

❸受刃台からナイフクリップを取外してください。



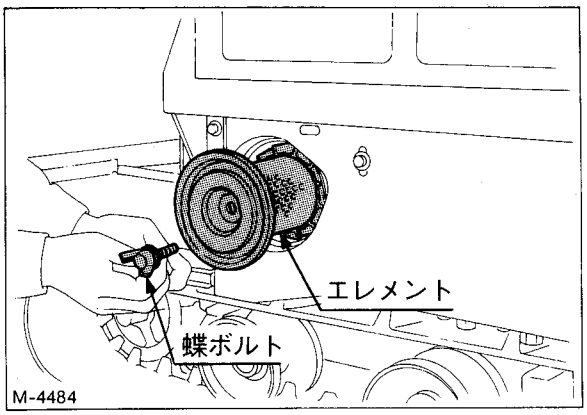
❹刈刃と受刃のすきまを調整してください。
刈刃と受刃のすきま：0～0.5mm
刈刃とナイフクリップのすきま：0.1～0.3mm
（シム２の増減で調整）



❺逆の順序で組付けてください。
刈刃が手で動くことを確認してください。

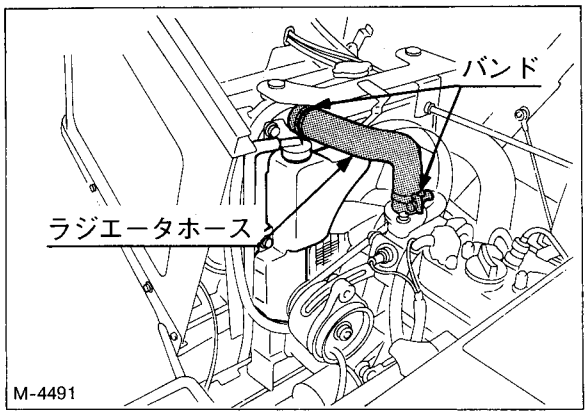
定期交換

■エアクリーナエレメントの交換



■ラジエータホースの交換

２年ごとにラジエータホース及びバンドを交換してください。それ以前でもチェックしたときラジエータホースが膨れたり，固くなったり，ひび割れしていれば交換してください。



■燃料系ゴムホースの交換

注　意

＊燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起しますので，必ず点検してください。
▶もし怠ると火災など傷害事故の危険があります。
＊運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出して危険です。
＊排油チューブが破損していると，オイルがもれてエンジンが焼付きます。

重　要

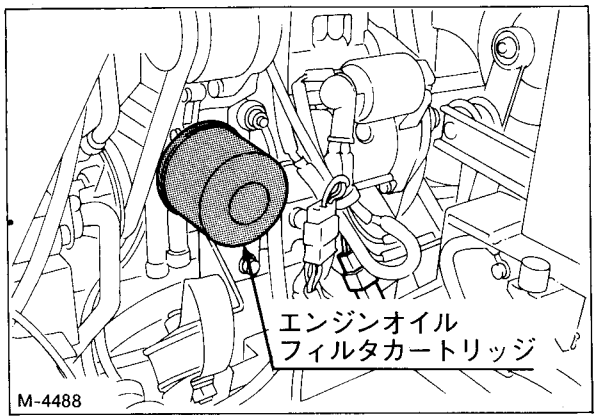
＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにごみが入らないように注意してください。ごみが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

燃料系ゴムホース・ラジエータホースや排油チューブなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。
締付けバンドとともに２年ごと又は傷んだときに新品と交換する必要があります。
(1)パイプ・ホース類が傷んだり締付けバンドがゆるんでいないか常に注意してください。
(2)排油チューブも忘れずに点検してください。

■エンジンオイルフィルタ カートリッジの交換

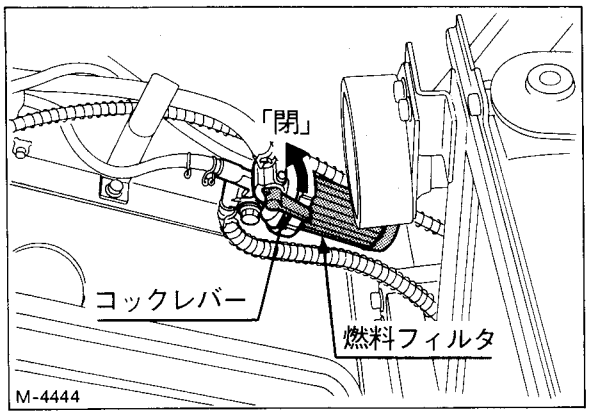
(1)販売店・JA農協で，専用工具で交換してください。

(2)新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。

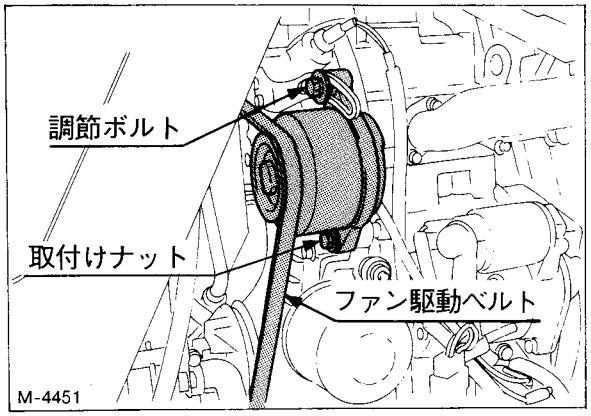


(3)オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。
オイルゲージの上の刻線までオイルを補給した後，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧(オイルランプ)に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確かめておいてください。

■燃料フィルタの交換



■ファン駆動ベルトの交換



■刈刃の交換

注 意

＊取外し，取付け調整は，エンジンを必ず止めてから行なってください。

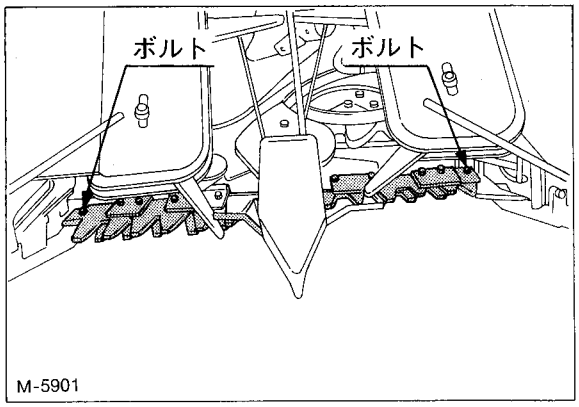
＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。

重 要

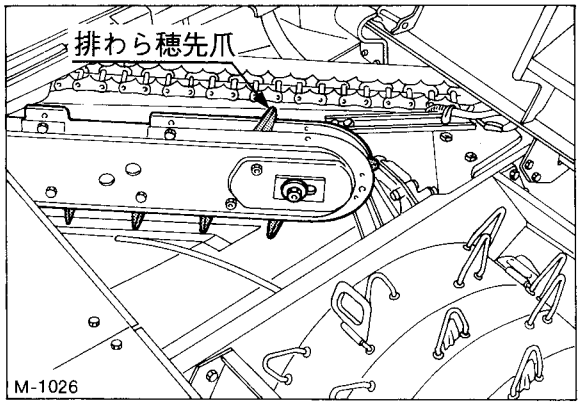
＊刃が摩耗すると刈跡が見苦しくなったり，刈取り搬送姿勢が悪くなって無駄な動力を費やしますので，受刃を研摩するか，刈刃全体を交換してください。刈刃はノコ刃ですから，研摩の必要はありません。受刃の研摩は慣れないと危険ですので，お買上げいただいた販売店・JA農協に研摩を依頼してください。

❶刈刃取付けボルト２本を取外してください。

❷刈刃全体を刈取部から外してください。



■排わら穂先搬送爪の交換



■わら切刃の交換

重　要

＊わら切刃の取付け方向を確認して確実に取付けてください。

＊ダクト，アッシ(２番筒)の下側口を下方に押しながら組付けてください。

◆わら切刃の外し方

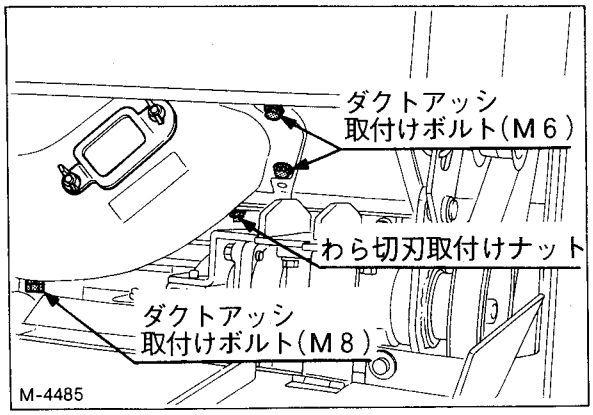
❶カバー(2，脱こく上)を開けてください。

❷ダクト，アッシ(2番筒)取付けボルト(M6・2本，M8・1本)を外してください。

❸ダクト，アッシ(2番筒)を取出してください。

❹わら切刃取付けナット(3個)を外してください。

❺わら切刃を取出してください。



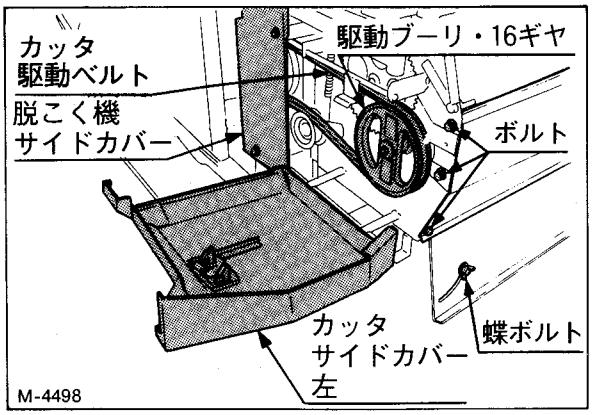
■カッタ刃の交換のしかた

❶カッタサイドカバー左・サイドカバー右を外してください。

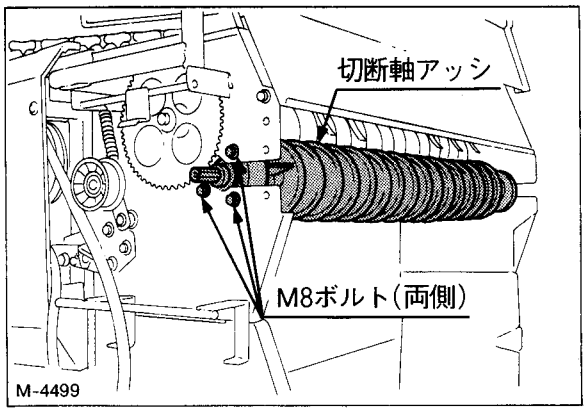
❷カッタ駆動ベルトを外してください。

❸リヤカバーのボルト（両側）とリヤシュートの蝶ボルト（両側）を外してください。

❹駆動プーリ・16ギヤを外してください。

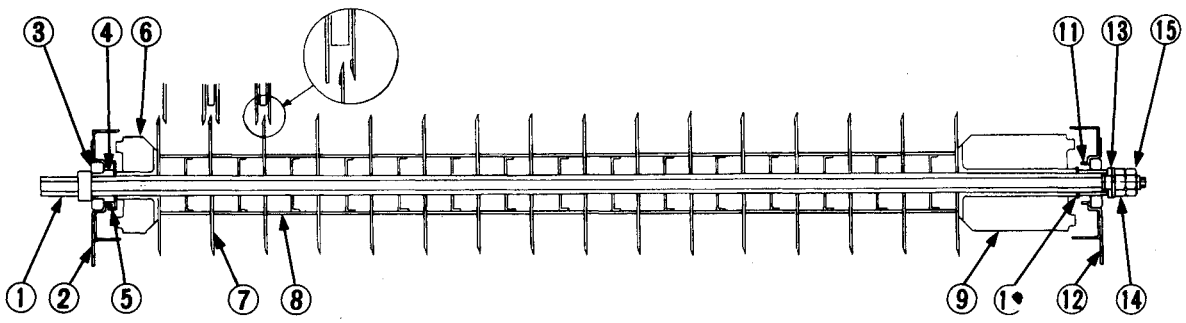


❺ベアリングケースのM８ボルト（両側）を取外し，切断軸アッシのままフレームから取出してください。



❻軸アッシを安定した所に置き，六角ナットをゆるめ，順に分解してください。

❼刃の交換ができたら，分解した順序を間違えないよう組立ててください。



M-4487

図番	品番	品名	個数	
			SR_1-121	SSR_1-121
①	57786-2121-2	シャフト(セツダン)	1	1
②	57786-2122-1	ベアリングケース(セツダンLH)	1	1
③	08141-06205	ボールベアリング	2	2
④	57612-2121-1	ベアリングカラー1	1	1
⑤	57612-2126-2	キャップ	1	1
⑥	57793-2119-3	ハイシュツハネ	1	0
⑥	57796-2124-1	ハネ(ハイシュツ)	0	2
⑦	57775-2223-1	セツダンバ(130)	16	26
⑧	57783-2120-2	55パイプカンビ	15	0

図番	品番	品名	個数	
			SR_1-121	SSR_1-121
⑧	57758-2120-1	36パイプカンビ	0	25
⑨	57783-2119-3	ハイシュツハネ	1	0
⑩	57471-1121-1	マルザ	1	1
⑪	57783-2124-2	32スリーブ	1	1
⑫	57786-2123-1	ベアリングケース(セツダンRH)	1	1
⑬	57783-2144-1	32-16.5ヒラザガネ	1	1
⑭	57783-2126-1	M16サラバネツキナット	1	1
⑮	02052-50160	ナット	1	1

注 意

＊組付け時，刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと，刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。

＊軸を垂直に立てて組んでください。組付け後の軸振れが無くなります。

＊刃の向き，組合わせが逆にならないよう特に注意してください。

＊組付け後，刃と刃が接触していないか軽く回して確認してください。

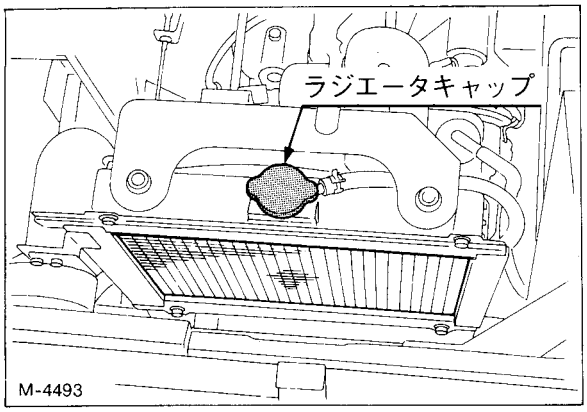
長期格納のしかた

■各部の清掃と補修

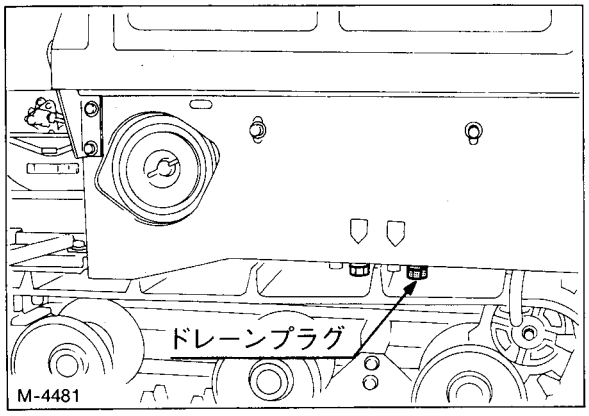
(1)各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
(2)各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。
(3)各回転部分や摩擦しゅう動部分には，じゅうぶん注油し，錆びないよう配慮してください。
(4)各チェーンにもじゅうぶん注油して，錆びないよう配慮してください。
(5)各部にこく粒やわらくずが残っていると，ネズミの巣になったり配線部をかじられて，次の年の作業にさしつかえますからきれいに取除いてください。
〔クボタ純正部品ラットガードを配線にスプレーすると効果的です。〕
(6)塗料のはげた所には補修塗料を塗って，錆がでないようにしてください。

■ラジエータ冷却水

ラジエータの冷却水は冬期の凍結割れ防止のため，排水するか，不凍液(ロングライフクーラント)を水に混ぜて入れてください。
冷却水を抜取るときは，次の要領で行なってください。
❶ラジエータのキャップを開いてください。



❷排水用ドレーンプラグを外してください。



❸ドレーンコックは開いたままにし，キャップに**“水なし”**と書いた札をかけておいてください。
❹ラジエータキャップとドレーンプラグは紛失しないように保管してください。

■バッテリ

バッテリは機体から取外して，液を規定量にしてから充電し，直射日光の当たらない乾燥したところに保存してください。
バッテリは保存中でも自然放電するので，夏は1カ月に1回，冬は2カ月に1回補充電する必要があります。また本機に取付けたまま保管するときは必ずアース側（⊖側）を外してください。

■各種レバー類とその他

重 要

＊機体を洗う場合は、電装部品に水がかからないようにしてください。

(1)エンジンは，必ずアクセルレバーをいっぱい戻して止めておいてください。
(2)メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管してください。
(3)刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーは**“切”**にしておいてください。
(4)カッタのドロッパ切換えレバーは，ドロッパ作動位置にしておいてください。
(5)戸外に置く場合は，雨水がかからないようにシートでおおっておいてください。
マフラ・エンジンが冷えてからシートをかけてください。

使用者が行なってはいけない修理

下記部分に異状があるときはお買上げのJA農協，販売店の修理工場に依頼してください。
＊エンジン本体
＊トランスミッションケース
＊ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
＊油圧系統
＊電気部品と電気系統
＊刈取部の動力伝達系統
＊カッタ刃の交換

使用済廃棄物の処分について

機械の廃油や，使用後のフィルタなどの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。
機械から廃油を抜く場合は，容器に受けてください。地面へのたれ流しや川，沼への廃棄は絶対にしないでください。
廃油・燃料・冷却水・冷媒・ブレーキ液・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは，販売店，又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

快適な湿田作業を行なうために

（R1-111SWK仕様）

はじめに

湿田作業での作業トラブルを未然に防止するため，下記の項目を常に注意し，除去してから，作業を行なってください。

■深い湿田での作業

(1)深い湿田で使用する場合は，パワーステアリングレバーを早めに小きざみに操作してください。
(走行クラッチを長く切ると沈下を促進します)
(2)旋回は，できるだけ大廻りをし，同じ場所での旋回を避けてください。
(3)ホッパ内のもみ，及びもみ袋は早めに交換してください。
(4)機械を沈没させないよう，ほ場状態をよく知って作業を行なってください。
(水口場所，特に深い場所など)
(5)機械がスリップしだしたら，下車して機械の手助けを行なってください。
(6)バック時，後部が持上ってバックしにくいときは，運転者が降りてバランスをとってください。

■パッカ下部(搬送通路)への泥溜り

＊搬送通路が狭くなるとともに，泥溜りによるかん抵抗が大きくなり，搬送部へのスムーズな流れができなくなり搬送詰まりやパッカへの巻付きを起します。従って刈刃で泥を刈らないように少し高刈りをしてください。

■カッタ部への泥，わらの巻付き

＊湿田作業を行ないますので，稲株の根元部は常に泥が付着しているため，カッタの根元側切断部には泥わらが巻付き，切れ味を悪くします。泥，わらの巻付きが大きくなると，カッタの切断不良となり，わら詰まりします。詰まり具合をみて早めに掃除してください。

■クローラ部への泥，わらの巻付き

警　告

＊回転物や，刃物部の点検・清掃・整備はエンジンを必ず止めてください。

＊足回り部へ多大の泥，わらが巻付くと，クローラの脱輪が生じる場合もありますので，必ず備え付けの洗車ポンプで，作業終了後は洗車し，泥，わらを取除いてください。

取扱い要領

■刈刃高さの上下調節

重　要

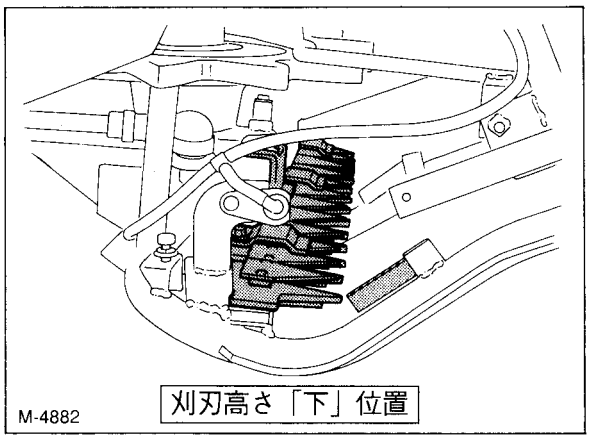
＊刈刃高さがほ場条件に合っていないと，快適な収穫作業が行なえないばかりか，刈刃の寿命が短くなります。

刈刃高さの上下調節は，ほ場条件に合わせて調節してください。

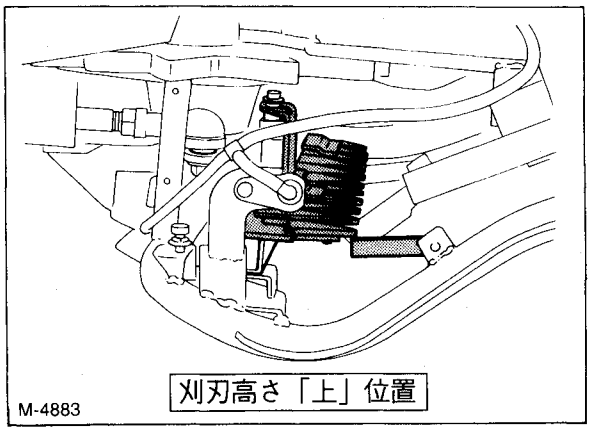
◆ほ場条件と刈刃高さ位置

ほ　場　条　件	刈刃高さ位置
乾　　田	「下」
湿田(足沈下15cmまで)	「下」
強湿田(足沈下25cmまで)	「上」

※ほ場条件と刈刃高さ位置は，湿田ほ場（地域）条件により多少異なります。



M-4882　刈刃高さ「下」位置



■刈刃高さの上下調節要領

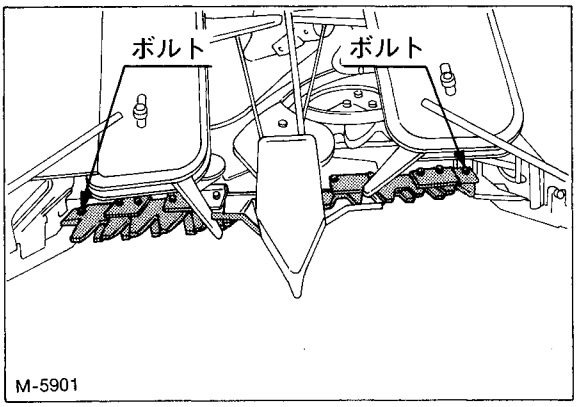
警　告

＊エンジンを必ず止めてください。

＊刈刃の上下調節は，素手では絶対に行なわないでください。（手袋使用）

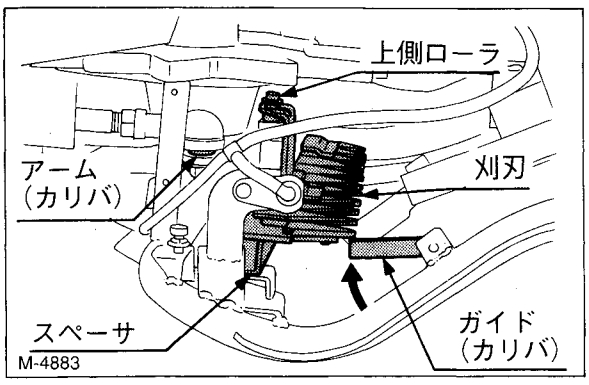
❶刈刃取付けボルト２本を取外してください。

❷刈刃全体を刈取部から外してください。



❸刈刃アッシをスペーサの上に乗せ，ボルトで取付けてください。

❹ガイド(カリバ)を受刃の下まで角度調整してください。



重　要

＊刈刃で手を切らないように取扱いに注意してください。

＊刈刃上下調節時は，エンジンを必ず止めてください。

＊刈刃のストロークが，受刃に対し振り分けになるよう取付けてください。

＊刈取りフレームの泥を完全に落とし，刈刃のナイフヘッドの高さが刈刃クランクアームのローラセンタになるようにしてください。

＊刈刃上下調節後の試運転は，スロー回転で行ない，異常がないか確認してください。

■デバイダの調節

デバイダはほ場条件，稲の倒伏程度により，適宜調節してください。

❶デバイダの上下調節

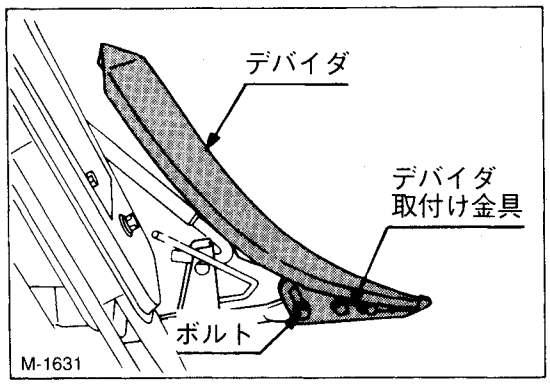
ほ場条件	デバイダ位置
乾　　田	「上」
湿　　田	条件に応じて調節

❷デバイダの調節範囲

調節項目	調　節　量
上下調節	30㎜
上下角度調節	15°(デバイダ先端で45㎜)

❸調節要領

デバイダの上下及び角度調節はボルトで行なってください。



■洗車ポンプの取扱い

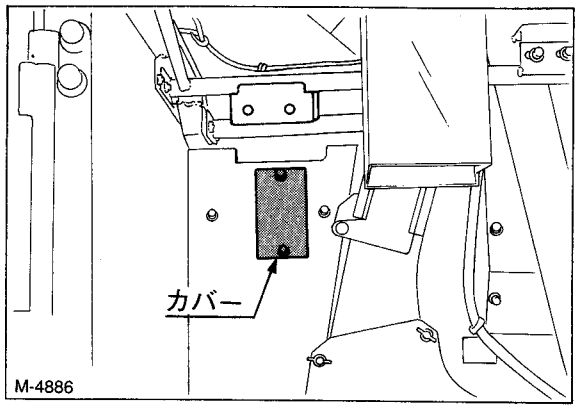
注　意

＊洗車ポンプの脱着は，必ずエンジンを止めてください。
＊脱こくクラッチは，“切”にしてください。

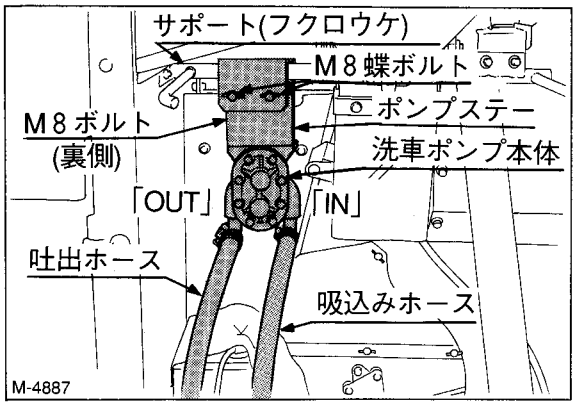
洗車ポンプは，洗車するときのみ取付けてください。

◆取付要領

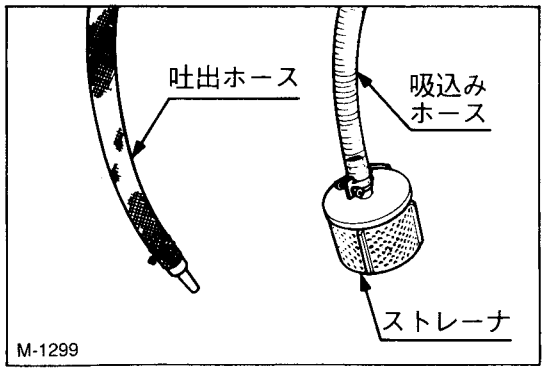
❶カバーを外してください。
(爪付60プーリが見える)



❷M８ボルト２本でポンプ本体とポンプステーを組付けてください。
❸洗車ポンプのシャフトが手で軽く回ることを確認してください。
❹ポンプステー(ポンプ組付け済)をサポート(フクロウケ)にかけてください。
❺洗車ポンプの駆動爪を脱こく側の爪付60プーリと結合させてください。
❻M８蝶ボルト２本で締付けてください。
❼洗車ポンプ本体の刻印**“OUT”**側に吐出ホース，**“IN”**側に吸込みホースを取付けてください。



❽ストレーナを水に沈めてください。



❾エンジンを始動させ，脱こくクラッチを入れ，脱こく部を回転させてください。
❿洗車ポンプ使用時のエンジン回転数は約2500rpmに合わせてください。

重　要

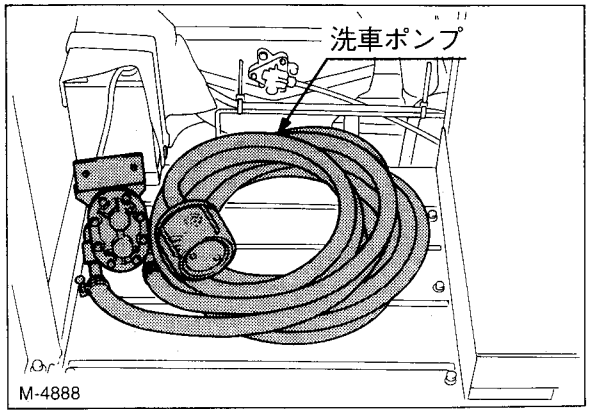
＊洗車ポンプを機械に取付けたままでの空運転は，絶対にしないでください。
＊泥水は絶対に使用しないでください。
(清水，又は農業用水を使うこと。)
＊砂など硬い物質が混入しますとポンプが破損致しますので，砂地の場合はストレーナに目の荒い布などをかぶせてご使用ください。
＊洗車ポンプを外した後は，必ずプーリ部のカバーを取付けてください。
＊吸込みホースの落差が大きいか，吐出力が低下した場合は，呼び水をしてください。

■洗車ポンプの収納

洗車ポンプの収納は，下図のように行なってください。

重　要

＊洗車ポンプは洗車が終ったら，必ず，機械より外して，シャフトを手で回し，中の水を抜き，上部の注油口より油を差し手で回して，錆付防止を行なってください。



コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起ったら！

ページ

水温ランプが点灯しブザーが鳴った 80

エンジンがかからない 81

こぎ深さ自動ランプが点滅する 82

作物を刈取らずに押倒していく 82

株の引抜きがある 82

ビーと連続ブザーが鳴る 83

ビービーと断続ブザーが鳴る 83

ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる 84

こぎ残りがでる 85

もみの飛散が多い 85

選別が悪くなった 86

わらが切れなくなった 86

警 告

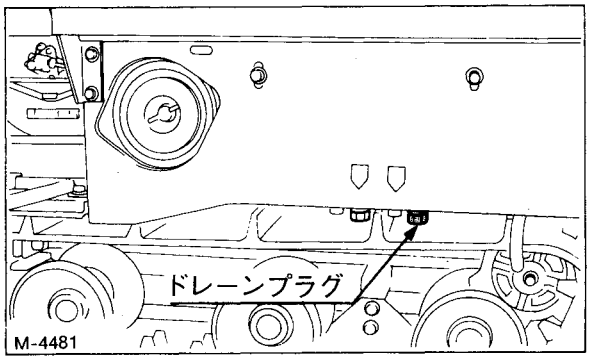
＊各部の調整・点検・交換などを行なうときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

注 意

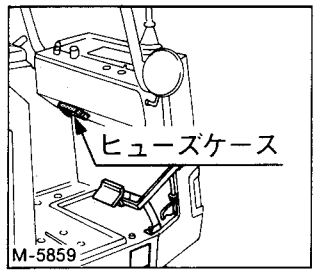
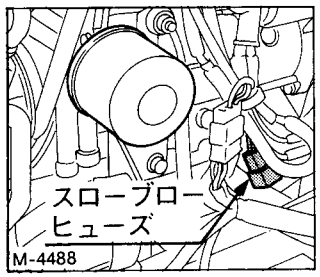
＊各クラッチは，“切”にしてください。
＊エンジン始動時は合図をし，安全を確認してください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。またオーバヒートの高温時は，エンジンを停止し，30分以上経過するまでエンジンルームを開けないでください。熱湯が吹出したり，高温部でヤケドをするおそれがあります。
＊刈刃やカッタの清掃時は刃部に注意してください。
＊燃料やオイルをこぼしたときは，火気に注意しきれいにふき取ってください。

水温ランプが点灯しブザーが鳴った

＊エンジンがオーバヒート(過熱)している。

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
＊刈取作業を中止し， ❶エンジンを停止する。 ❷エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開ける。 ❸点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。 ＊エンジンが冷えていないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部より熱湯が吹出したり高温部に接触してヤケドをするおそれがあります。	防じんあみ，又はラジエータフィンがわらくずなどで目詰まりしている。	防じんあみ	＊防じんあみをブラシなどで清掃する。	60ページ
		ラジエータフィン	＊圧縮空気か水道水で，フィンを傷つけないように清掃する。	60ページ
	冷却水が不足している。	ラジエータ リザーブタンク	＊清水をラジエータ給水口まで補給する。 (ラジエータが熱いときは危険です。 30分程度冷やしてキャップを開ける。) ＊清水をリザーブタンクの"H"(上限)まで補給する。 ＊ドレーンプラグからもれていないか点検する。もれているときは10ミリスパナで締め直す。(モンキーレンチで締め過ぎると破損します。)  	12ページ
	エンジンオイルが不足している。	オイルゲージ	＊上限近くまで，補給する。	60ページ
		エンジンオイルフィルタカートリッジ	＊エンジンオイルフィルタカートリッジの交換時期になっていれば交換する。	71ページ
	ファン駆動ベルトがゆるんでいる。	ファン駆動ベルトのたわみ	＊ダイナモの取付けボルトと調整ボルトをゆるめ，ダイナモを引っ張りながらベルトの増張りを行なう。 ＊ベルトが損傷しているときは新品と交換する。	60ページ

エンジンがかからない

すぐにすること	原因		点検箇所	処置	参照ページ
＊メインスイッチを“切”の位置にする。	セルモータは回る	燃料がない。	燃料ゲージ	＊燃料があるか点検し，ない場合は補給する。**(火気厳禁)**	11,12ページ
		燃料はある。	燃料フィルタ	＊燃料フィルタの目詰まりがないか点検し，洗浄する。 ＊燃料パイプの折れ，破損を点検し，異常があれば交換する。	59ページ
			燃料の種類	＊ディーゼル軽油を補給する。	11ページ
	セルモータが回らない	走行クラッチペダルを踏込んでいない。	走行クラッチペダル	＊走行クラッチペダルを踏込む。 (走行クラッチペダルを踏込まないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しない構造になっています。)	16ページ
		バッテリが上がっている。	バッテリ (ホーンの音が小さい)	＊補充電する。 ＊バッテリ液を点検し，不足の場合は市販のバッテリ精製水を補給する。	56ページ
		ヒューズ又はスローブローヒューズが切れている。	ヒューズケース	＊点検し，切れている場合は予備ヒューズと取替える。 **(アンペア数に注意)** (予備ヒューズはヒューズケース内にあります。) 	68ページ
			スローブローヒューズ	＊取替える。 (エンジンルーム内のステップ側にあります。) (予備スローブローヒューズは付属部品箱に入っています。) 	68ページ

こぎ深さ自動ランプが点滅する

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊こぎ深さセンサの作動を確認する。	浮きわら，雑草が発生している	こぎ深さセンサ部	こぎ深さセンサに引っ掛かっている浮きわらや雑草を除去する。	28ページ

作物を刈取らずに押倒していく

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊刈取りクラッチレバーを切ってエンジンを止める。	刈刃や搬送部に根・株・泥・石や木片などの異物がかみ込んでいる。	刈刃部	＊刈刃部を点検し，異物があれば取除く。	——
		搬送部	＊搬送部を点検し，異物があれば取除く。	——
		刈取り駆動ベルト	＊刈取り駆動ベルトのテンションスプリングを調整する。	66ページ

株の引抜きがある

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，エンジンを止める。 ＊株の抜けた作物は根をカマで切り，直接脱こく機のフィードチェーンに供給する。	デバイダが株の根元に突込んでいる。	刈高さ調節レバー デバイダの上下調節	＊刈高さ調節レバーでデバイダが土中に突込まないように，刈高さを調節するか，少し高刈りをする。 ＊デバイダ３個の高さを揃える。	32ページ
	作業速度が速すぎる。	副変速レバー	＊倒伏ほ場での作業速度は**“低速”**で行なう。	35ページ
	刈刃が切れない。	刈刃	＊刈刃と受刃のすき間を調節する。 ＊受刃の研摩。	69ページ

ビーと連続ブザーが鳴る

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，エンジンを止める。	供給搬送が詰まっている。または，フィードチェーンへのバトンタッチ部で搬送が詰まっている。	供給搬送部 フィードチェーンへのバトンタッチ部	＊供給搬送部，フィードチェーンへのバトンタッチ部にわらが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取除く。詰まりは**“搬送詰まり警報と処置ラベル”**の指示の通り取除く。	50ページ

ビービーと断続ブザーが鳴る

すぐにすること		原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，イージーチェッカをみる。 **重　要** **＊ブザーが鳴ったままで作業を続けるとトラブルの原因になります。**	もみランプがついている。	ホッパが満杯。	もみ袋	＊もみ袋を交換する。 ＊ホーンスイッチを押し続けると，もみブザーが停止します。（ホッパが満杯になる前にもみ袋を交換する。ブザーを停止させたまま作業を続けるとトラブルの原因になります。）	43ページ
	2番警報ランプがついている。	こぎ室，1番スクリュ，2番スロワなどに詰まりがある。	こぎ室 1番スクリュ 2番スロワ筒	＊走行クラッチペダルをいっぱい踏んでエンジンを止めずに所定の回転数になるまで待つ。 ＊エンジンが止まったときは刈取り，脱こくクラッチレバーを**“切”**にして，こぎ室，1番スクリュ，2番スロワ筒などに詰まりがないか点検し，詰まりがあれば取除く。	36ページ 55,56ページ

ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる

＊エンジン自動停止装置が働いている。

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
＊刈取り，脱こくクラッチレバーを**“切”**にする。 ＊主変速レバーを**“N”**(中立)にする。 ＊メインスイッチを**“切”**にする。	フィードチェーン終端が詰まっている。	搬送部	＊搬送部(フィードチェーンの終端部，カッタの入口部)にわらが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取除く。 フィードチェーンの詰まりは，レール台を開放して取除く。	——
	カッタ部が詰まっている。	カッタ部	＊カッタの刃が摩耗していないか点検し，摩耗している場合は交換する。	72ページ
	結束機をつけたときは，結束ミスが出ている。	結節部 結束ひも	＊結節部にひも，わらが巻付いていないか点検し，巻付いていれば取除く。 ＊ひもがなければ補充する。	——
	排わら搬送チェーンが詰まっている。	搬送部	＊搬送部（フィードチェーン部，排わらチェーンのバトンタッチ部 カッタの入口部） にわらが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取除く。 フィードチェーンの詰まりは，こぎ胴をオープンして取除く。	——

こぎ残りがでる

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止し，搬送部にある作物を流しきる。	こぎ深さが浅い。	こぎ深さ手動スイッチセンサアーム	＊センサアームの調節で，脱こく機入口の**“こぎ深さ指示ラベル”**の指示位置に穂先を合わせる。	27,39ページ
	エンジンの回転数が低い。	回転計	＊回転を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。	36ページ

もみの飛散が多い

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，搬送部にある作物を流しきる。	エンジンの回転数が高い。	回転計	＊回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。	36ページ
	トウミ風力調節が**“強”**になっている。	トウミ風力調節	＊トウミ風力調節ノブを**“弱”**の方へ調節する。	37ページ

選別が悪くなった

現象 ＼ 作物の種類	六条大麦・裸麦・小麦	ビール麦	稲
〔麦〕 ＊のげが取れない。 ＊稃が取れない(脱皮しない)とき。 〔稲〕 ＊穂切れが発生するとき。 ＊小枝梗が多い。	①規定回転数を守る(回転数の指針は太い緑線) ②処理調節を**"標準"→"閉"**にする。	＊回転計の指針を細い緑線に合わせている場合は，太い緑線に合わせ直す。 (通常は細い緑線に合わせたほうが発芽率がよい。)	①規定回転数を守る。 (回転計の指針は太い緑線) ②処理調節を**"標準"→"閉"**にする。
＊切りわら，ごみが入るとき。	①規定回転数を守る。(回転計の指針は太い緑線) ②トウミの風力調節を**"強"**にする。 ③選別調整板を**"標準"→"右"**にする。 ④能率をできるだけ上げる。	①規定回転数を守る。 ②トウミの風力調節を**"強"**にする。 ③選別調整板を**"標準"→"右"**にする。 ④能率をできるだけ上げる。	①規定回転数を守る。 ②トウミの風力調節を**"強"**にする。 ③能率をできるだけ上げる。
＊こく粒の傷みが多いとき。	①規定回転数を守る。(回転計の指針は太い緑線) ②処理調節を**"閉"→"標準"**にする。 **重要** **＊水分が30%以上のときは，調節しても，穀粒を傷めるときがありますので，できるだけ早刈りせず，適当な時期まで待って，刈取り作業をしてください。**	＊回転計の指針を太い緑線に合わせている場合は，細い緑線に合わせ直す。	①回転計の指針を太い緑線に合わせている場合は，細い緑線に合わせ直す。 ②処理調節を**"標準"**に合わす。 ③シーブケース補助を外す。

わらが切れなくなった

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
＊刈取り作業をやめ，エンジンを止める。	カッタの刃が切れない。	カッタの刃	＊新しい刃と交換する。	72ページ
	こぎ深さが深くなりすぎている。	センサアーム	＊センサアームを調節して，脱こく機入口の**"こぎ深さ指示ラベル"**の指示の位置に穂先を合わせる。	27, 39ページ

付　表

主要諸元

商品名			R_1-111			R_1-121A	
区分			K〔W〕	D〔W〕	SWK	K〔W〕	D〔W〕
機体寸法	全長(mm)		2685				
	全幅(mm)		1480				
	全高(mm)		1600		1665	1600	
	質量(kg)（WET，カッタ付）		716〔W730〕		792	735〔W749〕	
エンジン	名称		Z482-C			Z482-C-1	
	形式		水冷4サイクル立形ディーゼル				
	総排気量 L(cc)		0.479(479)				
	出力/回転速度 kW(PS)/min^{-1}(rpm)		5.7(7.7)〔7.7(10.5)〕/3000			6.3(8.5)〔8.5(11.5)〕/3200	
	使用燃料/タンク容量(L)		ディーゼル軽油/7.0				
走行部	クローラ中心距離(mm)		654〔704〕		750	654〔704〕	
	クローラ幅×接地長(mm)		250×950〔330×950〕		400×895	250×950〔330×950〕	
	平均接地圧 MPa(kgf/cm^2)		0.015(0.151)〔0.011(0.116)〕		0.011(0.111)	0.015(0.155)〔0.012(0.119)〕	
	最低地上高(mm)		130		187	130	
	変速方式		ギヤシフト			油圧シフト	
	走行速度(m/sec)	前進	(1速)：0.24，(2速)：0.36，(3速)：0.41			（低） 0.24 0.33 0.43	
			(4速)：0.62，(5速)：0.76，(6速)：1.16			（中） 0.38 0.52 0.68	
						（高） 0.93 1.29 1.66	
		後進	0.32 0.48			0.24 0.38 0.93	
	湿田適応性〔足沈下量〕(cm)		6〔15〕		25	6〔15〕	
刈取部	刈幅(mm)		750～800				
	刈取条数(条)		2				
	刃幅(mm)		700				
	適応作物範囲(全長)(mm)		550～1200				
	倒伏適応性(度)		追刈り：85度以下，向刈り60度以下				
脱こく部	脱こく方式		下こぎ単胴軸流式				
	こぎ胴	径×幅(mm)	390×400				
		回転数 min^{-1}(rpm)	510				
	受あみ		樹脂				
	選別方式		揺動，圧風，全幅吸引				
	2番還元方式		スロワ方式				
	メンテナンス	こぎ室受あみ工具なし脱着	○				
		1番,2番受樋オープン	○				
		縦スクリュ接続筒オープン	○				
		こぎ胴フルオープン	○				
こく粒取出し部	ホッパ容量(口数+袋)		2(前後)+1.5			2(前後)+2	

● この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。　　△……オプション

商品名			R_1-111			R_1-121A	
区分			K〔W〕	D〔W〕	SWK	K〔W〕	D〔W〕
わら処理部	カッタ(切断長とオープン有無)		50，35(有)				
	カッタ結束機(オープン有無)		△(無)		×	△(無)	
	ドロッパ		△				
	立体放出		△				
	束寄せ装置		△				
	単体結束機(オープン有無)		△(無)				
作業能率(分/10a)			53～137			49～137	
諸装置	自動制御	こぎ深さ制御	○				
		電動式AFC手動操作	○				
		方向制御	×	○	×	×	○
		自動エンジン停止	○				
	警報装置	水温警報	○				
		油圧・チャージ	○				
		供給詰まり警報	○				
		2番詰まり	○				
		もみ満杯	○				
		排わら詰まり	○				
	グラフィックモニタ		○				
	集中注油		○				
	もみブザー停止スイッチ		○(手動)				
	即熱式グロー		○				
	パワーステ(クラッチ,ブレーキ)		○				
	供給レールオープン		○				
	エンジンルームオープン		○				
	スイスイデバイダ		△				

● この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。　　△……オプション

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊保証書	1
＊取扱説明書	1
＊本機カバー	1
＊もみ袋	2
＊スタータキー	2
＊スローブローヒューズ	1

＊工具	
10－12スパナ	1
12－14スパナ	1
17－19スパナ	1
⊕⊖ドライバ	1
プライヤ	1
油差し	1
じょうご	1
延長パイプ	1
工具袋	1

特別付属品（別売）

■スイスイデバイダ

品　番	品　名
58120－00000	RM-11スイスイデバイダ

■50mm 切断カッタ

品　番	品　名
57775－00000	SR_1-121標準カッタ

■35mm切断カッタ

品　番	品　名
57776－00000	SSR_1-121スーパカッタ

■カッタ結束機

カッタ作業，結束作業、1台2役。
稈長・こぎ深さが変化しても，結束位置は株元よりほぼ一定の位置を結びます。また，株揃い寄せ装置もついています。

品　番	品　名
57974－00000	SKR_1-121Nカッタ結束機

■作業灯

脱こく入口ともみ袋部を照明する作業灯です。

品　番	品　名
52166－92101	ランプ，アッシ(サギョウトウ)

■単体標準結束機

かん長・こぎ深さが変化しても，結束位置は株元よりほぼ一定の位置を結びます。また，株揃い寄せ装置もついています。

品　番	品　名
57177－00000	KR_1-121N単体標準結束機

■立体放出装置（ストンパ）

穂先側で結束し，株元を大きく広げながら，立体着地させます。

品　番	品　名
57814－00000	R31立体放出装置

■簡易ドロッパ

品　番	品　名
57255－00000	DR_1-121Kドロッパ

■寄せ装置

結束した束を刈取条に横並べして放出します。

品　番	品　名
57855－00000	Y3-B寄せ装置

■結束ひも

◆小径ひも

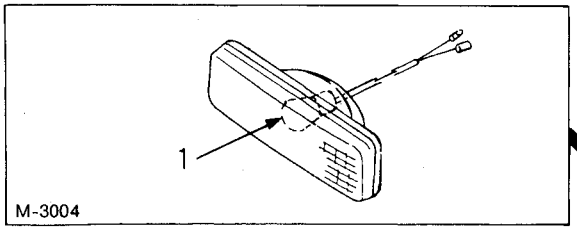
品　番	品　名
50080－9441－1	ヒモ(ジュート・テザック)
50080－9442－1	ヒモ(ジュート・コイズミ)
50080－9421－1	ヒモ(ハッポウ・テザック)
50080－9422－1	ヒモ(ハッポウ・コイズミ)
50080－9423－1	ヒモ(ハッポウ・ツカサ)
50080－9424－1	ヒモ(ハッポウ・ダイニチ)

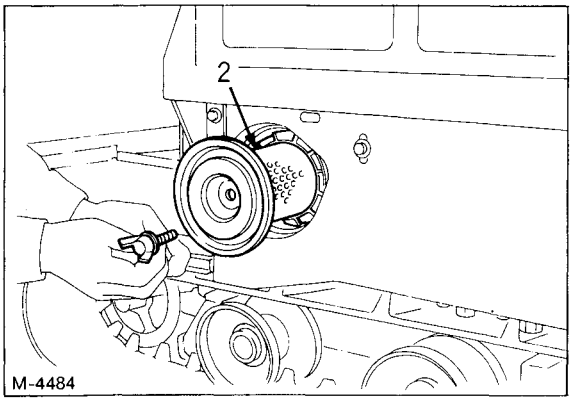
◆大径ひも

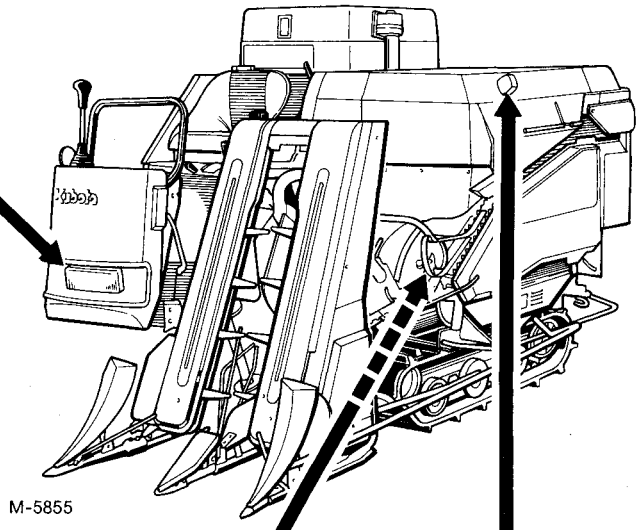
品　番	品　名
57961－9441－1	ヒモ(ジュートダイケイ・テザック)
57961－9421－1	ヒモ(ハッポウダイケイ・テザック)
57961－9424－1	ヒモ(ハッポウダイケイ・ダイニチ)

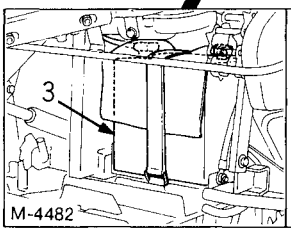
主な消耗部品

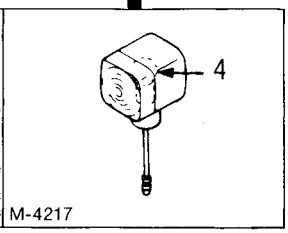
■本機部



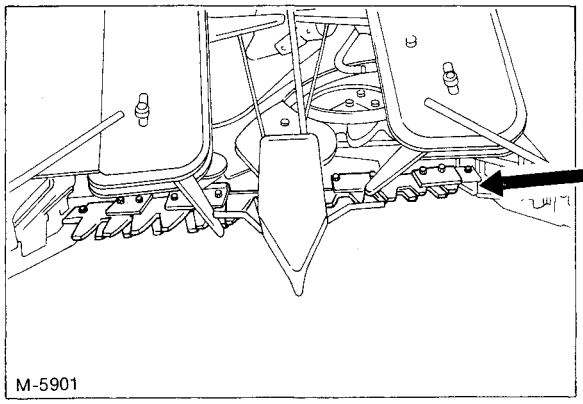


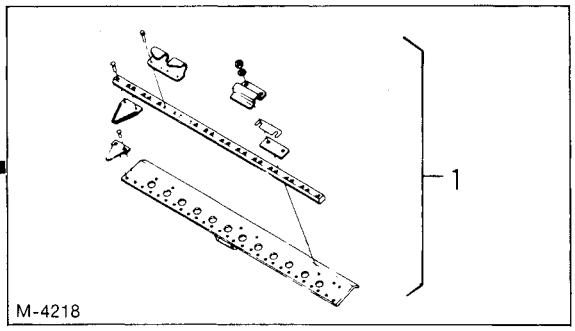




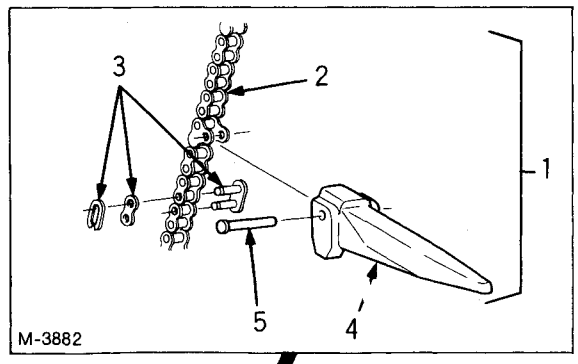


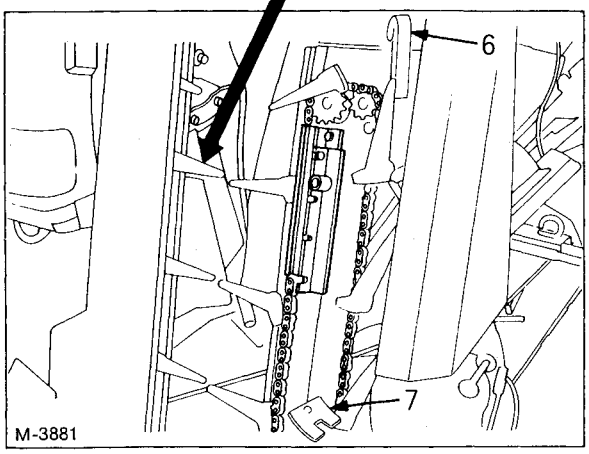
図番	品　　名	品　　番	個数
1	ランプバルブ (ヘッドランプ用)	56713-4172-0	1
2	エレメントアッシ	52300-2578-0	1
3	バッテリ	56811-4111-0	1
4	電球 (ウインカランプ用)	38430-3431-0	2



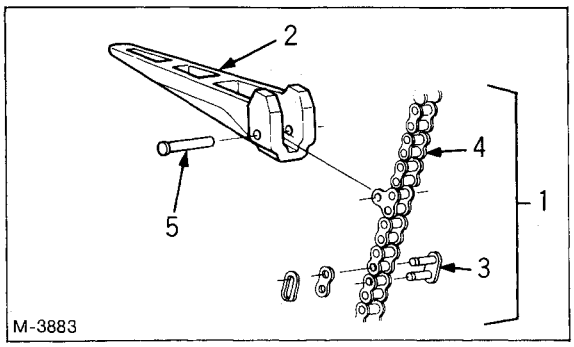


図番	品　　名	品　　番	個数
1	刈刃アッシ	52170-5820-3	1

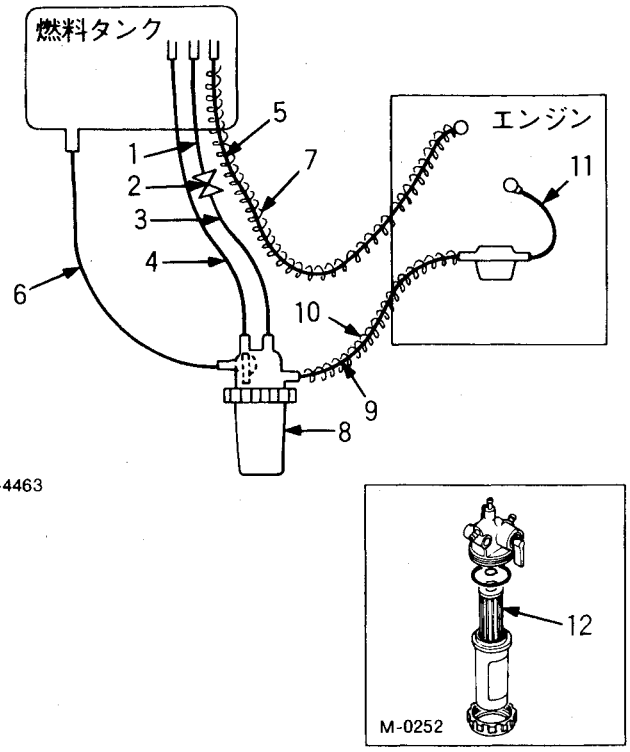




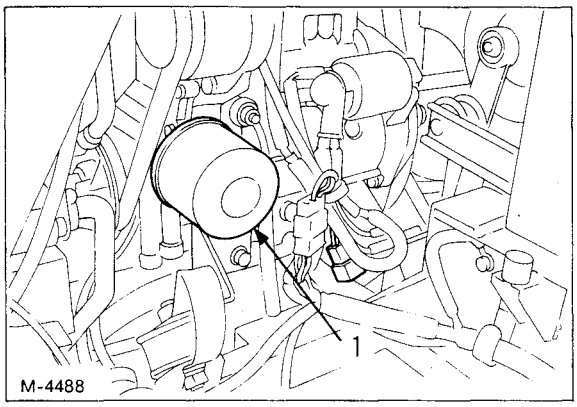
図番	品　　名	品　　番	個数
1	チェーンアッシ(引起し)	52170-4601-0	2
2	チェーンサブアッシ(引起し)	52170-4630-0	2
3	415チェーン継手	55411-4644-0	2
4	引起し爪	55411-4642-5	20
5	引起し爪ピン	55411-4643-0	20
6	緩衝ゴム	52300-5315-0	2
7	爪起しゴム	52300-5314-0	2



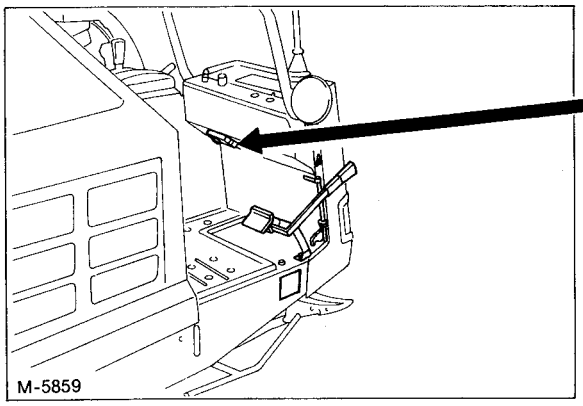
図番	品　　名	品　　番	個数
1	穂先搬送チェーンアッシ	55411-6350-0	1
2	搬送爪	55411-6362-0	8
3	415チェーンツギテ	55411-4644-0	1
4	穂先チェーンアッシ	55411-6360-0	1
5	穂先爪ピン	55411-6363-0	8



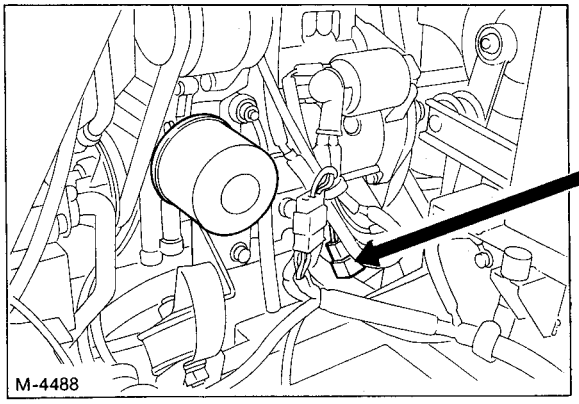
図番	品　　名	品　　番	個数
1	フューエルチューブ	09661-40575	1
2	ジェットスタートコックアッシ	14311-60504	1
3	フューエルチューブ	09661-40150	1
4	エア抜きパイプ	59460-2574-2	1
5	オーバフローパイプ	59460-2573-0	1
6	フューエルパイプ1	59460-2582-2	1
7	保護スプリング1	59460-2579-2	1
8	フィルタ,アッシ(フューエル)	14911-4301-5	1
9	フューエルパイプ2	59360-2577-0	1
10	保護スプリング2	59360-2581-2	1
11	フューエルパイプアッシ	15261-4201-0	1
12	エレメントアッシ	15231-4356-0	1

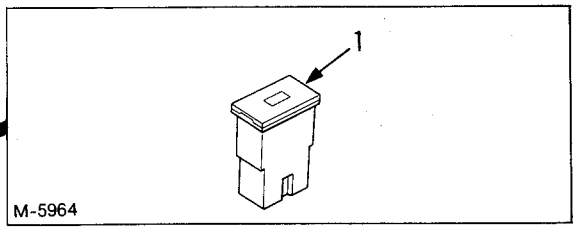


図番	品　　名	品　　番	個数
1	エンジンオイル フィルタカートリッジ	15841-3243-0	1

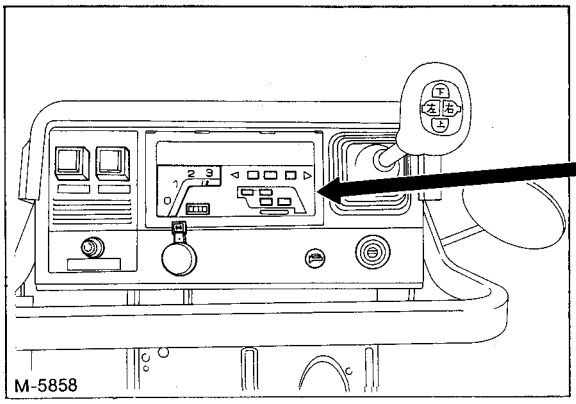


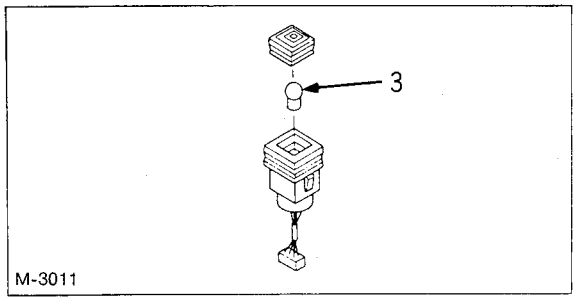
図番	品　　名	品　　番	個数
1	20Aオートヒューズ	48100-5589-0	2
2	15Aオートヒューズ	52200-4162-0	1
3	10Aオートヒューズ	48100-5588-0	2

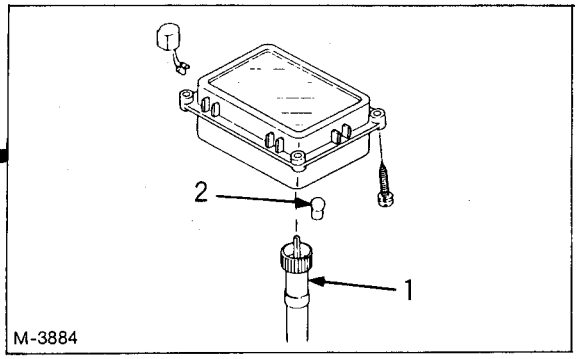




図番	品　　名	品　　番	個数
1	スローブローヒューズ	34670-34531	1



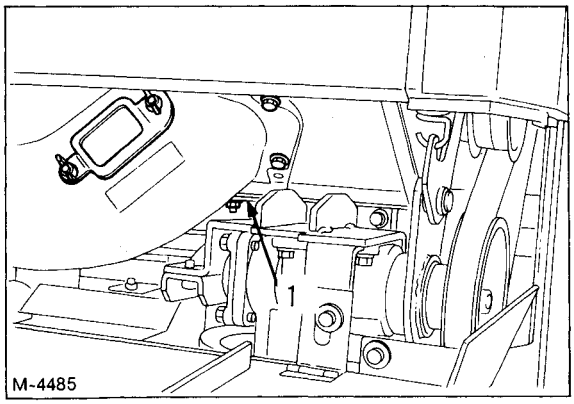


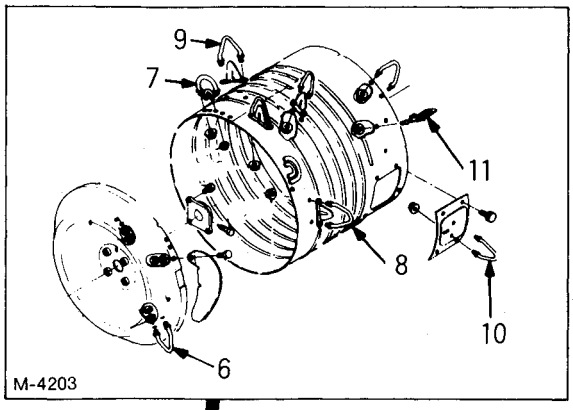


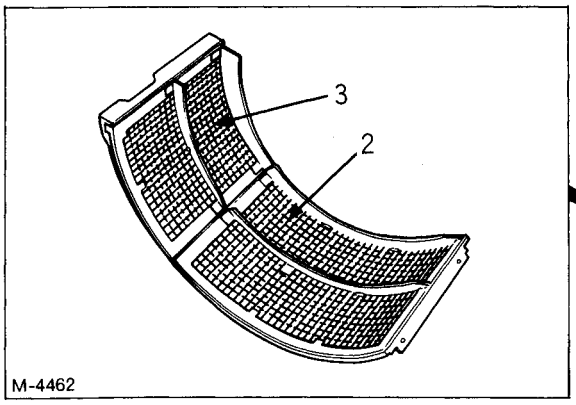
図番	品　　名	品　　番	個数
1	メータケーブル	52300-4159-0	1
2	バルブ (イージーチェッカ用)	52300-4142-0	7
3	ランプバルブ (ランプ付スイッチ用)	56713-9516-0	※2

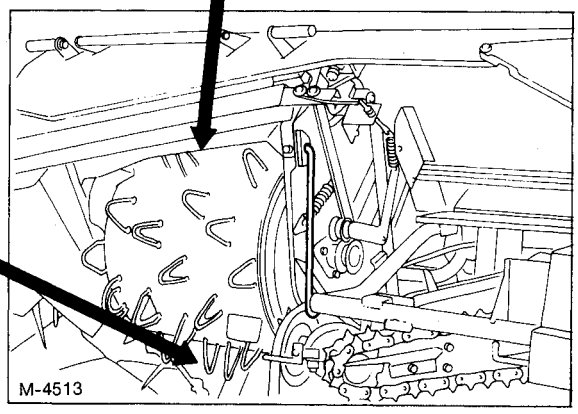
※D仕様…2個，K仕様…1個

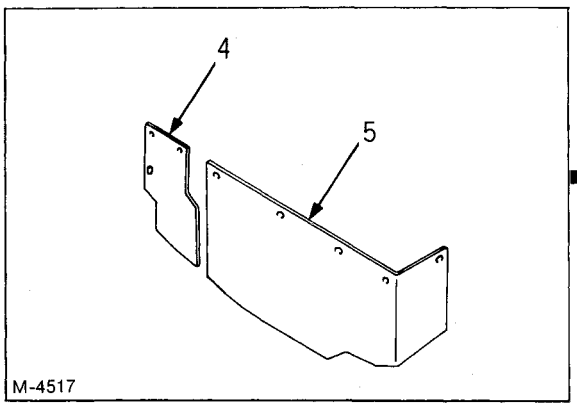
■脱こく部

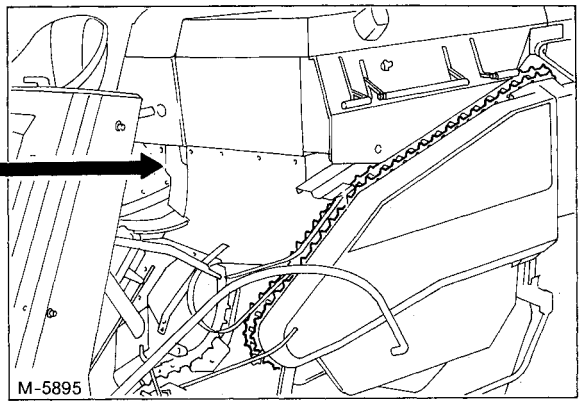






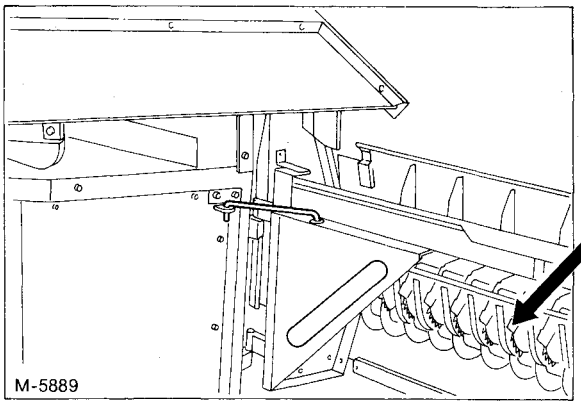


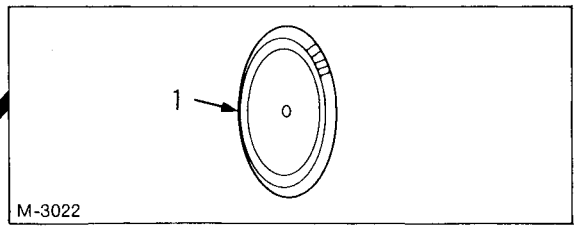




図番	品　　名	品　　番	個数
1	ワラ切刃	53567-1319-0	3
2	コンケーブ(1,ジュシ)	53525-9143-2	1
3	コンケーブ(2,ジュシ)	53525-9144-3	1
4	ハンプ(1,ヒサンボウシ)	53500-6115-0	1
5	ハンプ(2,ヒサンボウシ)	53500-6116-0	1
6	ダイ１セイソシ	53582-7212-0	4
7	ダイ３セイソシ	53582-7214-0	4
8	ダイ１ホキョウシ	53582-7216-0	4
9	ダイ２ホキョウシ	53582-7217-0	4
10	ナミハ	53582-7219-0	32
11	ソウジンハネ	53567-2149-4	4

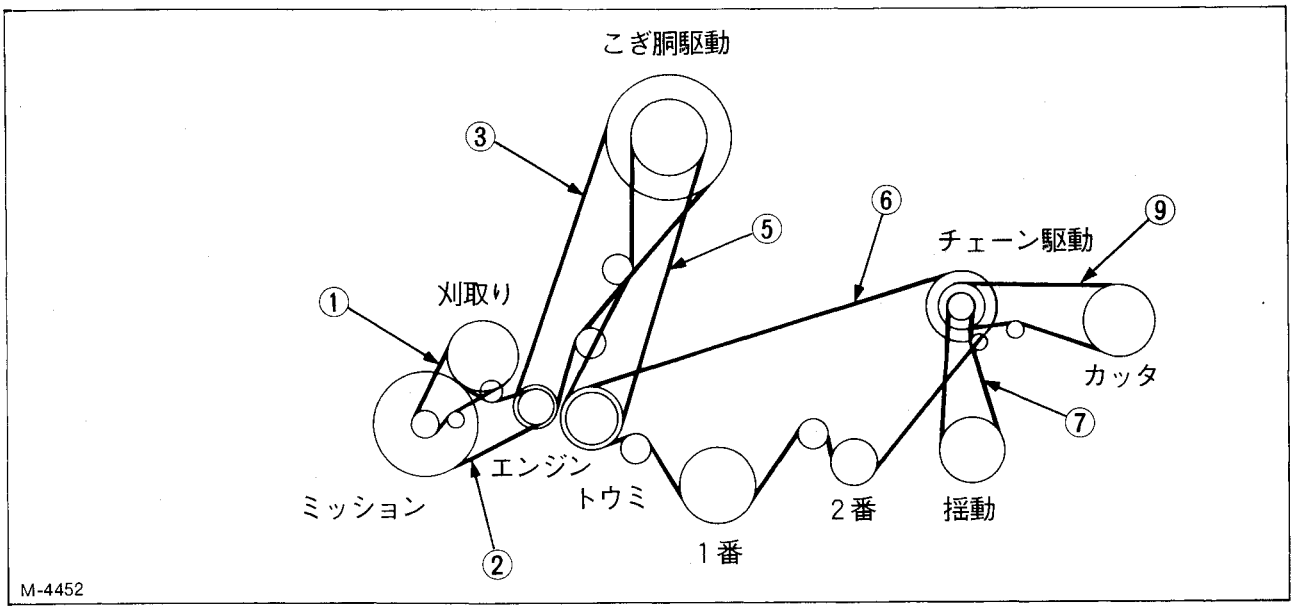
■カッタ部

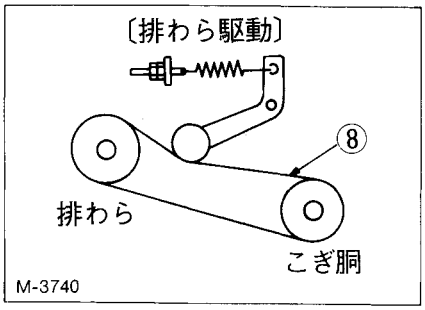


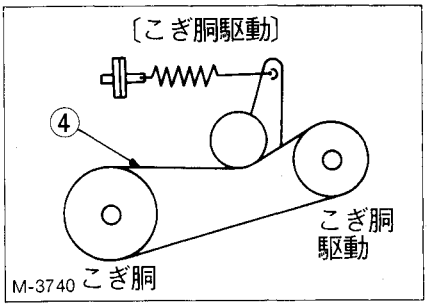


図番	品　名	品　番	個　数	
			SR_1-121	SSR_1-121
1	セツダンバ(130)	57775-2223-0	16	26

■ベルト関係







	図番	品　名	品　番	個数
本　機	1	Vベルト(A31)〔R_1-111〕	52140-1275-3	1
		Vベルト(A29)〔R_1-111SWK〕	52144-1275-3	1
		Vベルト(A30)〔R_1-121A〕	52170-1275-3	1
	2	Vベルト(B39)〔R_1-111〕	52146-1145-0	1
		Vベルト(B41)〔R_1-121A〕	52170-1145-2	1
	3	Vベルト(C78)〔R_1-111〕	52170-1215-2	1
		Vベルト(C78)〔R_1-121A〕	52170-1215-2	1
脱こく	4	ベルト(C51)	53500-1588-0	1
	5	ベルト(B71)	53500-1581-0	1
	6	Vベルト特B102	53567-6512-2	1
	7	ベルト(A38)	53500-2694-0	1
	8	Vベルト特B33	53567-6513-2	1
カッタ	9	Vベルト特B51	57775-5111-0	1

クボタ純オイル

オイルは クボタ純オイル をお使いください

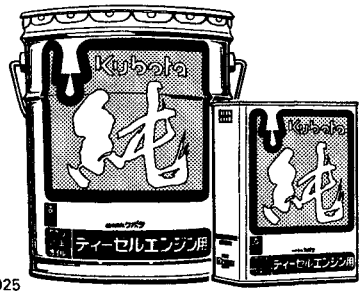
オイルはコンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

お買い求めは，販売店又はJA農協へご用命ください。

●エンジンには…

■クボタ純オイル

D30又はD10W30

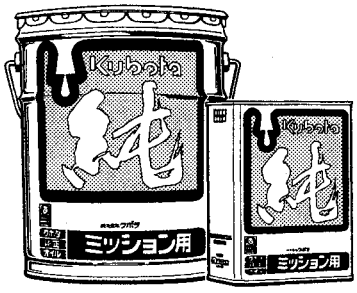


Z-1025　20ℓ　4ℓ

●脱こく機，結束機には…

■クボタ純オイル

M90



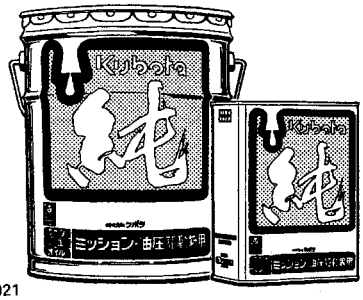
Z-1023　20ℓ　4ℓ

●オイルタンク（HST）には…

■クボタ純オイル

NEW・UDT

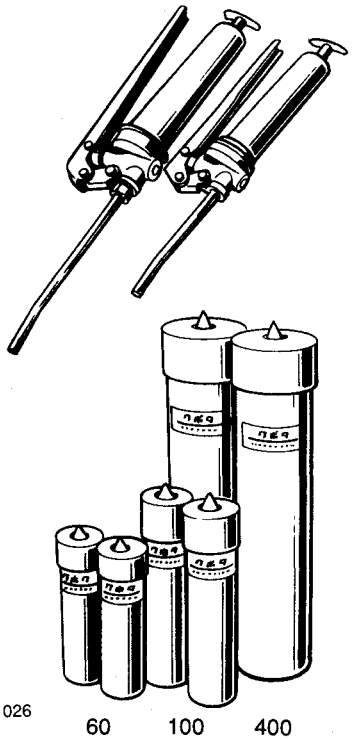
（ミッション・油圧兼用）



Z-1021　20ℓ　4ℓ

●グリースアップには…

■クボタスペアグリース



Z-1026　60　100　400

ラットガード

ラットガード クボタ純正品

ネズミよけスプレー塗料

品　番	品　名
07909-24590	ラットガード

■ネズミよけ塗料は…

＊機械の配線コード，ベルト，管，ホースなどへ
＊ネズミの巣となりそうなところへ
＊かじられたくないものを保管するカバー・袋・箱・ケースなどへ
＊家具・建具・調度品などへ

■ネズミよけ塗料の効果的なご使用は…

＊ネズミが物をかじる場合の習性は，かどの部分からかじり始めます。決して平面部分からかじり始めることはありませんので，かどの部分を重点的に**ネズミよけ塗料**を塗布してください。
＊電線・管等の断面積の円形のもの，又は細いものは２～３cmの距離からノズルを軽く押えながら全体的に塗布してください。
＊ネズミの通路を防ぐ場合は，ウエス・紙などでフタをし，その上から**ネズミよけ**塗料で塗布してください。
＊ネズミの巣となりそうなところへは，その周辺から中心に向って，厚めに**ネズミよけ**塗料を塗布してください。

■ネズミよけ塗料の適用範囲は…

＊ネズミはもちろんのこと，モグラ，イタチ，ウサギ，鹿などの動物にも効果があります。

■塗布後の有効期間は…

＊塗布する厚み，場所などの条件により有効期間は異なりますが，容器に表示の量(１カンで2.8㎡)を使用した場合，次の効果があります。

	条件のよいところ	標　準	条件の悪いところ
味覚効果	1.5年~2年	1年~1.5年	6ヵ月~1年
臭気効果	8ヵ月~1年	6~8ヵ月	3~6ヵ月

※条件の悪いところは，
直射日光の当たるところ。風雨にさらされやすいところ。湿気の多いところなどです。
※条件の悪いところでは，容器に表示の量より厚めに塗布してください。有効期間が長くなります。

M-1027　420mℓ

注　意

＊ネズミよけ塗料は，殺鼠剤ではありません。ネズミにかじられそうなところへ塗布することにより，ネズミの害から守るための製品です。
＊ご使用に際しては，製品に記載の注意事項を守ってください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

R_1-111(SWK),121A
AA．☆．12−12．10．AK

株式会社クボタ

本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
株式会社クボタアグリ東北				
秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番 52166－8542－5

Kubota